

伊丹市埋蔵文化財調査報告書第27集

兵庫県伊丹市

有岡城跡発掘調査報告書Ⅺ

—第65次調査—

2003年3月

伊丹市教育委員会

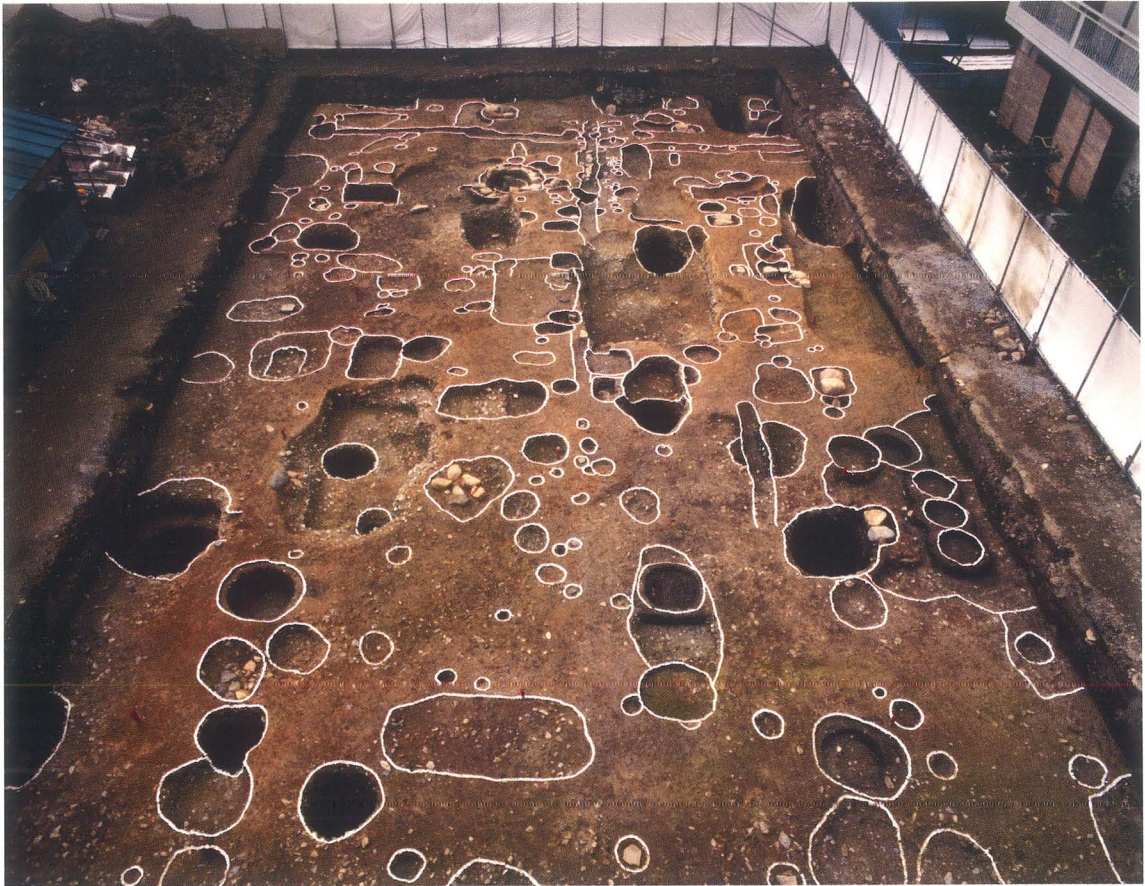
兵庫県伊丹市

有岡城跡発掘調査報告書Ⅺ

—第65次調査—

2003年3月

伊丹市教育委員会



1. 調査区全景 東より



2. 竈 西より



1. 井戸8出土遺物



2. 井戸10出土遺物

序

伊丹の地は、伊丹台地と武庫川・猪名川によって形成された沖積平野から構成されています。

猪名野の中央に位置し、悠久の歴史を有する街で、先人の生活の足跡を偲ばせる数多くの文化財が存在しています。

「豊かな生活空間 人間性あふれる成熟社会をはぐくむ 市民自治のまち」これは、第4次総合計画基本構想で示された伊丹市の将来都市像です。

先人から受け継いだ、歴史と文化に富んだ伊丹のまちを、市民のみなさんの「参画」と「協働」によって、さらに魅力と活力に満ちた住みよいまちを目指しているところです。

私たちが未来に向かって大きく前進していくためには、過去から現在に至った道程を見究めることが大切です。

わが国城郭史上、初めて周囲に土塁と堀とを廻らした築城構造の有岡城跡と江戸時代初期から酒造業で発展した伊丹郷町遺跡は、本市発展の基礎となったかけがえのない貴重な文化遺産です。

埋蔵されている多くの遺跡を調査し、記録・保存していくことは、現在に生きる私たちの使命でもあります。

昭和63年（1988）8月1日から9月15日、約1カ月半にわたる現地調査と2カ年余の整理作業を実施し、ここに、その調査成果を報告書として刊行することになりました。

今回の調査にあたって全面的なご協力を賜りました、大阪経済法科大学村川行弘教授に、衷心より敬意と感謝を申しあげ、刊行のことばといたします。

平成15年3月

兵庫県伊丹市教育委員会
教育長 脇本 芳夫

例 言

- 1 本書は、兵庫県伊丹市伊丹1丁目を中心とする、有岡城跡・伊丹郷町遺跡内の発掘調査のうち、第65次調査の成果をまとめたものである。
- 2 本調査は、共同住宅建設に伴い実施した。
- 3 調査期間は昭和63年8月1日～9月15日である。
- 4 発掘調査は、宮ノ前地区埋蔵文化財調査団（団長村川行弘大阪経済法科大学教授）で実施し、整理作業及び報告書刊行までの作業は伊丹市教育委員会で実施した。
- 5 発掘調査は村川行弘団長指導のもとに小長谷正治・中井秀樹（現三田市教育委員会）が調査を担当し、田中賢人（現三田市教育委員会）・岡本英一・沢田曜一・森田幸弘がこれを補佐した。
- 6 報告書の執筆は分担して行った。執筆者の氏名は文末に記した。
- 7 整理作業は、発掘調査担当者指導のもと、伊丹市埋蔵文化財臨時職員が遺物の実測・トレースなどを行った。各作業の担当者は以下の通りである。

遺物実測	岡野理奈・三輪隆子・丸岡たかみ・吉川敬子
遺構トレース	三輪隆子
遺物のトレース	岡野理奈・丸岡たかみ
写真図版	小長谷正治・上谷浩司
遺物観察表	吉川敬子・岩田朱美
- 8 発掘調査資料及び出土遺物は伊丹市教育委員会にて保管している。

凡 例

- 1 遺構実測図は国土座標第V系を使用した。水準高は大阪湾平均海水値（O.P）を用いている。
- 2 現地の土色は、農林水産省農林水産会議事務局監修・財団法人色彩研究所監修の「新版標準土色帖」に準拠した。
- 3 遺構の挿図番号は、写真図版番号と一致させている。
- 4 土器実測図において中心線を一点破線で示しているものは、反転復元していることを表す。
- 5 遺物観察表において法量がカッコ付きのものは、復元した数値であることを表す。

参 考 文 献

- 稲原昭嘉 「明石播鉢の編年について」 『近世の実年代資料』 関西近世考古学研究会 2000年
- 上田秀夫 「14～16世紀の青磁碗の分類」 『貿易陶磁研究』 No.2 貿易陶磁研究会 1982年
- 江戸遺跡研究会編 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房 2001年
- 大橋康二 『肥前陶磁』 考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社 1993年
- 大橋康二他 『別冊太陽 実物大そば猪口事典』 平凡社 2002年
- 大橋康二他 『九州陶磁の編年』 九州近世陶磁学会 2000年
- 大橋康二他 『国内出土の肥前陶磁』 東日本の流通をさぐる 九州近世陶磁学会 2001年
- 大橋康二他 『国内出土の肥前陶磁』 西日本の流通をさぐる 第一分冊 九州近世陶磁学会 2002年
- 大平茂 「近世丹波焼播鉢の型式分類とその編年」 『下相野窯址』 兵庫県教育委員会 1992年
- 岡崎正雄他 『中尾城跡』 近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅺ 兵庫県教育委員会 1989年
- 小野正敏 「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」 『貿易陶磁研究』 No.2 貿易陶磁研究会 1982年
- 尾崎葉子・村上伸之・野上建紀 『赤絵町』 有田町教育委員会 1990年
- 川口宏海 「江戸時代の土師質土器の製作年代」 『大手前女子短期大学 大手前栄養文化学院 大手前ビジネス学院 研究集録』 第15号 大手前女子学園 1995年
- 川口宏海 「有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土の近世丹波焼製品」 『植崎彰一先生古希記念論集』 1998年
- 川口宏海 「兵庫県伊丹郷町遺跡出土の煙管について」 『大手前大学社会文化学部論集』 第1号 大手前大学 2001年
- 関西陶磁史研究会 『近世信楽焼をめぐる』 研究集会資料集 2001年
- 『千駄ヶ谷五丁目遺跡』 2次調査報告書 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会 1998年
- 財団法人古代学協会研究部編 『伊丹市口酒井遺跡-第11次発掘調査報告書-』 伊丹市教育委員会・財団法人古代学協会 1988年
- 『汐留遺跡Ⅰ』 旧汐留貨物駅跡地内の調査 東京都埋蔵文化財センター 1997年
- 菅原正明 「西日本における瓦器生産の展開」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第19集 1989年
- 武内雅人 「丸瓦製作技術からみた近世瓦の生産と流通」 『ヒストリア』 第173号 大阪歴史学会 2001年
- 田口昭二 『美濃焼』 考古学ライブラリー17 ニュー・サイエンス社 1983年
- 坪井利弘 『図鑑瓦屋根』 理工学社 1977年
- 中島由美 『古伊万里 蕎麦猪口・酒器1000』 講談社 2001年
- 中西通 『古丹波』 丹波古陶館 1971年
- 難波洋三 「徳川氏大坂城期の炮烙」 『難波宮址の研究 第九』 大阪市文化財協会 1992年
- 『日本貨幣カタログ』 1996年版 日本貨幣商協同組合
- 乗岡実 「備前焼播鉢の編年について」 『第3回中近世備前焼研究会資料』 中近世備前焼研究会 2000年
- 乗岡実 「備前焼大甕編年レクチャー資料」 『関西近世考古学研究Ⅸ』 関西近世考古学研究会 2001年
- 長谷川眞 「近世丹波系播鉢の変遷とその系譜関係」 『関西近世考古学研究Ⅷ』 2000年
- 姫路市教育委員会文化部文化課編集 『姫路の文化財-石造遺品銘文集』 姫路市教育委員会 1995年
- 福井英治編 『田能遺跡発掘調査報告書』 尼崎市文化財調査報告書第15集 尼崎市教育委員会 1982年
- 福澤邦夫 『千早赤阪の石造文化財Ⅰ』 千早赤阪村文化財調査報告書 第4集 千早赤阪村教育委員会 1994年
- 藤井直正・藤本史子他 『大坂城三の丸跡の調査Ⅲ』 大手前女子大学史学研究所 1988年
- 藤澤良祐他 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅴ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1986年
- 藤澤良祐他 『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要Ⅵ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1987年
- 藤澤良祐他 「戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品-東アジアの視野から-」 資料集 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター 2001年
- 中世土器研究会編 『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社 1995年

目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
参考文献	

第 1 章 調査の概要	1
第 1 節 調査に至る経過	1
第 2 節 遺跡の概要	1
第 3 節 調査地点の位置	3
第 2 章 調査成果	5
第 1 節 調査の方法	5
第 2 節 調査成果の概要	5
第 3 節 遺構と遺物	11
第 4 節 遺構外出土の遺物	41
第 3 章 まとめ	58

挿 図 目 次

第 1 図 遺跡位置図	2	第 18 図 井戸 6 平面・断面図	15
第 2 図 調査箇所位置図	3	第 19 図 井戸 6 出土遺物	16
第 3 図 伊丹郷町絵図	4	第 20 図 井戸 7 平面・断面図	17
第 4 図 調査区位置図	5	第 21 図 井戸 8 平面・断面図	17
第 5 図 調査区設定図	6	第 22 図 井戸 8 出土遺物 (1)	18
第 6 図 調査区全体図	7	第 23 図 井戸 8 出土遺物 (2)	19
第 7 図 土層断面図	9	第 24 図 井戸 8 出土遺物 (3)	20
第 8 図 礎石建物 1 平面・断面図	11	第 25 図 井戸 8 出土遺物 (4)	21
第 9 図 礎石 6 平面・断面図	11	第 26 図 井戸 8 出土遺物 (5)	22
第 10 図 礎石列 1 平面・断面図	12	第 27 図 井戸 9 平面・断面図、出土遺物	22
第 11 図 礎石列 2 平面・断面図	12	第 28 図 井戸 10 平面・断面図	23
第 12 図 柱穴平面・断面図	12	第 29 図 井戸 10 出土遺物 (1)	23
第 13 図 溝 5 平面・断面図、出土遺物、 溝 6 出土遺物	13	第 30 図 井戸 10 出土遺物 (2)	24
第 14 図 井戸 1 平面・断面図	14	第 31 図 井戸 10 出土遺物 (3)	25
第 15 図 井戸 2 平面・断面図、出土遺物	14	第 32 図 竈平面・断面図、出土遺物	26
第 16 図 井戸 3 平面・断面図	15	第 33 図 埋桶 1 平面・断面図、出土遺物	27
第 17 図 井戸 5 平面・断面図	15	第 34 図 埋桶 2・5・6・7・8 平面・断面図	28

第35図	埋桶 2 出土遺物	29
第36図	埋桶 3 平面・断面図	30
第37図	埋桶 3 出土遺物	30
第38図	埋桶 4 平面・断面図	31
第39図	埋桶 4 出土遺物	31
第40図	埋桶 9・10・11・12平面・断面図	32
第41図	土坑 4・5・13・16・18出土遺物	33
第42図	土坑 23・29・34・35出土遺物	34
第43図	土坑 47・53出土遺物	35
第44図	土坑 55出土遺物	36

第45図	土坑 56・57・60・62・63・65・67 出土遺物	37
第46図	土坑 70出土遺物	38
第47図	土坑 73・74・84・87・94・97出土遺物	39
第48図	土坑 125・131出土遺物	40
第49図	遺構外出土遺物 (1)	41
第50図	遺構外出土遺物 (2)	42
第51図	遺構外出土遺物 (3)	43

図 版 目 次

卷頭図版 1 - 1	調査区全景
卷頭図版 1 - 2	竈
卷頭図版 2 - 1	井戸 8 出土遺物
卷頭図版 2 - 2	井戸 10 出土遺物

図版 1 - 1	調査区全景
図版 1 - 2	調査区全景
図版 2 - 1	礎石 3
図版 2 - 2	土坑 4
図版 2 - 3	土坑 13
図版 3 - 1	土坑 18
図版 3 - 2	土坑 23
図版 3 - 3	土坑 34
図版 4 - 1	土坑 53
図版 4 - 2	礎石 4
図版 4 - 3	土坑 55
図版 5 - 1	土坑 56
図版 5 - 2	土坑 57
図版 5 - 3	土坑 60
図版 6 - 1	土坑 62
図版 6 - 2	土坑 63
図版 6 - 3	土坑 65
図版 7 - 1	土坑 74
図版 7 - 2	土坑 84
図版 7 - 3	礎石 5

図版 8 - 1	礎石 6
図版 8 - 2	土坑 125
図版 8 - 3	土坑 131
図版 9 - 1	溝 5
図版 9 - 2	溝 6
図版 10 - 1	井戸 6
図版 10 - 2	井戸 7
図版 11 - 1	井戸 8
図版 11 - 2	井戸 9
図版 12 - 1	竈
図版 12 - 2	竈
図版 13 - 1	竈内部
図版 13 - 2	竈内部
図版 13 - 3	竈内部
図版 14 - 1	埋桶 1
図版 14 - 2	埋桶 2
図版 14 - 3	埋桶 3
図版 15 - 1	埋桶 4
図版 15 - 2	埋桶 5
図版 15 - 3	埋桶 6
図版 16 - 1	埋桶 7
図版 16 - 2	埋桶 8
図版 16 - 3	埋桶 6・7・8
図版 17 - 1	埋桶 9
図版 17 - 2	埋桶 11

図版17-3	埋桶12	図版30	出土遺物 (10)
図版18-1	礎石列 1	図版31	出土遺物 (11)
図版18-2	柱穴	図版32	出土遺物 (12)
図版19-1	礎石列 2	図版33	出土遺物 (13)
図版19-2	P 3	図版34	出土遺物 (14)
図版19-3	P10	図版35	出土遺物 (15)
図版20	出土遺物 (1)	図版36	出土遺物 (16)
図版21	出土遺物 (2)	図版37	出土遺物 (17)
図版22	出土遺物 (3)	図版38	出土遺物 (18)
図版24	出土遺物 (4)	図版39	出土遺物 (19)
図版25	出土遺物 (5)	図版40	出土遺物 (20)
図版26	出土遺物 (6)	図版41	出土遺物 (21)
図版27	出土遺物 (7)	図版42	出土遺物 (22)
図版28	出土遺物 (8)	図版43	出土遺物 (23)
図版29	出土遺物 (9)		

表 目 次

表 1	遺物観察表 (1)	44	表 9	遺物観察表 (9)	52
表 2	遺物観察表 (2)	45	表10	遺物観察表 (10)	53
表 3	遺物観察表 (3)	46	表11	遺物観察表 (11)	54
表 4	遺物観察表 (4)	47	表12	遺物観察表 (12)	55
表 5	遺物観察表 (5)	48	表13	遺物観察表 (13)	56
表 6	遺物観察表 (6)	49	表14	遺物観察表 (14)	57
表 7	遺物観察表 (7)	50	表15	主要遺構の年代	59
表 8	遺物観察表 (8)	51			

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

昭和63年3月8日付けにて、共同住宅建設にともなう埋蔵文化財発掘の届出が市教育委員会に提出された。教育委員会では、この場所が有岡城跡に位置し、江戸時代でも伊丹郷町遺跡の中心部にあたることから埋蔵文化財の確認調査が必要となると判断した。事業者と協議の結果、敷地内に2m×20mのトレンチを設定し、確認調査を実施することになった。

確認調査の結果、開発対象区域内には、主に江戸時代の町屋跡が確認された。これにより、本調査について再度事業者と協議し、工事着手前に本調査を実施することが決定された。

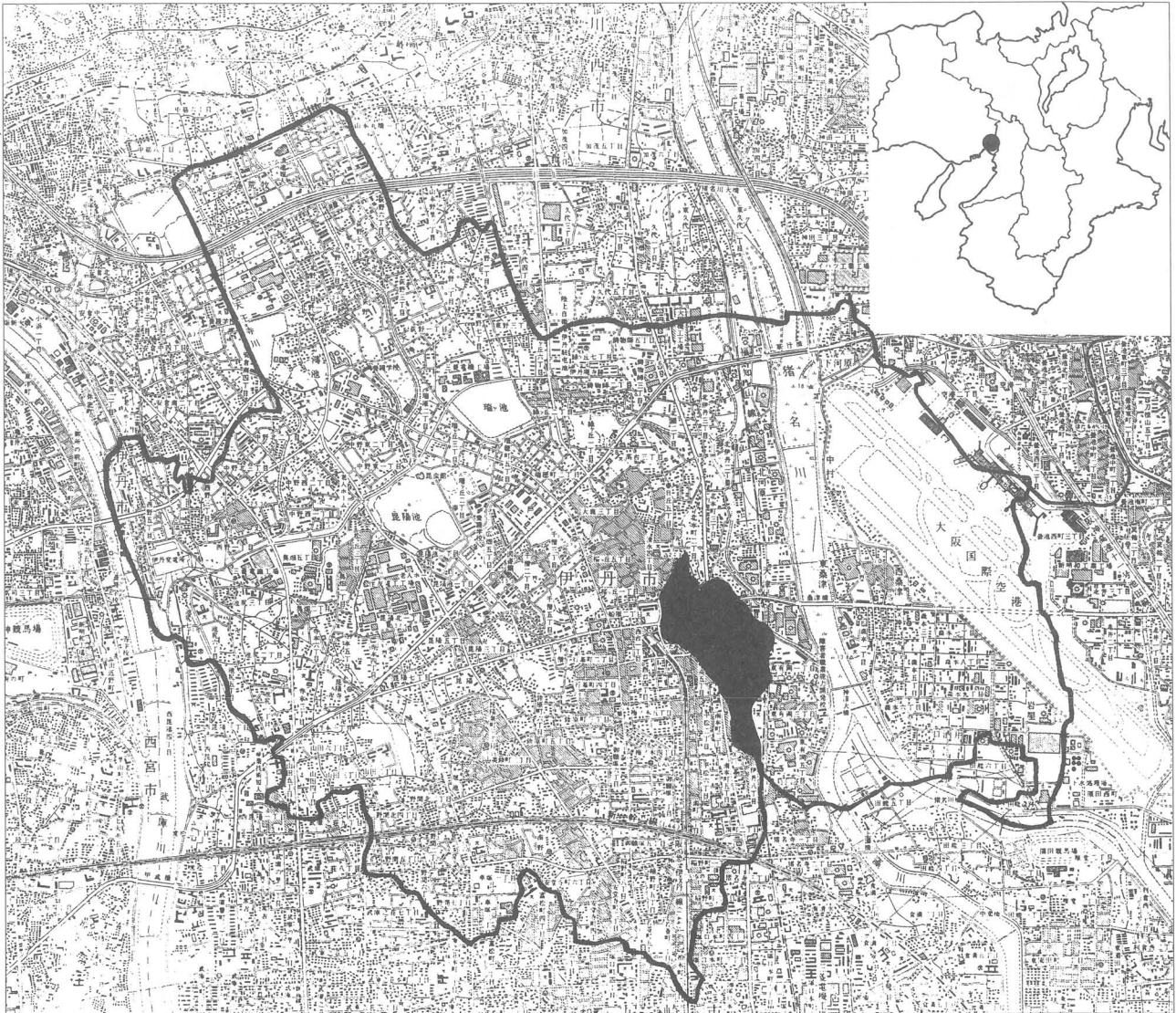
本調査に際しては、この調査が長期にわたることが予想されることと、同じ時期に別の場所で発掘調査を実施する予定があったため、当時、本市宮ノ前地区再開発事業地区内の発掘調査で実績のある宮ノ前地区埋蔵文化財調査団（団長村川行弘大阪経済法科大学教授）に委託する方向で、事業者と協議し了解を得た。発掘調査の組織は村川団長の下に、小長谷正治、中井秀樹（非常勤嘱託 現三田市教育委員会）を調査員とし、田中賢人（大阪経済法科大学学生 現三田市教育委員会）等4人を調査補助員として調査体制を整えた。

第2節 遺跡の概要

本遺跡は、中世の有岡城跡（伊丹城）と江戸時代に酒造業で栄えた在郷町の遺跡である。有岡城は古くから伊丹城と呼ばれ、その初見は南北朝時代の文和2年（1353）のことである。城主の伊丹氏は、鎌倉時代創設当初からの御家人で、初めは加藤姓を名乗っていた。「森本氏系図」（北河原森本文書所収森本文書）によれば、初代は加藤右馬允親俊で、二代後の親元から地名を取って伊丹氏となる。親元の二代後の親盛は、六波羅探題の命で守護御代官と共に守護使として兵庫関を檢分している。当時の守護使は守護の職責を代行する重要な仕事であるので、親盛の地位は国中の御家人の中でも相当なものであったと考えられる。おそらく、この親盛が活躍した鎌倉時代末には伊丹城が築城されていたものと推定される。

伊丹城がもっとも注目されるのは、室町幕府の管領細川家の内紛に巻き込まれた16世紀初頭以降のことである。細川家の対立は、細川政元が養子の澄元に暗殺されたことが端緒になり、家督を継いだ澄元に対し、一門の高国が挙兵したことに始まる。伊丹氏はかねてから細川家の被官として活動していたが、この一連の抗争では高国方に属して戦うことになる。この結果、伊丹城は再三攻撃の的となり、永正8年（1511）の澄元方の赤松義村の攻撃では持ちこたえるが、同17年（1520）には、澄元方の三好之長の激しい攻撃により落城している。しかし、大永7年（1527）の澄元の子晴元の圧倒的な攻撃に耐え、また天文18年（1549）の三好長慶の攻撃にも落ちず、「伊丹城ばかり堅固なり」と言わしめた堅城であった。その後、永禄11年（1568）に信長が足利義昭を奉じて入京すると、伊丹氏は信長方につき、芥川城の和田惟政、池田城の池田勝正とともに伊丹親興は摂津の三守護として、摂津の支配を任されている。しかしこの体制は長く続かず、池田家中で頭角を現わしてきた荒木村重によって、主君勝正が追放されて主家を乗っ取られ、次いで和田惟政、伊丹城の伊丹親興まで滅ぼして摂津一国を支配するようになる。

荒木村重は、伊丹城を居城として有岡城と改名し、摂津守護にふさわしい本格的な城造りに着手し



第1図 遺跡位置図 平成10年編集 (1/50,000「大阪西北部」)

ている。有岡城惣構えも村重によって完成されたと考えられる。この村重の支配も長くは続かず、天正6年(1578)、信長に叛旗を翻し、1年余りの籠城の末落城している。その後、信長方の池田之助が城主となって入城するが、天正11年には美濃国岐阜城に移封となり廃城となった。

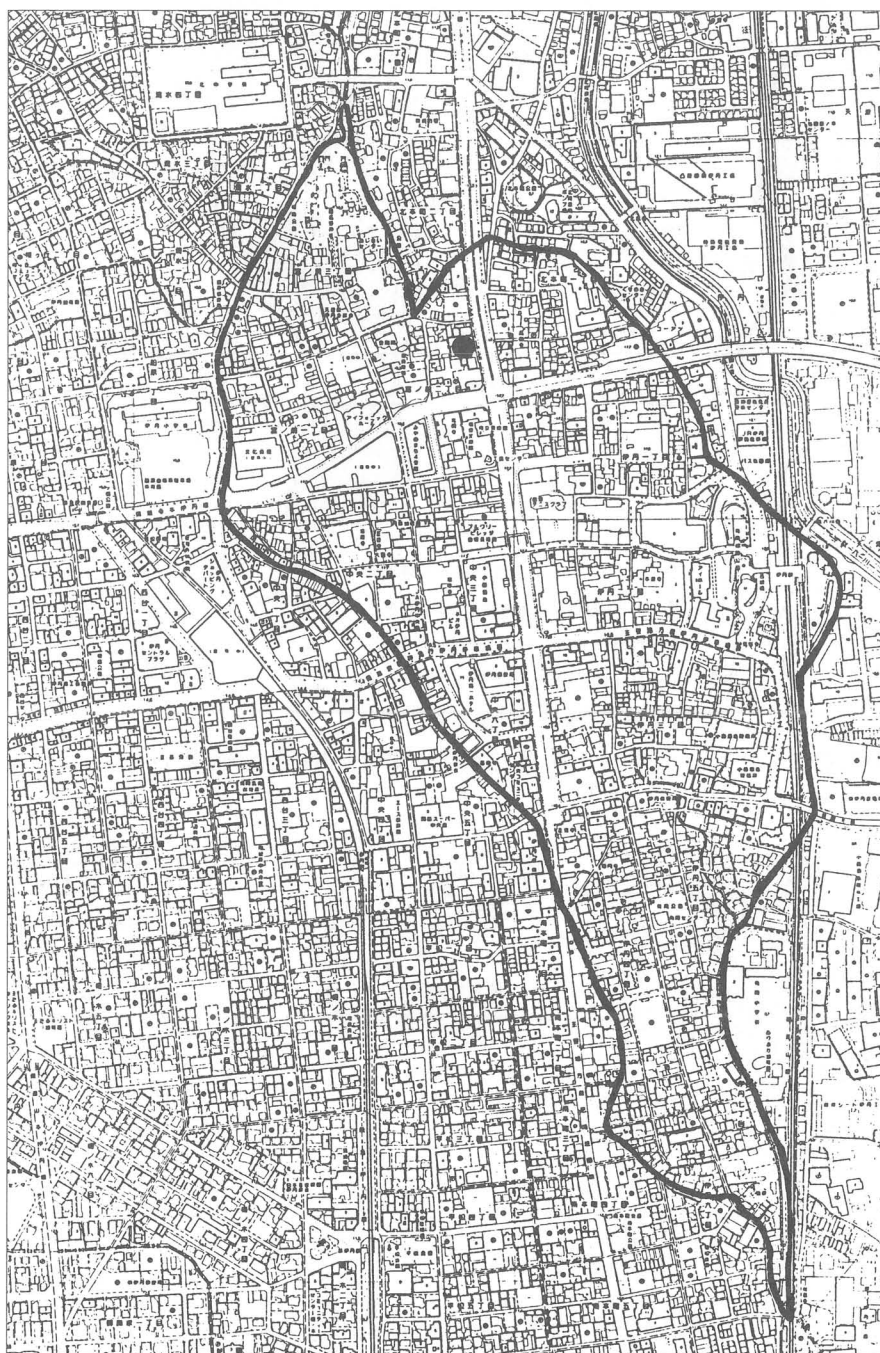
廃城後は、焼け残った城下町を中心に在郷町として発展するが、その中心は酒造業である。伊丹の酒造業は、江戸時代に入って領主近衛家の保護もあって繁栄し、江戸前期においては池田と共に銘酒の誉れ高く、元禄10年には酒造家36人、酒造高1万6400石であった。さらに正徳5年(1715)には酒造家72人、酒造高は6万石に達した。その後18世紀前半から今津や御影など灘の酒造業が台頭してくるが、良質の酒の生産地として全国にその名が知られている。伊丹の酒造業は、消費地の江戸の繁栄とともに酒造量を増やし、文化3年(1806)には20万樽を越える量の酒が樽廻船によって江戸に運ばれている。

第3節 調査地点の位置

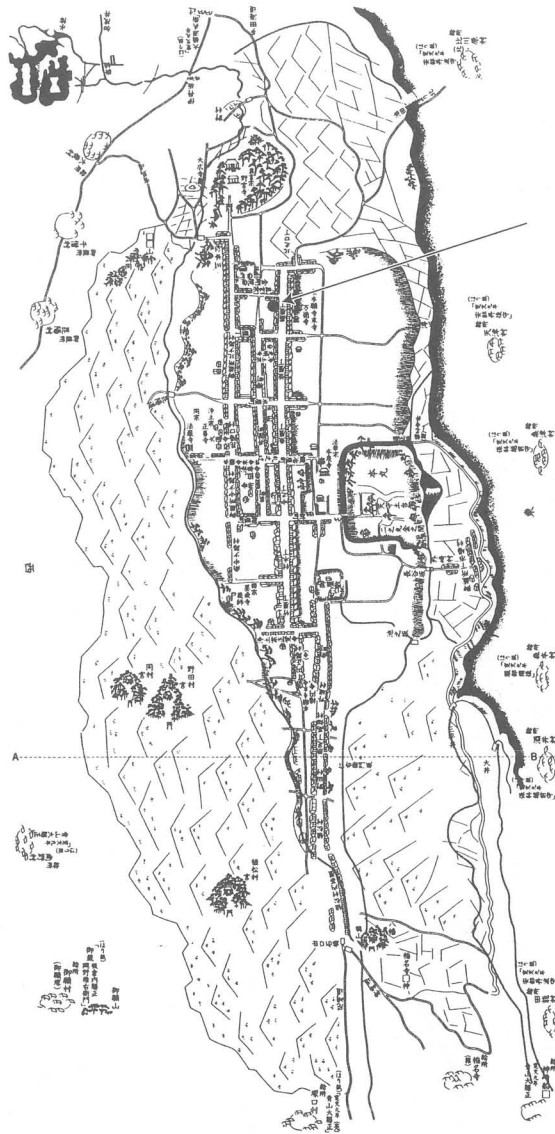
第65次調査地点は、本遺跡の中央部を南北に通る産業道路（主要地方道尼崎・池田線）に面している。この通りは有岡城当時からの街道筋で、大阪・尼崎方面からの入り口である南の鶴塚から入って町中を鉤型に曲がりながら、北の池田・多田（川西市）方面へ抜ける北之口の間にあたり、町場（城下町）を構成する基幹の通りの一つである。寛文9年伊丹郷町絵図（第3図）は、廃城後の伊丹の様子を伝える絵図である。廃城後80数年を経て、既に酒造業が町の主要産業となって町が拡大し始める頃にあたるが、まだそれでも町の東側にある旧侍町周辺には広く空地が広がっている。調査地点

を見てみると、その頃既に家並みが続いて町場を形成していることがわかる。その後、町は酒造業の発展とともに東側に広がりを見せ、幕末期の天保15年伊丹郷町分間絵図（第3図）では、旧有岡城惣構えの範囲に限なく家々が埋め尽くしている。その頃の調査地点は、綿屋町の大きな2筆の敷地にまたがっており、この筆境は、調査区の中央部を東西に延びる溝（溝5）に相当する。伊丹郷町では、このような大区画の敷地には酒蔵敷地である場合が多く、調査地点も酒蔵であったことが考えられるが、今のところ酒蔵の詳細を示す資料は発見されていない。土地の旧所有者の新田吉彦氏は、「伊丹酒造組合史」（伊丹酒造組合 昭和44年）によると、昭和8年先代の種蔵氏創業の酒造家で、酒銘「千鷹」の蔵元であった。

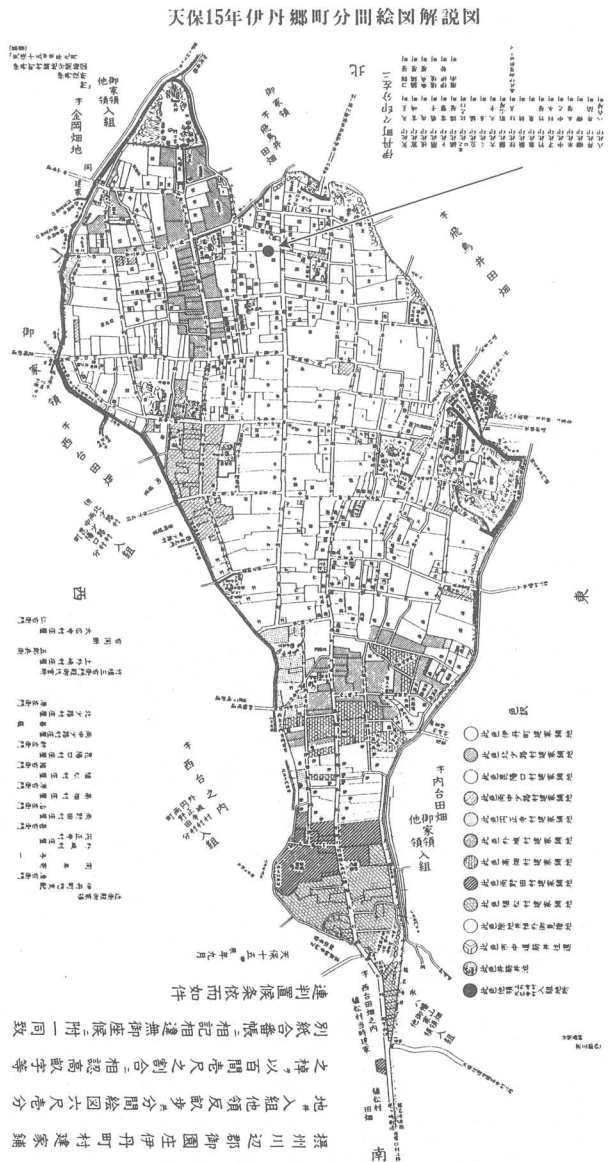
（小長谷）



第2図 調査箇所位置図 平成10年測量 (1/10,000)

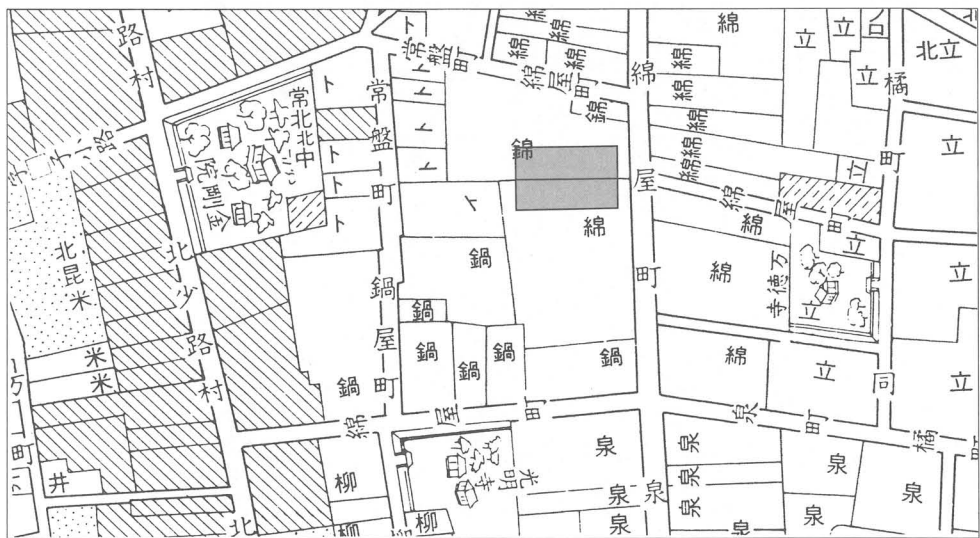


寛文9年伊丹郷町絵図解説図



天保15年伊丹郷町文間絵図解説図

天保15年伊丹郷町
文間絵図解説図 (部分)



第3図 伊丹郷町絵図 (いずれも加筆・修正)

第2章 調査成果

第1節 調査の方法

本調査に先立って行った確認調査の結果、本地点には最終の地山面より上に遺構面の存在が推測されたが、実際に重機掘削を行ってみると遺構面が全体には続いていないことがわかった。この結果から、本調査の表土掘削に際しては、全面的に地山面まで掘り下げて遺構を確認することにした。重機掘削の後、人力によって遺構の検出作業を実施し、総ての遺構を確認した。

遺構の記録は、基準点測量を基準に5m方眼の測量杭を設置して行った。遺構の図化は縮尺1/20で行った。

第2節 調査成果の概要

今回の発掘調査で検出した遺構には、多数の土坑の他に溝、井戸、埋桶、礎石、竈などがある。その総数は283基におよんでいる。遺構の時期は概ね江戸時代に該当し、その年代は江戸時代初期に遡るものは少なく、大半が17世紀後半から19世紀にかけてである。しかし、16世紀に遡る遺構や遺物の中には弥生時代中期（Ⅳ様式）の壺も含まれている。以下、遺構の種別毎にその概要を説明しておきたい。

溝

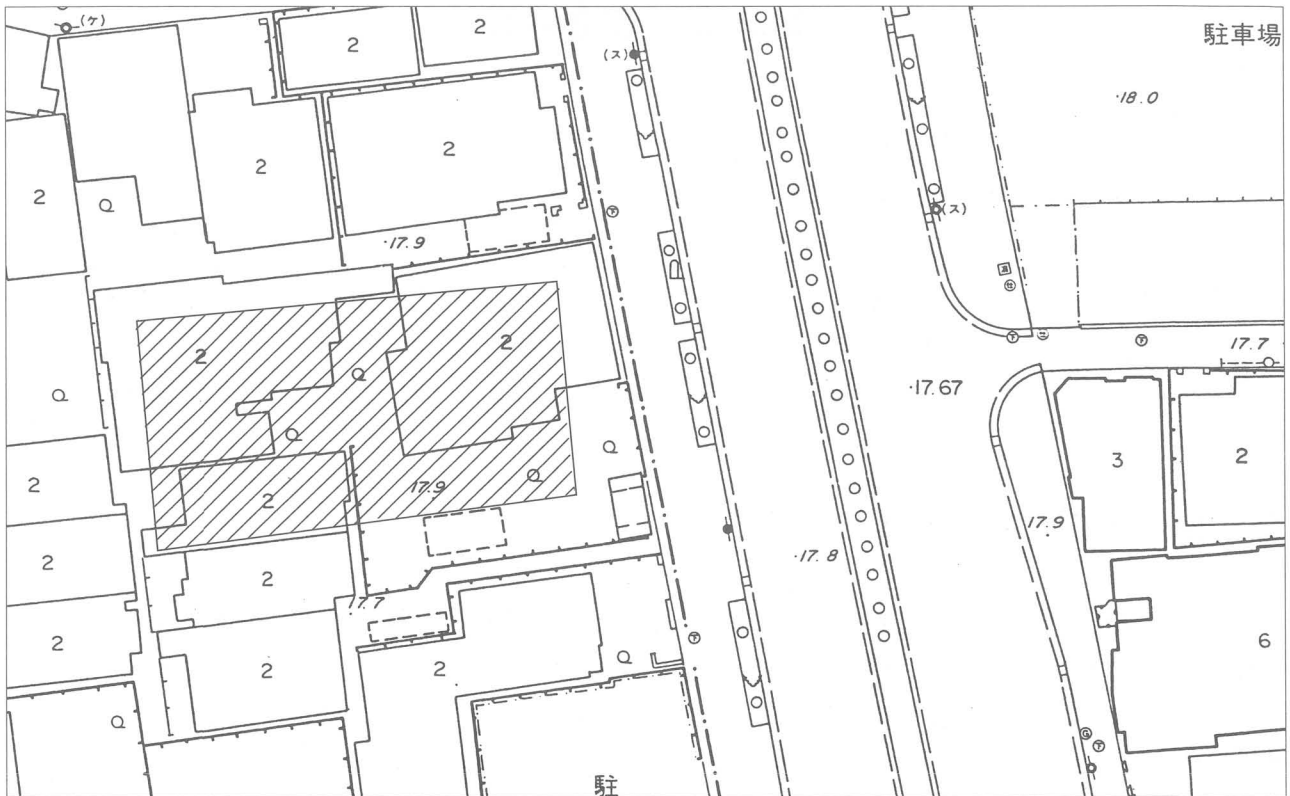
調査区の中央部を東西に延びる溝5は、調査区の西側から中央部にかけて続いているが、検出したその他の遺構はこの溝と重なるものは少ない。当地点が天保年間には大きな二つの敷地にまたがっていることは前章で述べたが、その敷地境がこの溝であると考えられる。この溝の東側延長上には、柱穴列が続いている。この敷地境は、大正4年の地籍図にも残っている。大正4年段階では、溝より北側の敷地（212番）は分筆されて小さくなっているが、逆に南側の敷地（210番）は西側の通りまで続き、その面積は3反2畝18歩の大区画に合筆されている。

礎石

礎石は全域に点在しているが、建物範囲及び規模を示すような繋がりを示すものは少ない。このことは、調査面積が小さく、しかも調査区の中央部で敷地が分かれていることに起因している。敷地境の溝を越えて建物が連続することはないのであるから、溝5より北側にある礎石1～3の建物は、調査区から北側に続くと考えられる。検出された礎石は、



第4図 調査区位置図 平成4年改正 (1/2,500)



第5図 調査区設定図 昭和60年測図（1/500）

方形の掘り方に自然石の根石をもつ、いわゆる根石（基礎）部分である。

井戸

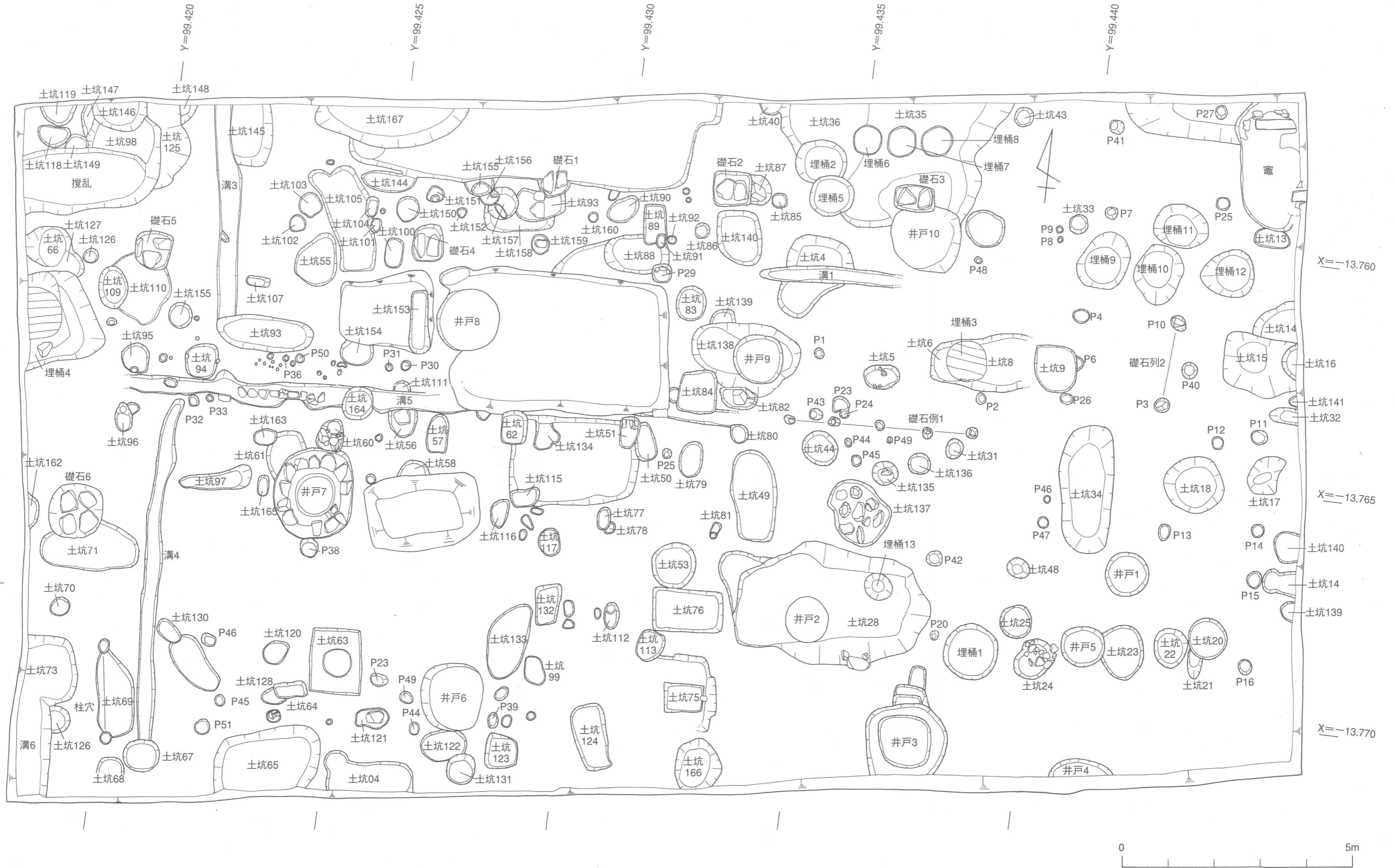
井戸は、調査区に点在しとくに集中しない。井戸7を除いて素掘りの井戸である。井戸の上部構造は遺存していない。井戸6と井戸8を除けば直径1m前後の規模である。井戸6と8は直径1.3m以上の大型の井戸である。井戸は江戸前期に遡るものではなく、概ね18世紀前半から19世紀にかけての時期である。井戸7は、最初は石組みで後にコンクリート枠が入れられている。

埋桶

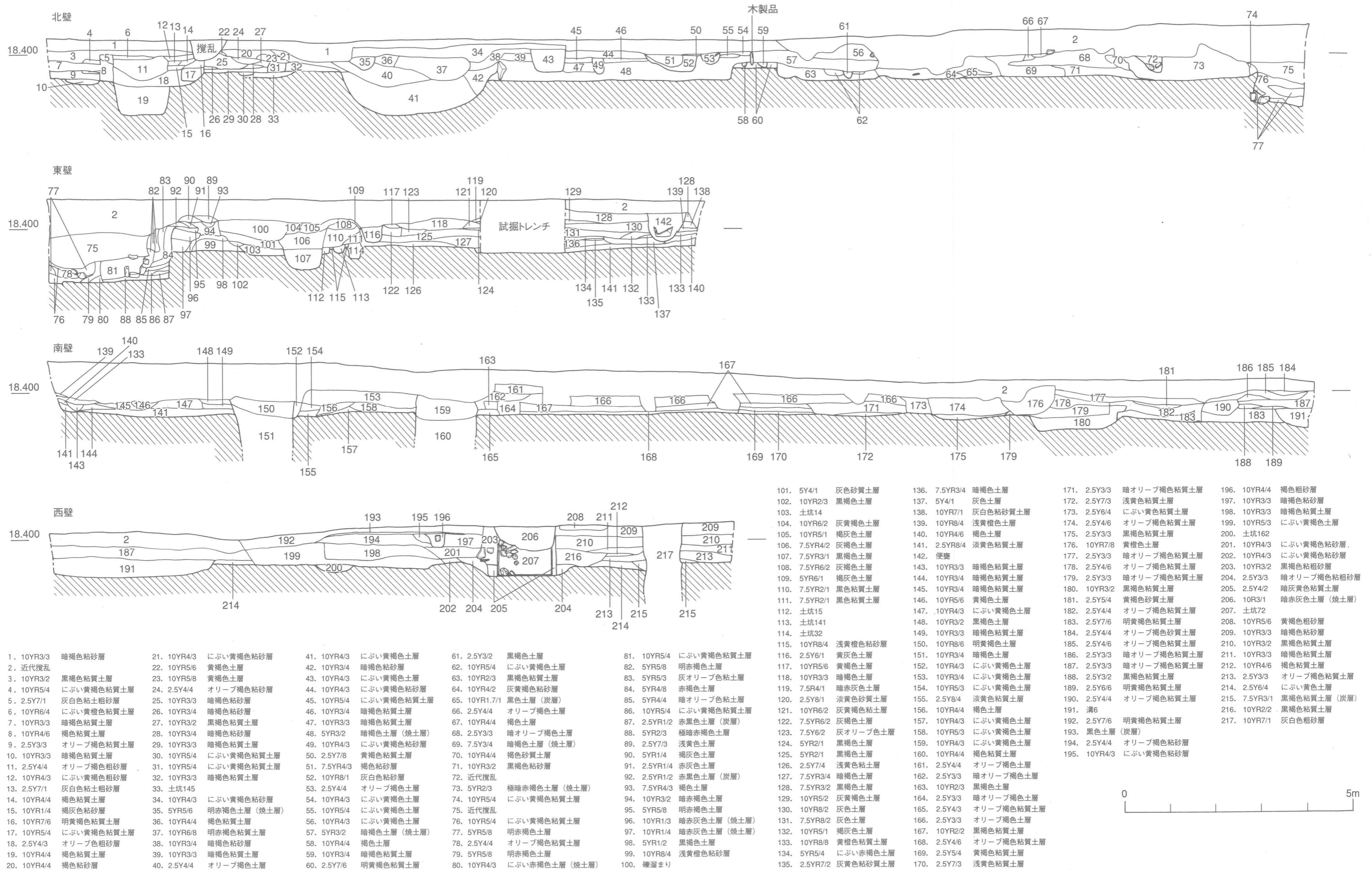
埋桶は13基検出された。井戸と異なり集中する傾向があり、調査区の4箇所に分かれて分布している。伊丹郷町での埋桶の機能としては便槽に利用されたものが多く、その場合は2基一組になるものが一般的である。埋桶5～8、埋桶9～12は2基一組の便所跡と考えられる。

竈

調査区の北東隅に竈跡が検出された。この竈は半地下式構造の大型の竈で、伊丹郷町では酒造用の竈として使用される。焚き口部が未検出であるため全体の規模は明らかではない。しかし、この竈の発見で、この場所が酒蔵跡であることがわかった。



第6図 調査区全体図



第7図 土層断面図

第3節 遺構と遺物

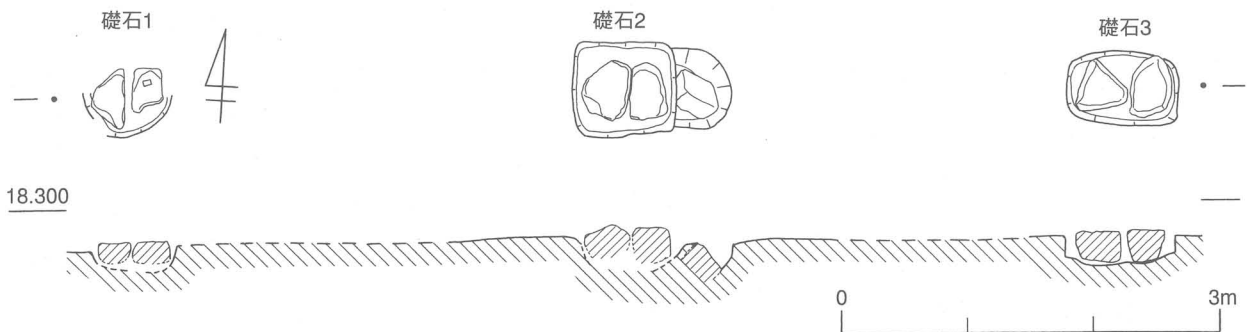
建物跡

礎石建物1 (第8図 図版2)

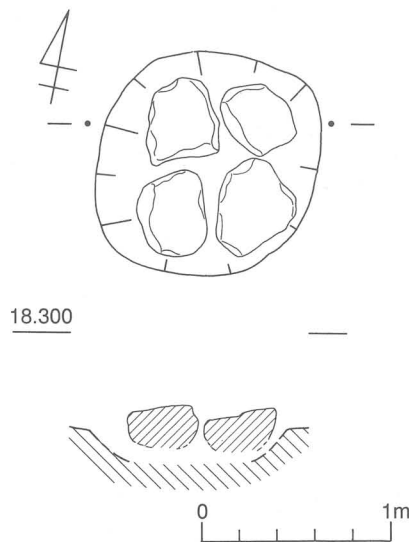
調査区の北側において、方形の掘り方に自然石を敷いた礎石が3箇所(礎石1~3)並んで検出された。掘り方内部には、2個の石を敷いているが、遺構検出段階で遺構面をかなり掘り下げて検出したため、本来は根石を数段積んだ構造であった可能性がある。

礎石1は、北側を攪乱に切られているが、根石2個が残っていた。根石は長さ60cm程度の川原石を用いている。掘り方の規模は、直径70cmの不整円形である。礎石2は、長方形の掘り方に2個の根石が置かれていた。根石の大きさは長さ45cm程度の川原石で、厚みも25cmほどある。掘り方の規模は、長さ82cm、幅74cmである。礎石3は、長方形の掘り方に根石が2個置かれていた。根石の大きさは長さ40~50cmの自然石で、厚みは25cmである。

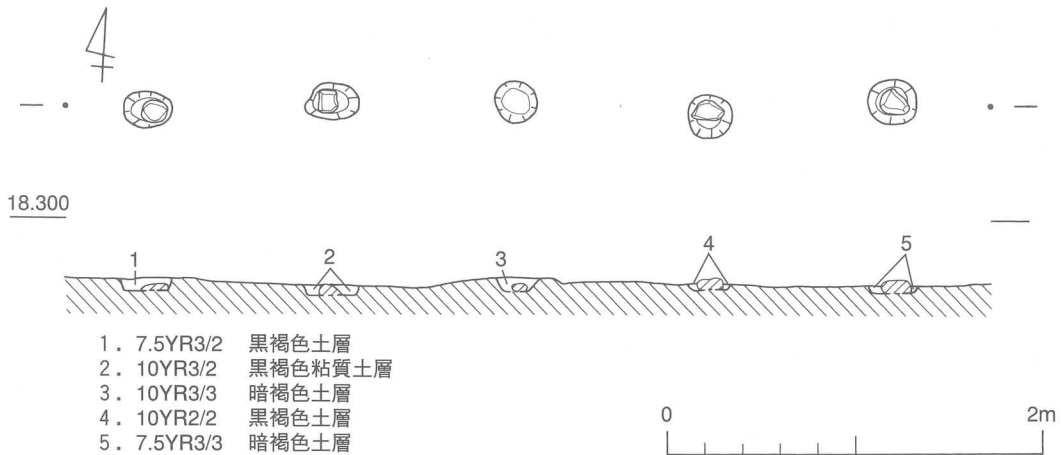
各礎石間の距離は、心々でほぼ4m間隔(6尺6寸)である。礎石の方向は敷地境(溝5)と一致しており、礎石2の南側4mの距離にある根石をもった土坑(土坑82)をこの建物の礎石とすると、敷地境際まで建物が続いていたことになる。また、北側は調査区外に続いている可能性が高い。建物の性格としては、規模が明らかではないので判断しがたいが、伊丹郷町の酒蔵はこの構造で礎石を据



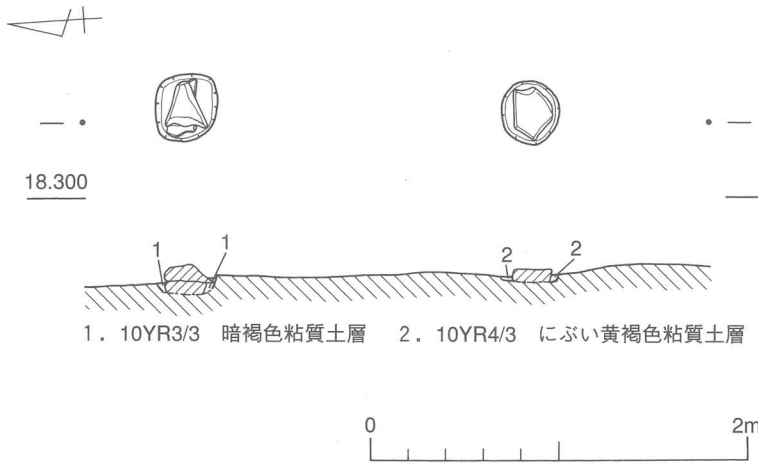
第8図 礎石建物1 平面・断面図



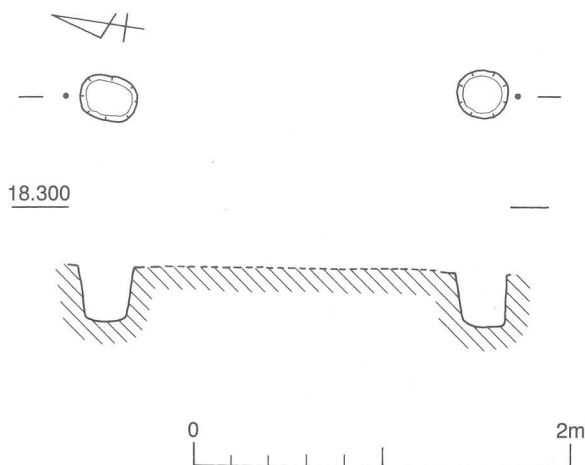
第9図 礎石6 平面・断面図



第10図 礎石列1平面・断面図



第11図 礎石列2平面・断面図



第12図 柱穴平面・断面図

えている。

礎石建物2 (第9図 図版8)

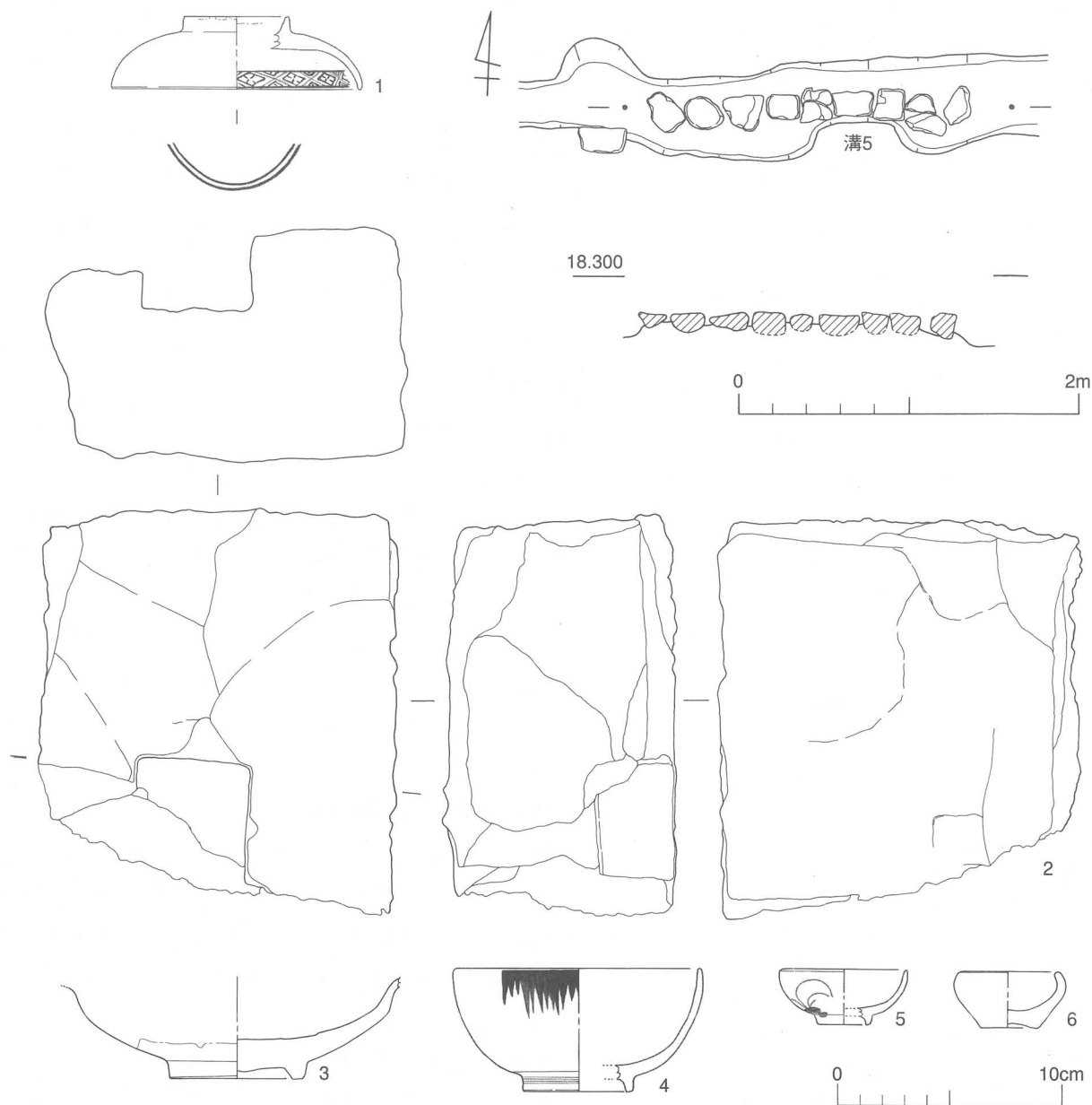
礎石建物2の礎石は、調査区の西隅に1基(礎石6)が検出されたのみである。礎石6より東側にこれに続く礎石が見当たらないので、あるいは溝3と溝4が敷地境であって建物はそれより西側に続いたのかも知れない。掘り方の規模は、1.16m×1.18mで、長さ30～50cm、厚さ25cmの根石が4個置かれている。礎石の規模は、礎石建物1より大きい。

礎石列1 (第10図 図版18)

調査区の中央部に位置し、敷地境の溝(溝5)の東側延長上に小規模な柱穴が並んでいる。柱穴の底には、扁平な根石が据えられている。小型の礎石列のようにも見えるが、遺構面を掘り下げて検出したため、本来はある程度の深さの柱穴であったと考えられる。柱穴の規模は、東側から順に直径が26cm×23cm、22cm×23cm、22cm×23cm、25cm×20cm、27cm×19cmである。柱穴の間隔は、1mの等間隔(3尺3寸)である。遺構の性格としては、敷地境に位置することから塀跡と考えることができる。

礎石列2 (第11図 図版19)

礎石列1の東側に位置し、礎石列1と直行する方向に礎石2個(P3・P10)が並んでいる。礎石の規模は、P3の礎石が30cm×34cm、P10が35cm×30cmである。P3の礎石は扁平石が一段、P10の礎石



第13図 溝5平面・断面図・出土遺物、溝6出土遺物

溝5-1、2 溝6-3~6

は二段積みされている。2基の礎石以外につながりが認められないので、門か木戸跡と推定される。

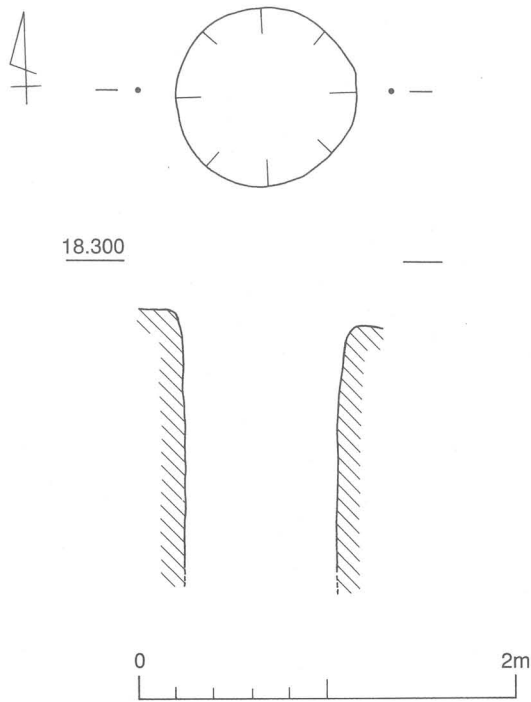
柱穴 (第12図 図版18)

調査区の南東隅に位置し、2基が並んで検出された。柱穴の規模は、南側の柱穴が直径26cm、深さ27cm、北側の柱穴が24cm×30cm、深さ26cmである。

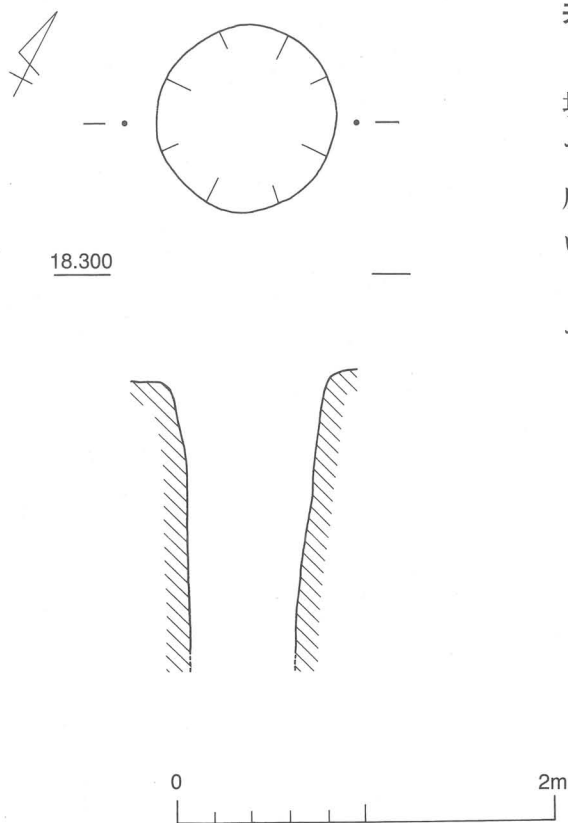
溝跡

溝5 (第13図 図版9・26)

調査区の中央部を東西方向に延びている。先述したようにこの溝は敷地境の溝と考えられ、この溝に直行する方向に溝3と溝4がある。溝5は、幅38~58cm、深さ10~15cmの規模である。溝の西側には自然石や加工石などを11個並べているが、列石の北面が揃えられているので、この列石が溝の南側の護岸であったと考えられる。そうであれば、先に示した溝の幅は掘り方の幅となり、本来の溝幅



第14図 井戸1 平面・断面図



第15図 井戸2 平面・断面図、出土遺物

は狭かったことになる。溝内から青磁染付蓋（1）が出土した。

溝6（第13図 図版9・25）

調査区の南西隅に位置する。規模は明らかではない。出土遺物には、陶器皿（3）、肥前染付雨降り文碗（4）などが出土した。遺構の時期は17世紀後半頃と考えられる。

（小長谷）

井戸跡

井戸1（第14図）

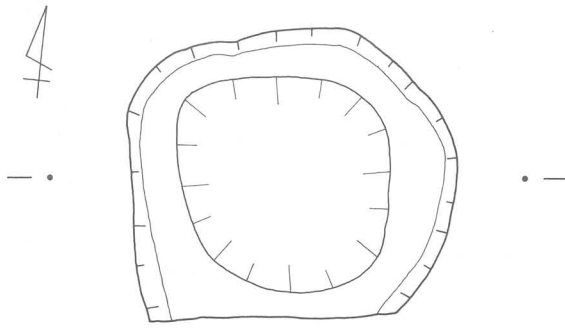
調査区南東に位置する素掘りの井戸である。平面形は、直径約95cmの円形である。深さは検出面より約1.3mまで掘削したが、底は未検出である。井戸の壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物は、丹波焼播鉢（ヘラ描き・クシ描き）や、肥前白磁染付碗（コンニャク印判）等の破片が出土している。これらの遺物から、概ね18世紀前半頃と考えられる。

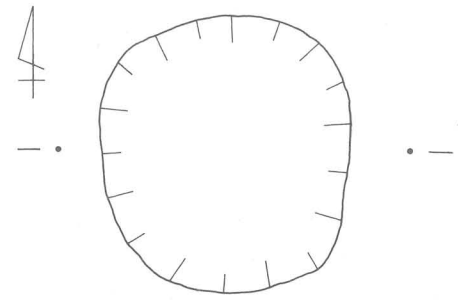
井戸2（第15図 図版26）

調査区の南側に位置する素掘りの井戸である。土坑28の底面で検出した。平面形は直径約90cmの円形である。深さは検出面より約1.4mまで掘削したが、底は未検出である。井戸は下に行くほど狭くなっている。

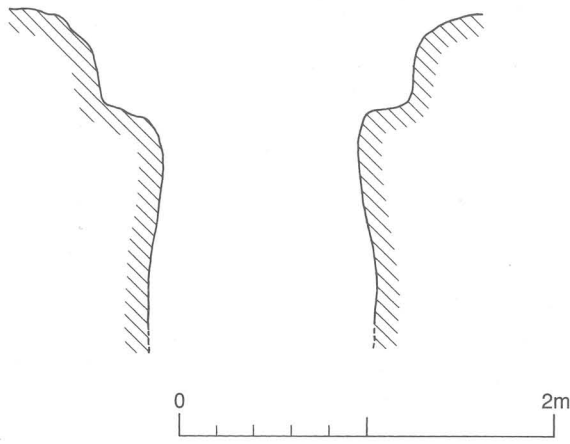
遺物は肥前白磁染付碗（7）と瀬戸白磁小杯（8）である。この他に丹波焼の甕、肥前白磁染付碗や蕎



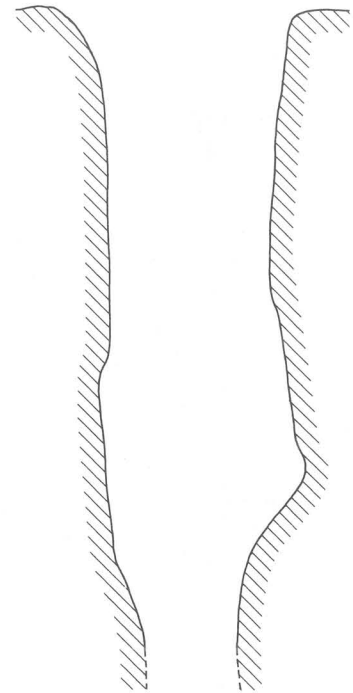
18.300



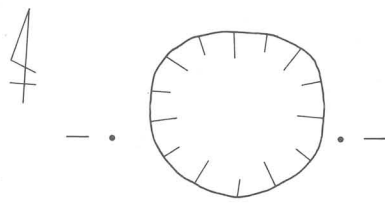
18.300



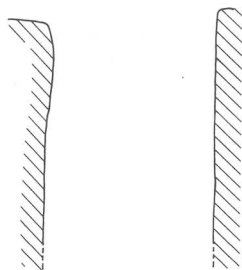
第16図 井戸3平面・断面図



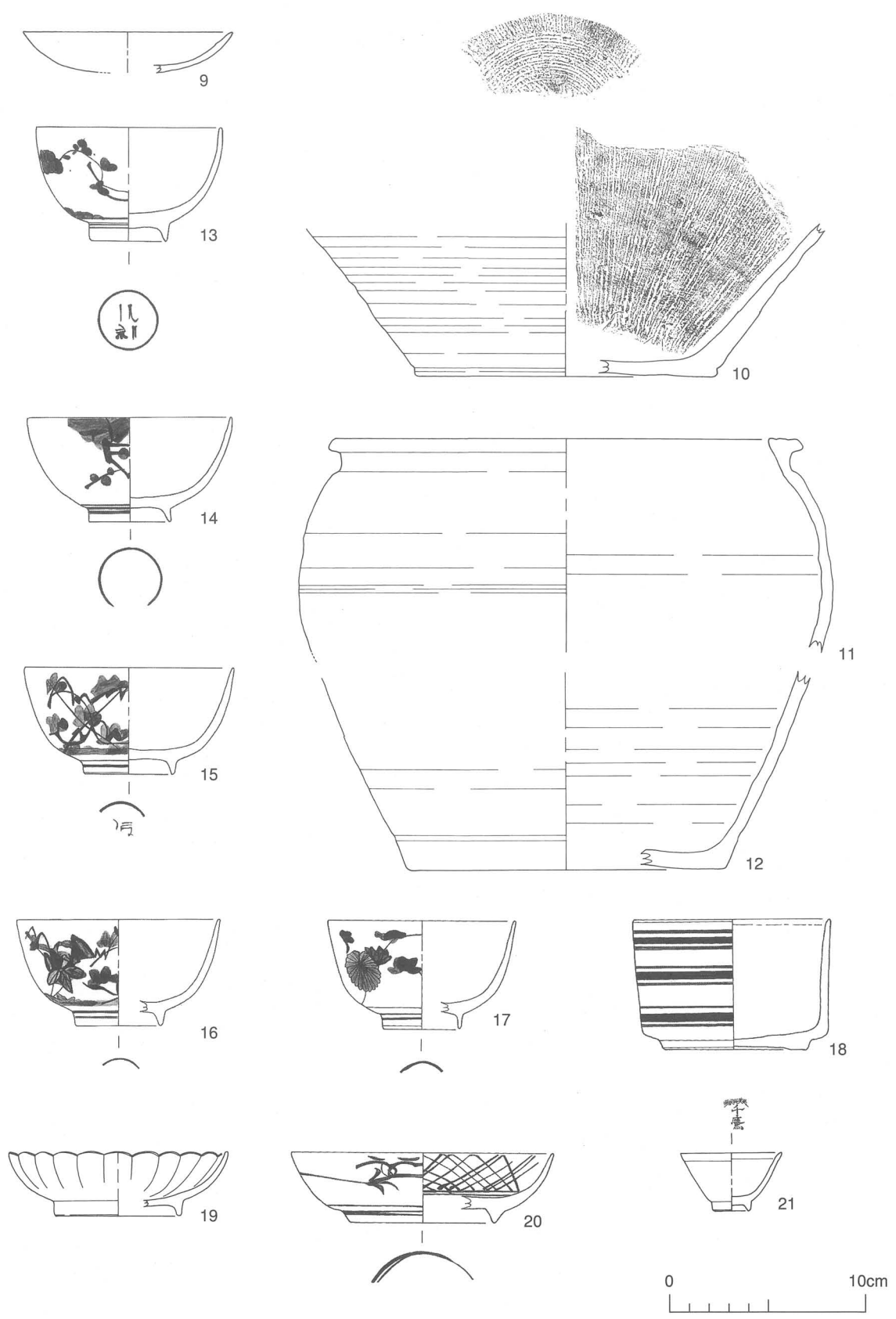
第18図 井戸6平面・断面図



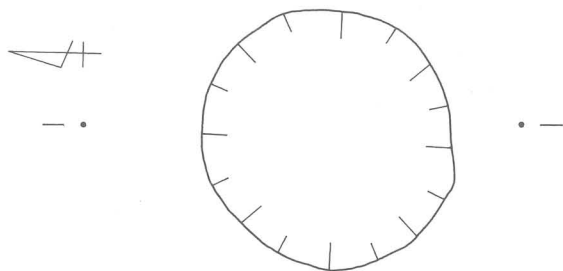
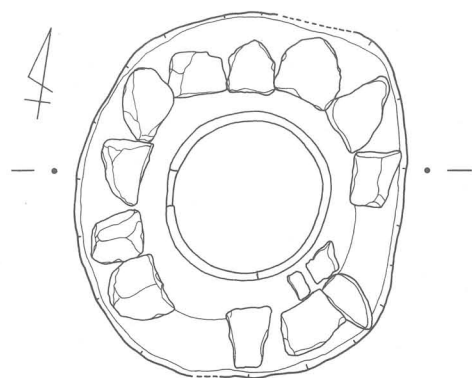
18.300



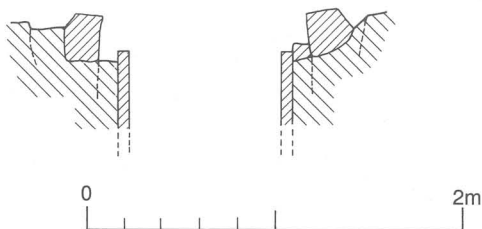
第17図 井戸5平面・断面図



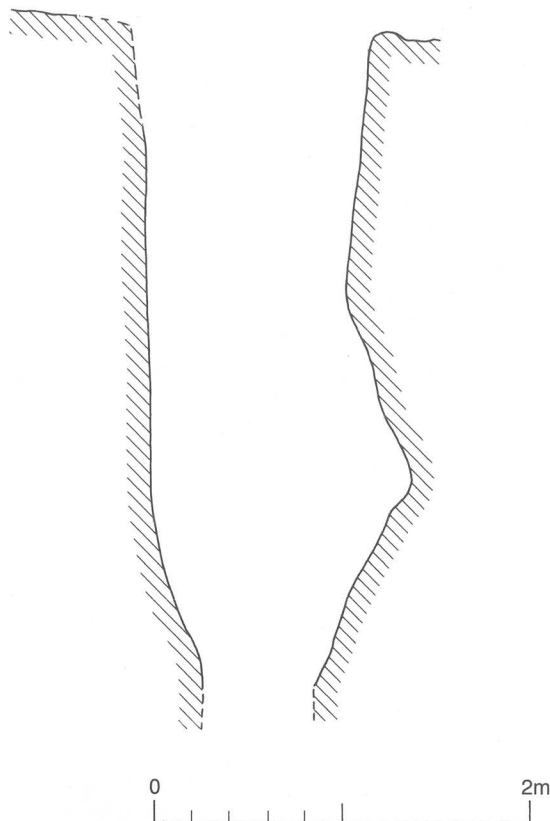
第19図 井戸6出土遺物



18.300



18.300



第20図 井戸7平面・断面図

麦猪口等の破片が出土している。8は混入遺物と考え、遺構の時期は概ね19世紀前半と考えられる。

井戸3 (第16図)

調査区南側に位置する素掘りの井戸である。井戸上部は東西約1.8mの不整形で、南側の一部は調査区外へ広がる。検出面より約1.7mまで掘削したが、底は未検出である。検出面から40cm下がったところで段を形成し、下に行くと少し膨らんでいる。

出土した遺物は、伊賀・信楽焼の土鍋や丹波焼植木鉢、肥前白磁染付碗、瀬戸染付小碗等の破片が出土している。概ね19世紀前半の遺物と考えられる。

井戸5 (第17図)

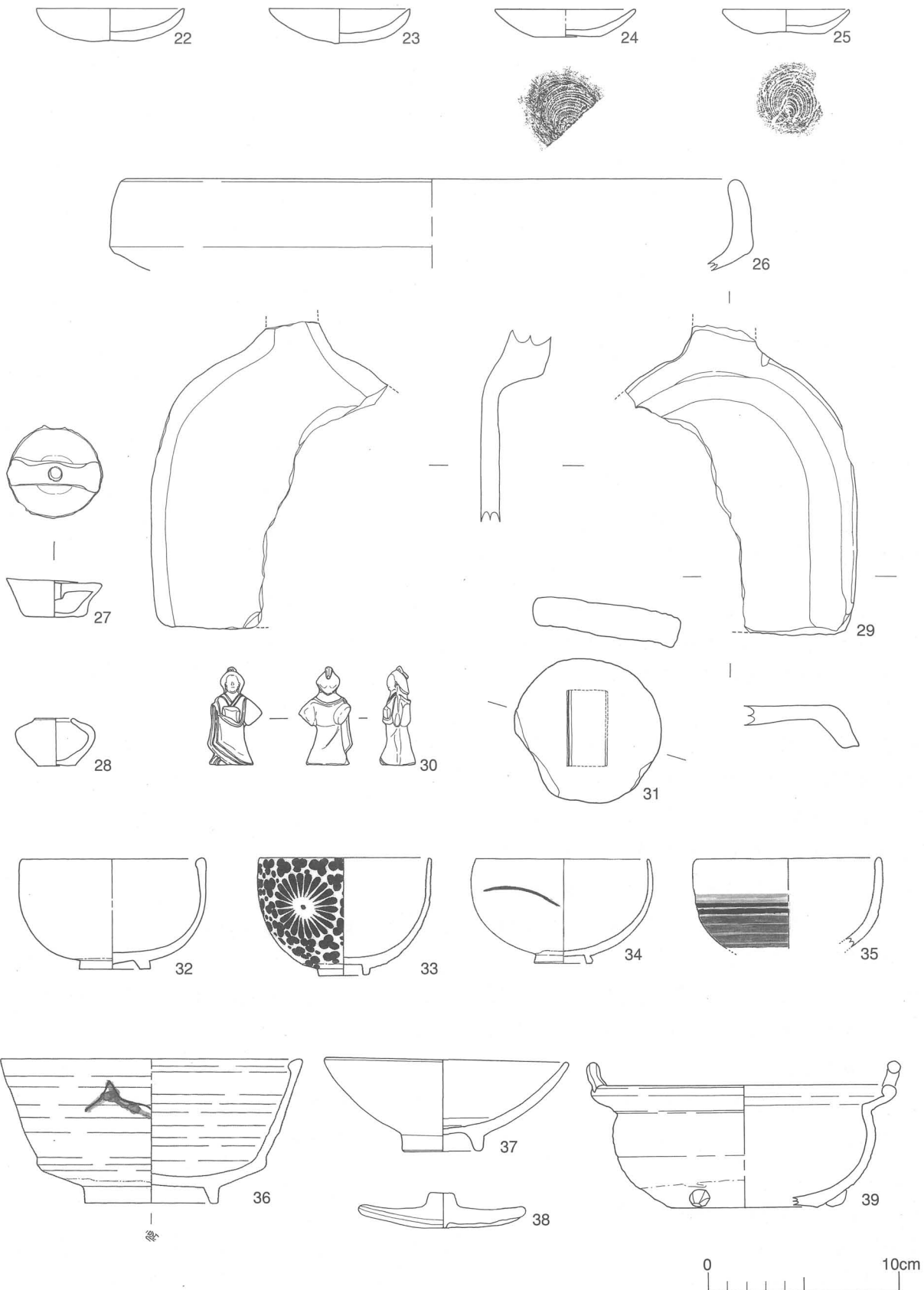
調査区南東側に位置する素掘りの井戸である。東側の土坑23を切っている。平面形は直径約90cmの円形である。深さは検出面より約1.2mまで掘削したが、底は未検出である。壁はほぼ筒状である。遺物は出土しなかった。

井戸6 (第18・19図 図版10・26・27)

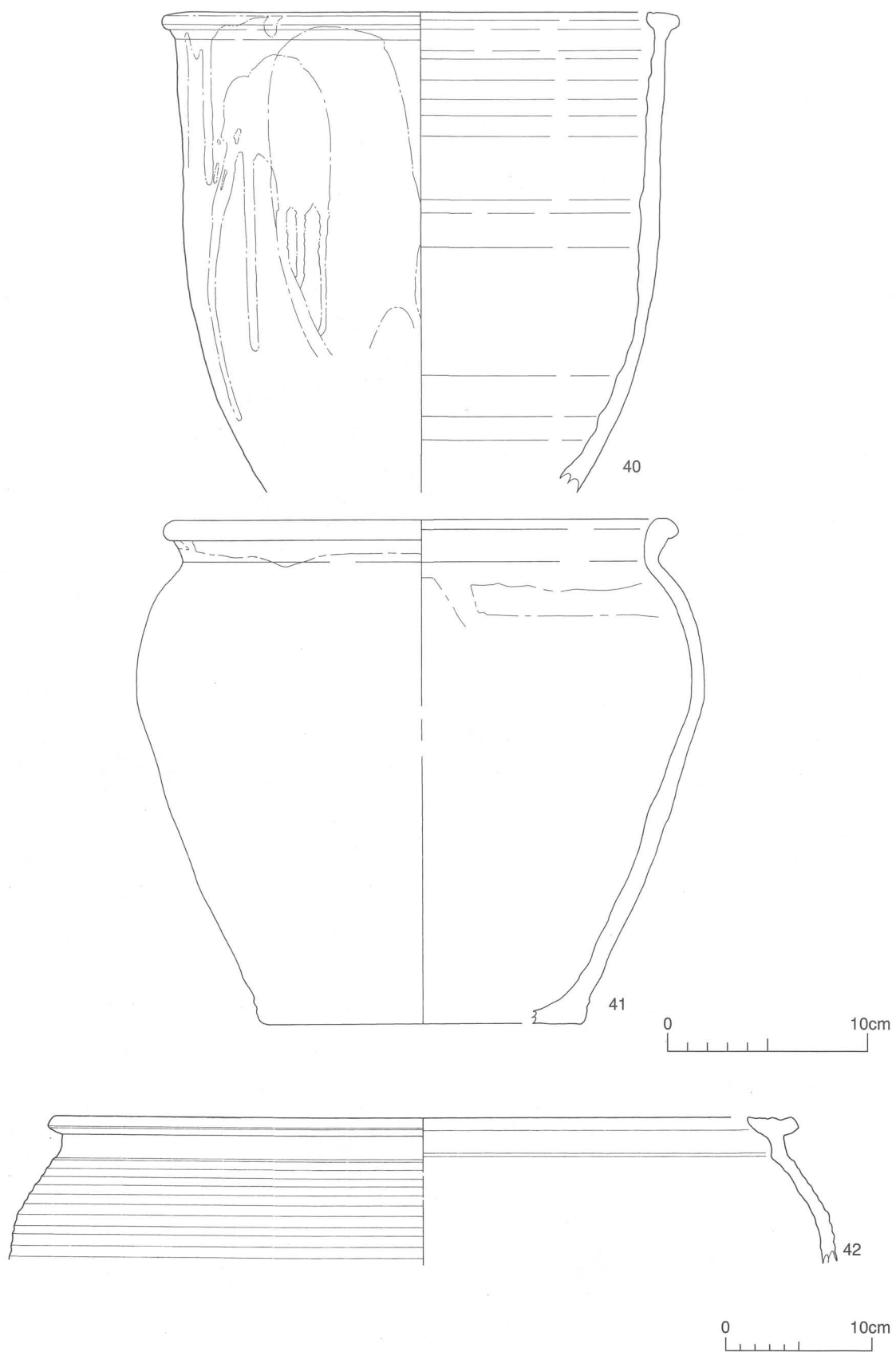
調査区南側に位置する素掘りの井戸である。平面形は長さ1.5m、幅1.3mの楕円形である。深さは検出面より約3.4mまで掘削したが、底は未検出である。壁はいびつな形状で、深さ3.0mより下が急に狭くなる。

遺物は1.5mから2.5m掘り下げた辺りで多く出土した。出土遺物は土師皿(9)、丹波焼挿鉢(10)、

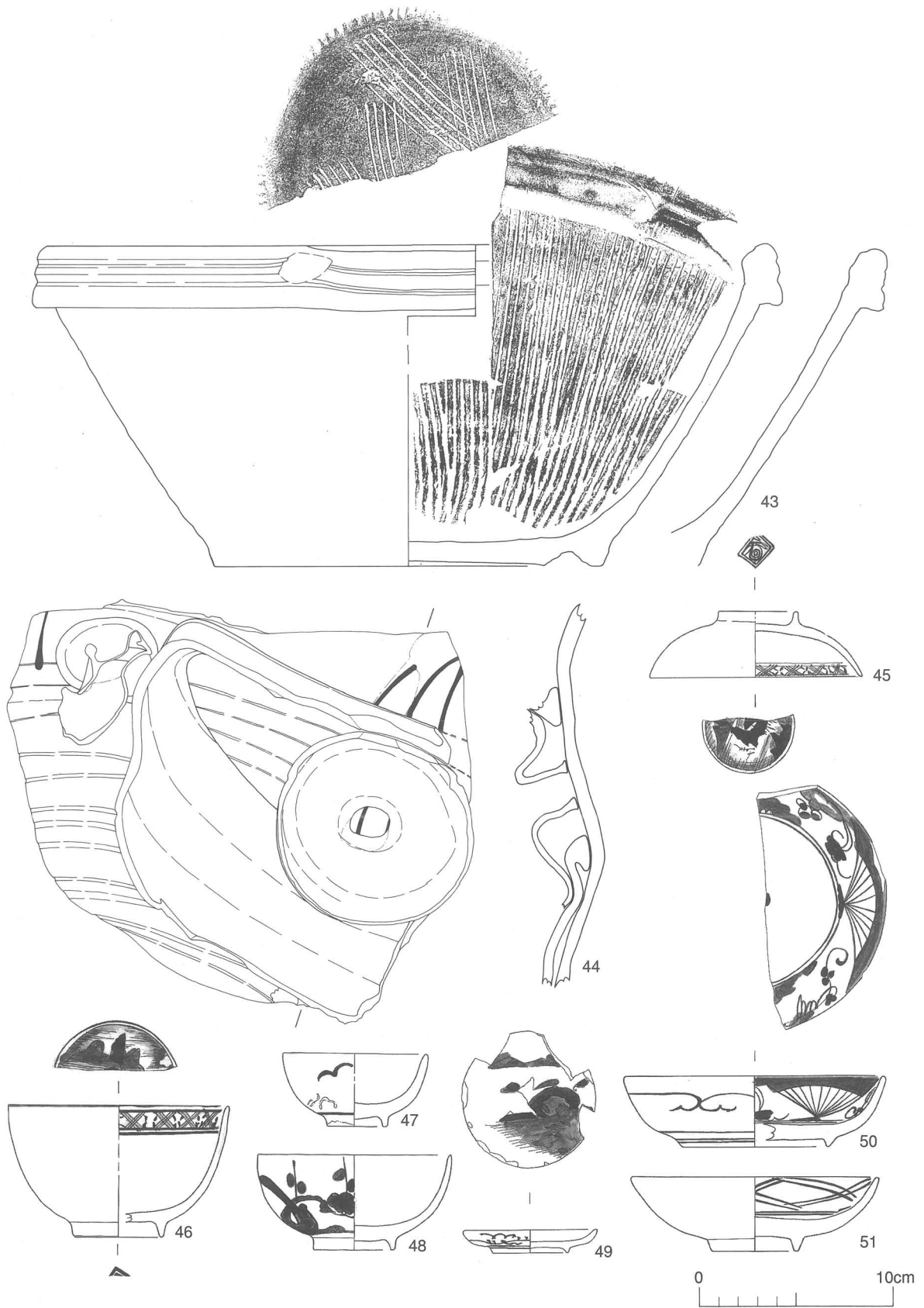
第21図 井戸8平面・断面図



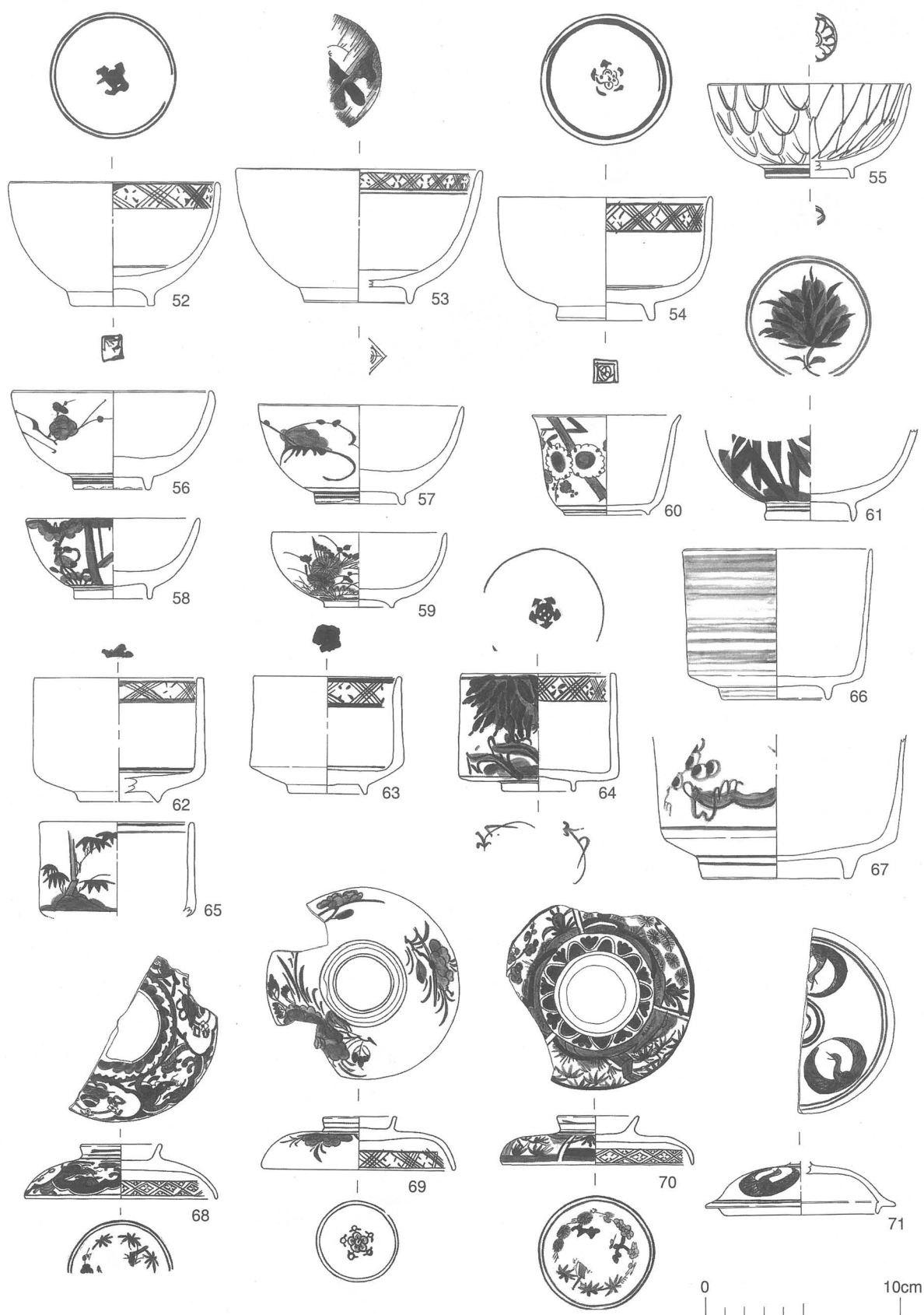
第22図 井戸 8 出土遺物 (1)



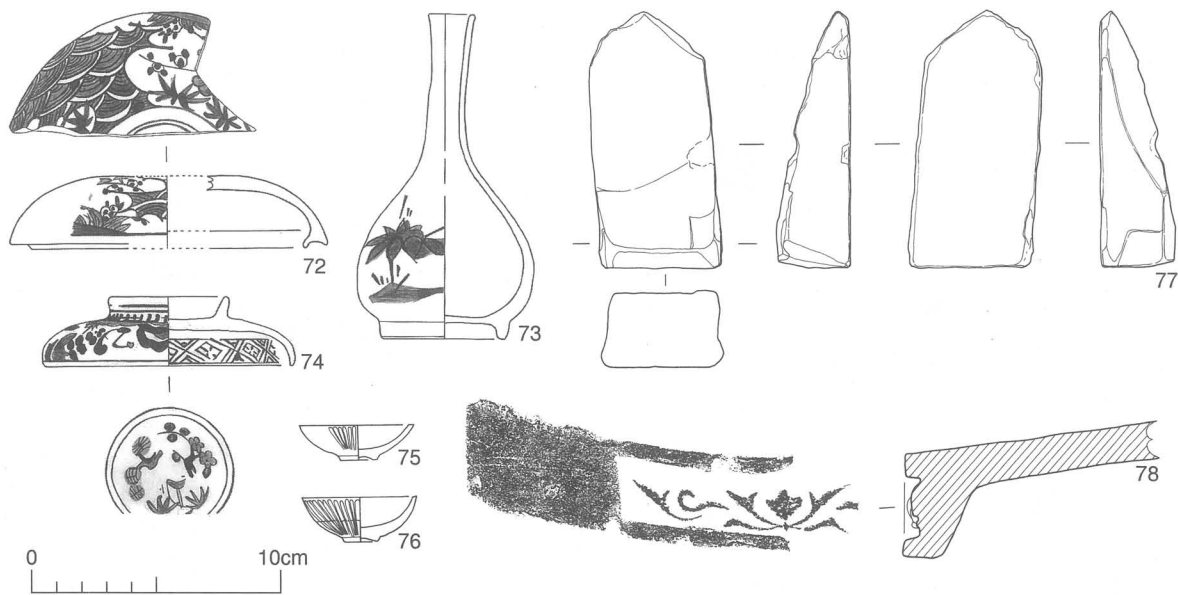
第23図 井戸8出土遺物(2)



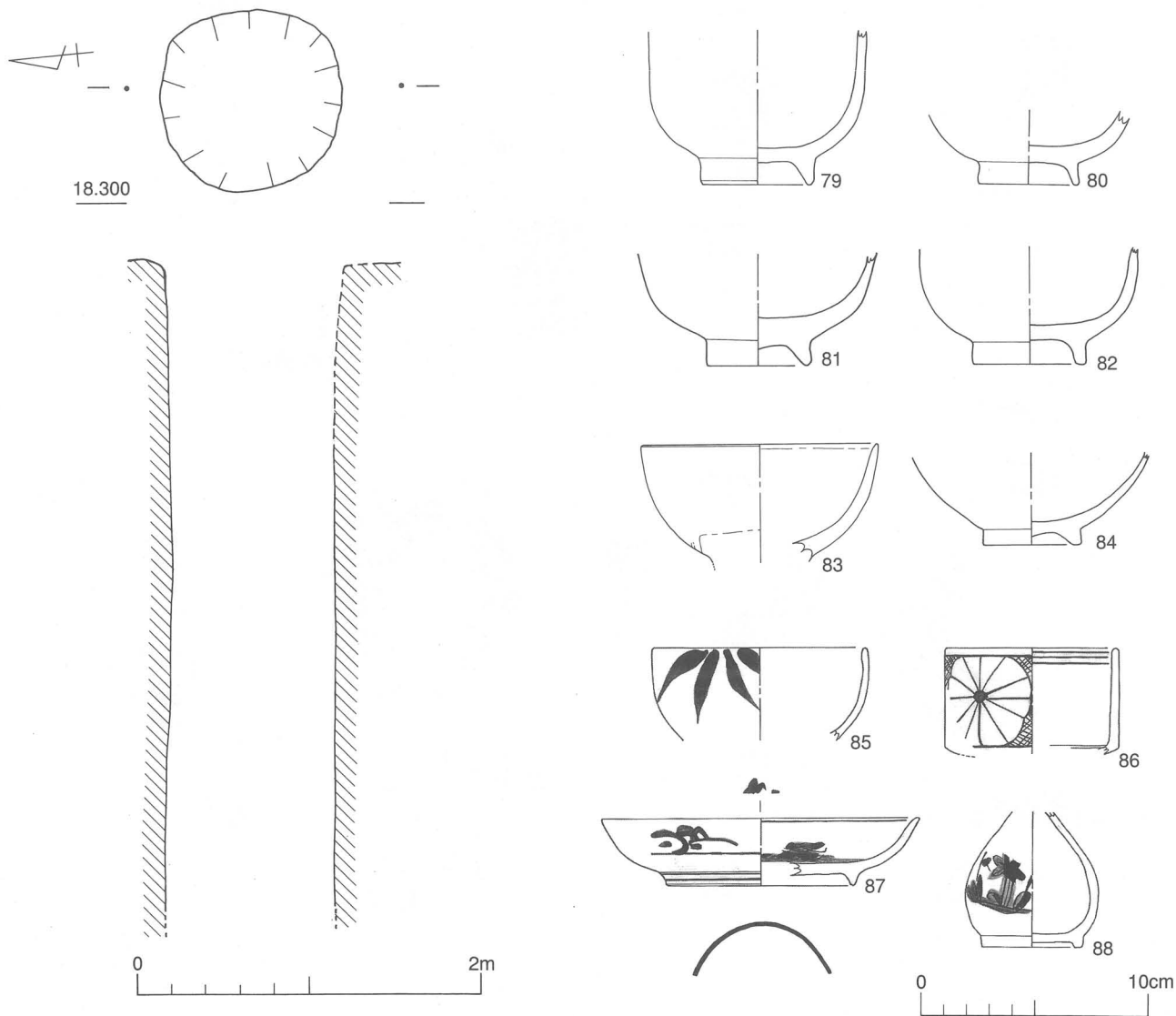
第24図 井戸8出土遺物(3)



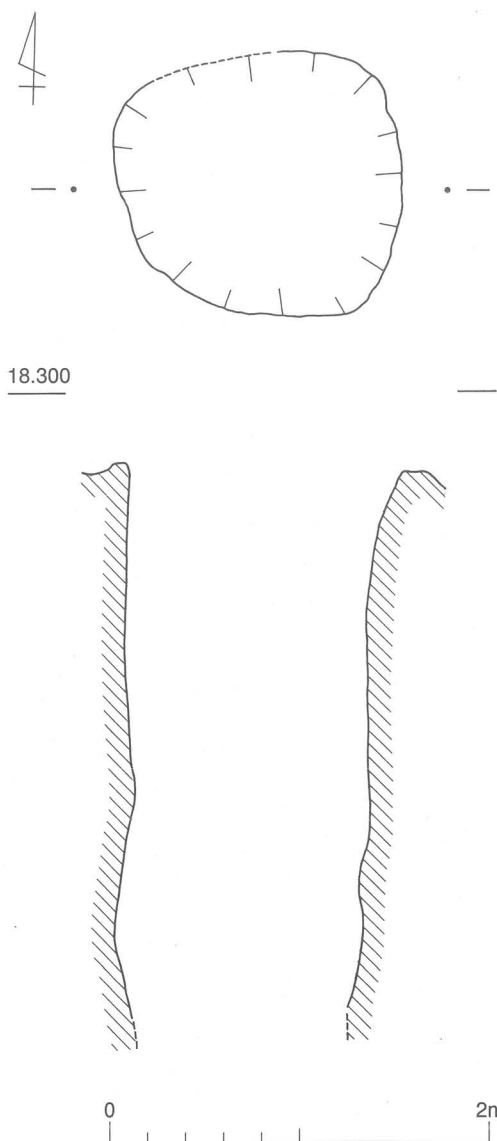
第25図 井戸8出土遺物(4)



第26図 井戸8出土遺物(5)



第27図 井戸9平面・断面図、出土遺物



第28図 井戸10平面・断面図

(11) と (12) は丹波焼甕で、おそらく一単位と考
えられるが接合できなかつた。肥前白磁染付碗
(13~17)、染付皿 (20) 等である。概ね18世紀前
半であろう。

井戸7 (第20図 図版10)

調査区西側に位置する、石組みからコンクリ
ート枠に作り変えられた井戸である。この井戸は土
坑61を切っている。掘り方の規模は長さ1.95m、幅
1.75mである。石組みの内径は1.1mである。コンク
リート枠の内径は約80cmである。

遺物は、肥前白磁染付鉢、白磁皿、白磁瓶、白
磁小坏、レンガの破片等が出土している。

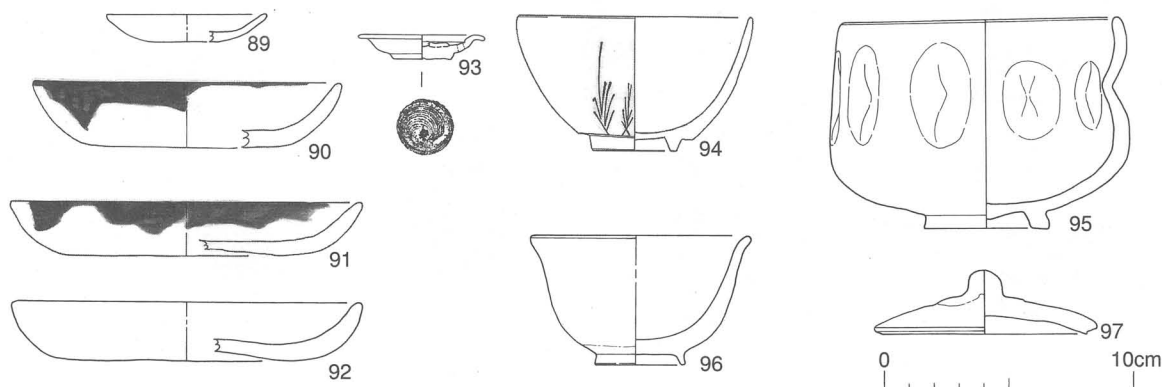
井戸8 (第21~26図 図版11・27~32・43)

調査区北西側に位置する素掘りの井戸である。
平面形は直径約1.4mの円形である。深さは検出面
より3.7mまで掘削したが、底は未検出である。壁
は筒状で、一部南側が「く」の字状に広がりを見
せ、そこから下が急に狭くなる。

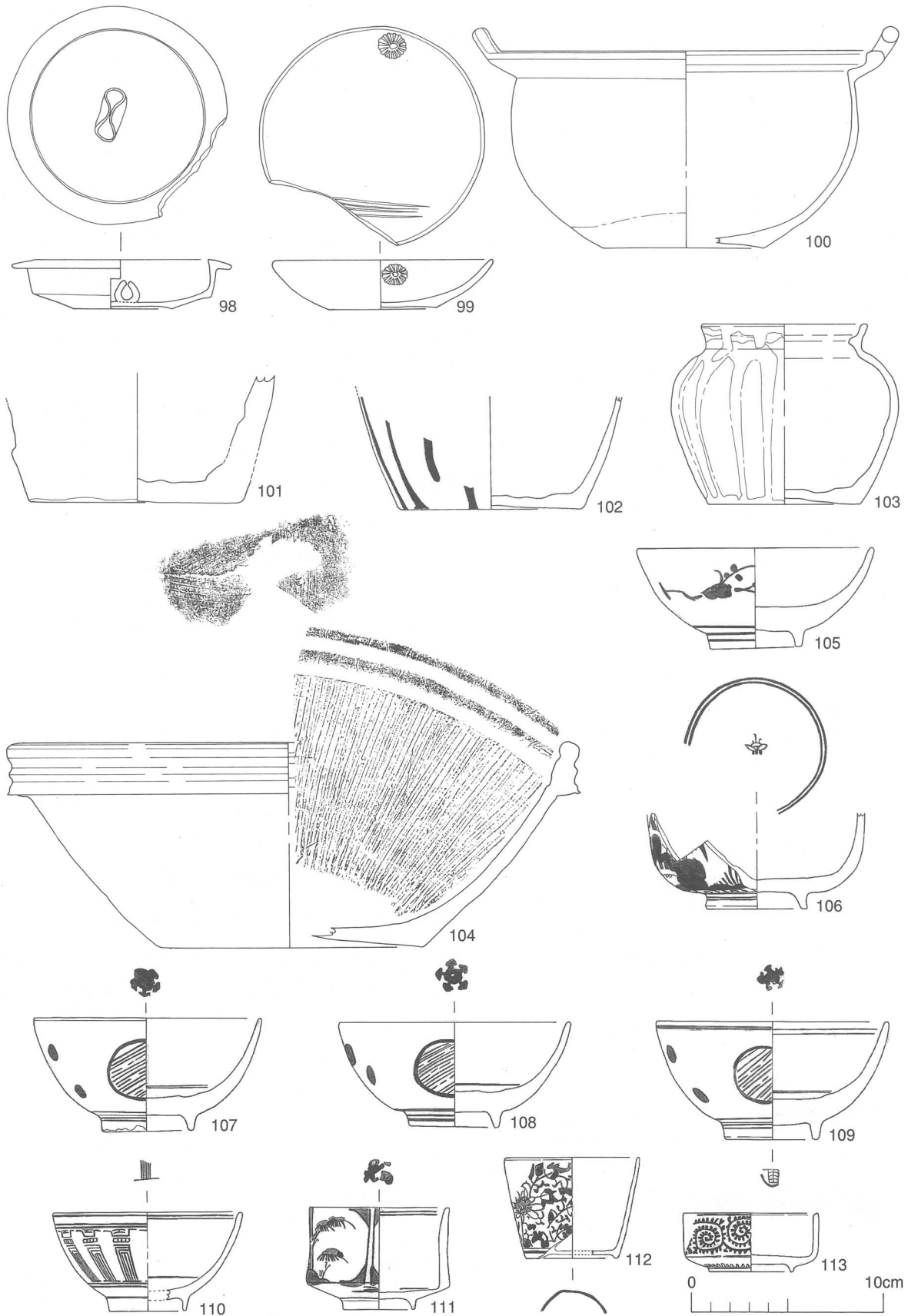
遺物は検出面から1.8mまでの掘削中に多く出土
している。出土した主な遺物は、土師皿 (22~25)、
焙烙 (26)、十能 (29)、京焼色絵碗 (33)、瀬戸・
美濃焼腰鍔碗 (35)、丹波焼甕 (40~42)、堺焼播
鉢 (43)、肥前磁器 (45~74) などである。肥前磁
器は皿の出土が少なく、碗または蓋物製品が多く
出土している。概ね18世紀後半と考えられる。

井戸9 (第27図 図版11・33)

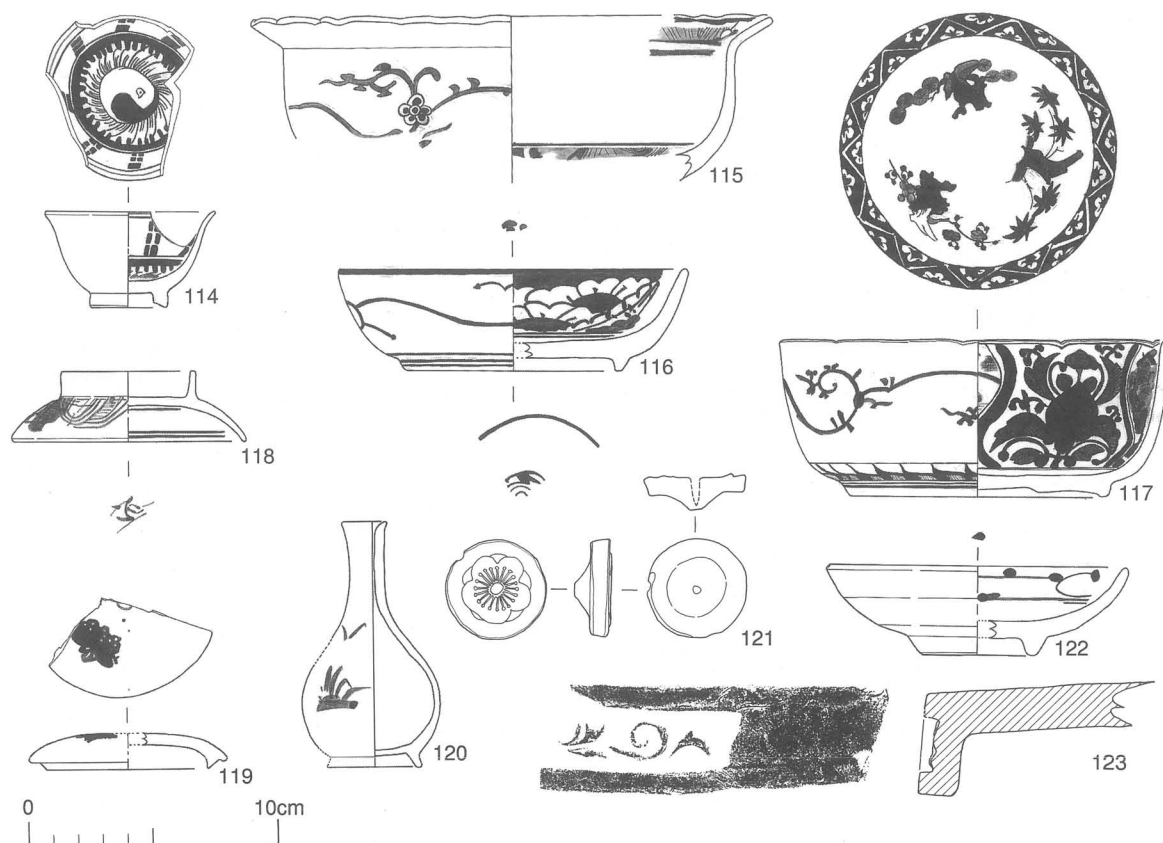
調査区内ほぼ中央に位置する素掘りの井戸であ
る。この遺構は土坑138の底面で検出した。平面形
は直径1.05mの円形である。深さは検出面より約



第29図 井戸10出土遺物 (1)



第30図 井戸10出土遺物(2)



第31図 井戸10出土遺物（3）

4.0mまで掘削したが、底は未検出である。壁はほぼ筒状である。

遺物は約1.5m掘削してから出土した。出土遺物は、肥前京焼風陶器碗（79～82）、肥前陶器碗（83・84）、肥前磁器（86～88）である。このうち、85・86・88は井戸上部にあった土坑138から出土したものと考えられ、井戸の時期は79～84の遺物が示す17世紀後半であろう。

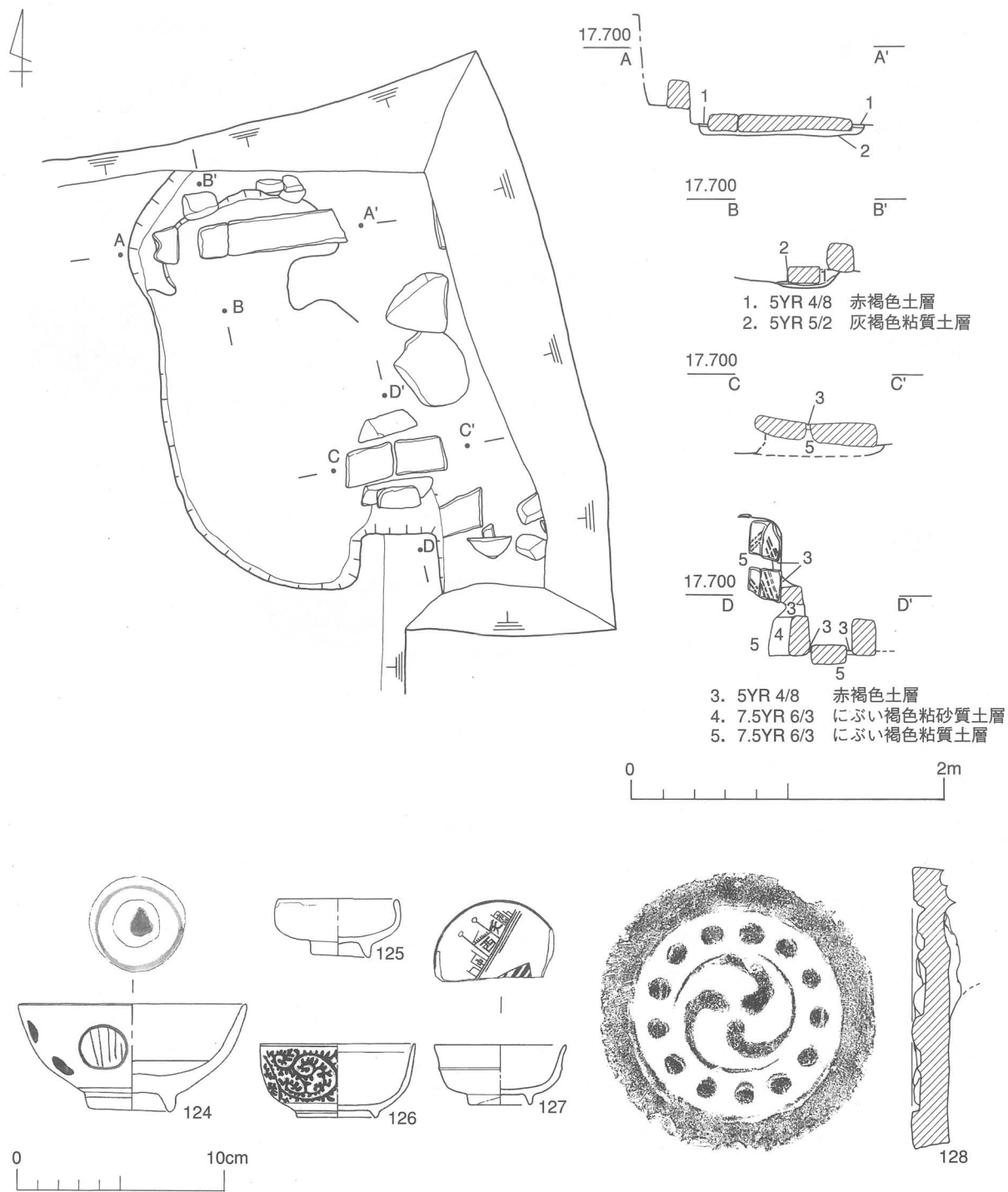
井戸10（第28～31図 図版33～37）

調査区東側に位置する素掘りの井戸である。この遺構は礎石3に切られ、また土坑35を切っている。

平面形は直径約1.5mの不整円形である。深さは検出面より約2mまで掘削したが底は未検出である。壁は少しいびつな筒状である。

出土遺物は、90～92は口径12cmを超える大型の土師皿、柿釉皿（89）、京焼系陶器碗（94）、瀬戸・美濃焼拳骨碗（95）、伊賀・信楽焼陶器（98～100）、丹波焼甕（102・103）、堺・明石焼播鉢（104）、肥前白磁染付（105～113・115～120・122）、ミニチュア製品の独楽（121）等である。概ね19世紀前半と考えられる。

（岡野）



第32図 竈平面・断面図、出土遺物

竈跡

竈 (第32図 図版12・13・37)

調査区の北東隅に大型の竈が検出された。調査範囲内には竈だけが検出され、焚口部は調査区外となっていたため、許される範囲で調査区を東側に拡張した。しかし、それでも焚口の全体は検出できていない。

竈の本体は、竈底部の灰の掻き出し部を残して破壊されていたため、全体の規模や構造の詳細を知

ることはできなかったが、灰の掻き出し部の存在から2基一組の竈であることが確認できた。竈の規模は、北側の竈が、灰の掻き出し部の長さから推定して直径1～1.2m、南側の竈はそれより小規模であったと考えられる。竈の深さは、検出面から71cmである。灰の掻き出し部は、2基とも凝灰岩の切石を底に敷き、さらに両側に切石を立てて溝状に作っている。定型化した凝灰岩の切石を竈に多用するのは、伊丹郷町では18世紀後半以降である。

この竈は、2基一組であることや規模が大型であることから考えて酒造用の竈と判断される。酒造用の竈は酒造工程の中で、米を蒸し上げるために用いられる。その方法は、竈の上に鉄製の羽釜を据え、その中に洗い米を入れて蒸し上げるものである。蒸し上がった米を取り出し易いこと、そして何より重量のある大型の鉄製羽釜を据える必要から半地下式の構造が用いられたと考えられている。伊丹郷町の酒造用竈は、これまでの発掘調査で類例が多くあり、時期的に構造や規模が変化していることがわかっている。(小長谷正治・川口宏海「伊丹の酒造業」関西近世考古学研究Ⅳ 1996年)それによると、江戸時代前期の竈は基本的に小規模で、江戸時代中期から大型化し、江戸時代後期になると、竈の直径が2mを越えるものも現れてくる。このことは、伊丹の酒造業が、灘酒造業に影響されて冬の寒い時期に集中して良質の酒を醸造することと深く関係する。つまり、極寒期に一度に大量の酒を仕込む必要から、蒸し米を製造する竈も大型化していくことになった。

酒蔵の一連の施設において、竈は釜屋と呼ばれる建物の中に設けられる。したがって、この竈も建物中であつたわけであるが今回の調査では確認できなかった。

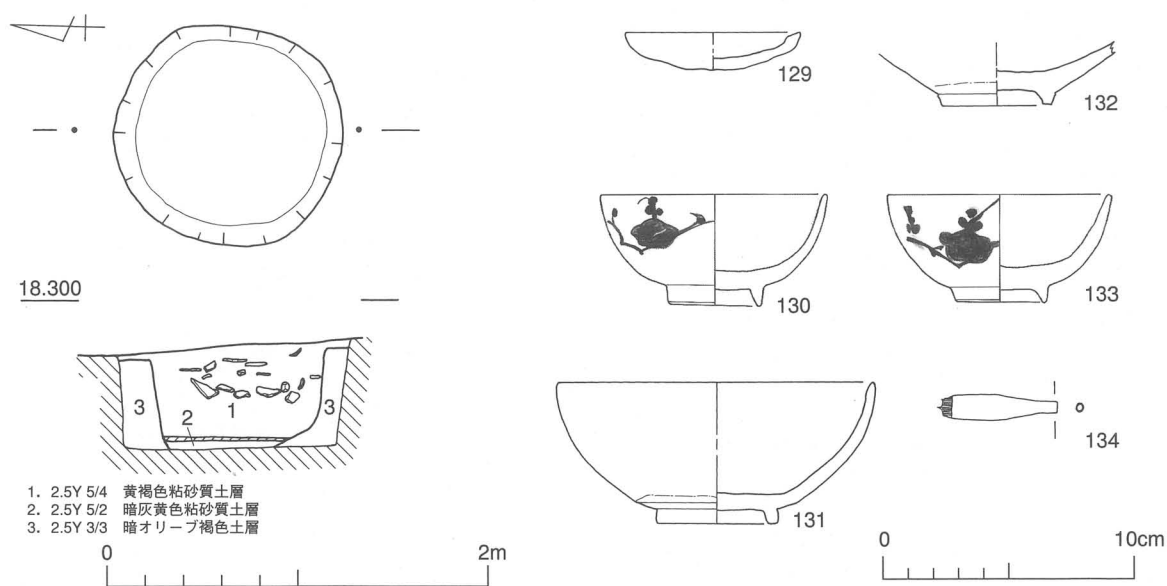
埋土から肥前染付磁器碗(124～126)が出土した。遺構の時期は、18世紀後半頃と推定される。

(小長谷)

埋桶

埋桶1 (第33図 図版14・37・38)

調査区内南東に位置する埋桶遺構である。桶の掘り方の平面形は直径1.2mの円形である。深さは60cmである。深さ50cmのところまで底板の跡を確認した。直径は65cmである。木材の腐食は著しく側板は確認できなかった。出土遺物は土師皿(129)、瀬戸・美濃焼陶器刷毛目碗(131)、肥前白磁染付碗(130・133)、肥前白磁皿(132)、キセルの吸口(134)等である。概ね18世紀中頃から後半である。



第33図 埋桶1平面・断面図、出土遺物

埋桶 2 (第34・35図 図版14・38・39)

調査区北側に位置する埋桶遺構である。この遺構は土坑36を切って、埋桶5に切られている。桶の掘り方の平面形は長さ1.1m、幅90cmの楕円形である。深さは30cmである。桶板は腐食し確認できなかった。出土した遺物は土師皿(136・137)、瓦質浅鉢(138)、肥前白磁染付碗(141)等である。概ね17世紀後半である。

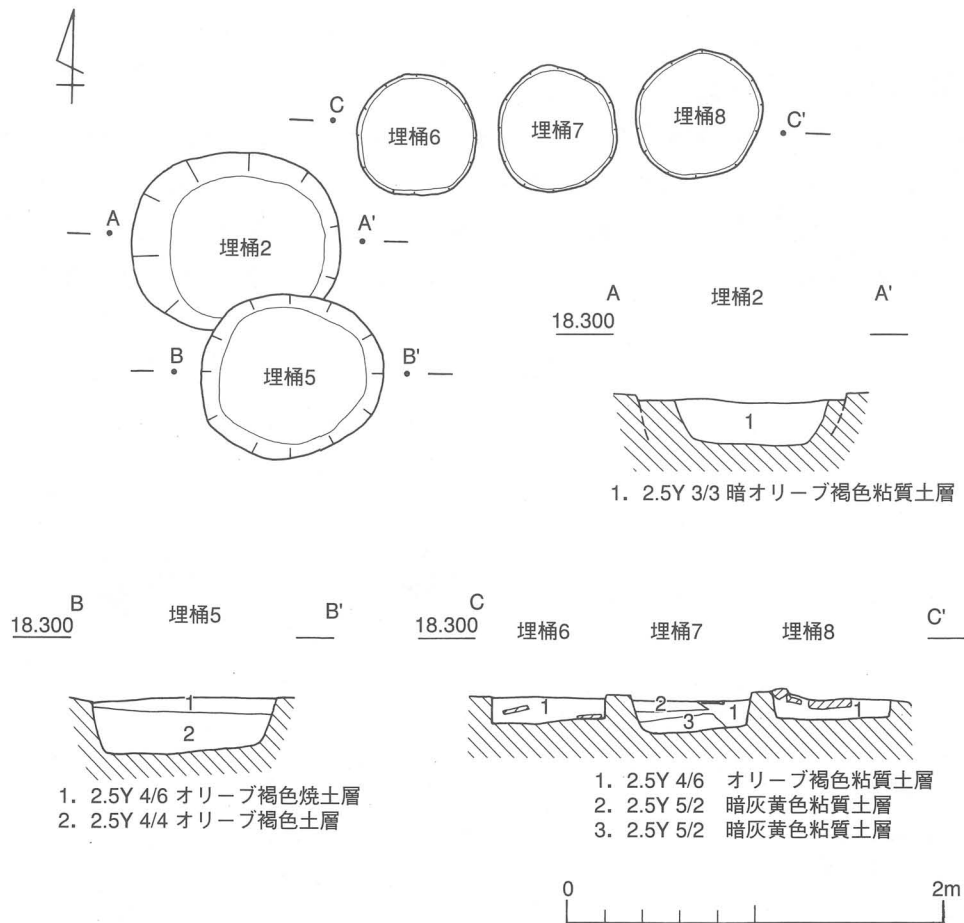
埋桶 3 (第36・37図 図版14・39)

調査区東側に位置する埋桶遺構である。掘り方の平面形は直径1.0mの円形である。深さは10cmである。桶板は底部のみ残存していた。直径90cmである。

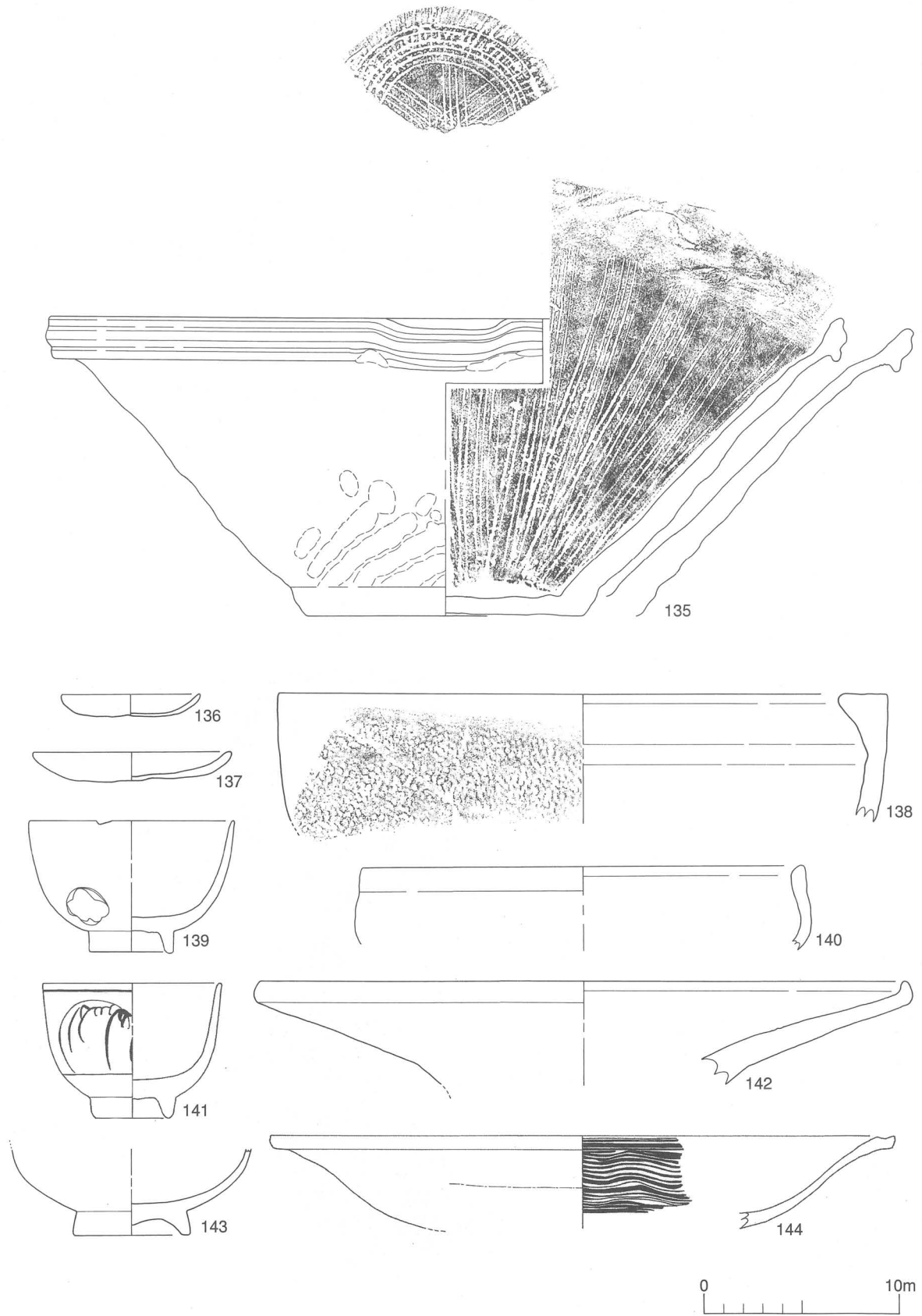
出土した遺物は、口径8cm弱の小型の土師皿(145~148)、口径約10cmの土師皿(149・150)、151は伊賀・信楽焼鍋である。この鍋は少し深めのタイプで、図化できなかったが注口を有する。江戸ではお酒の燗用の鍋として使用されている。153は堺焼の播鉢で扇型に上の刻印が施されている。概ね18世紀前半と考えられる。

埋桶 4 (第38・39図 図版15・39・40)

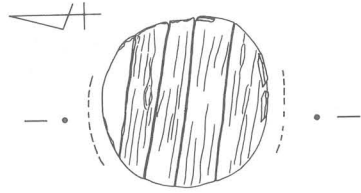
調査区西端に位置する埋桶遺構である。遺構の西半分は調査区外に延びる。掘り方の平面形は一辺2.0mの方形と考えられる。深さは検出面から56cmである。桶本体は底部のみ残存していた。底板の直径は1.2mである。出土した遺物は手捏ね成形の土師皿(154~156)、焙烙(158)、肥前陶器大皿の底部(159)、肥前磁器(160・161)である。概ね18世紀後半と考えられる。



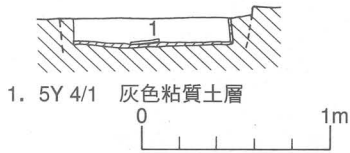
第34図 埋桶 2・5・6・7・8 平面・断面図



第35図 埋桶2 出土遺物



18.300



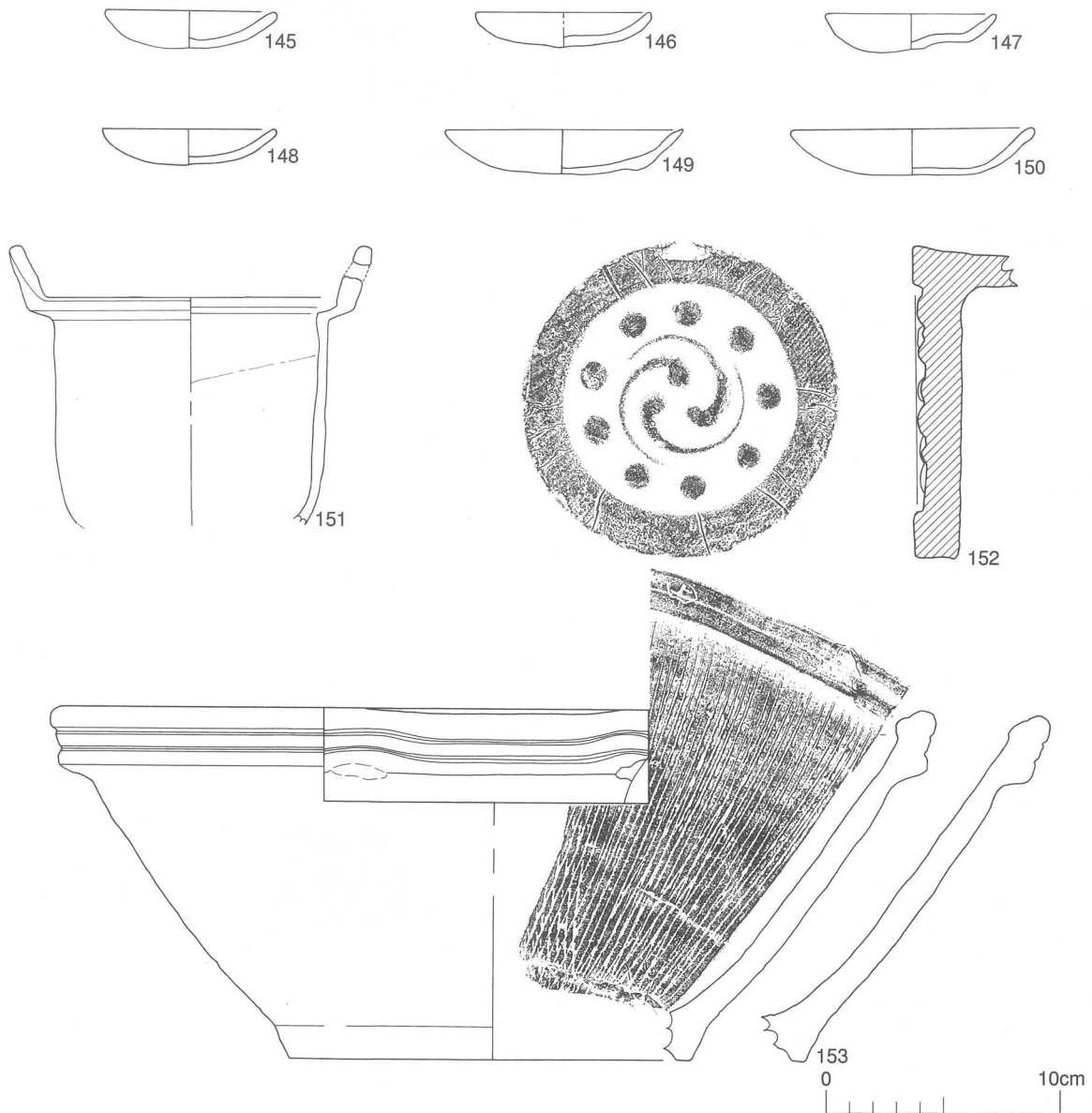
第36図 埋桶3 平面・断面図

埋桶5 (第34図 図版15)

調査区北側に位置する埋桶遺構である。埋桶2と土坑36を切っている。掘り方の平面形は直径90~95cmで円形である。深さは検出面から32cmである。桶本体は残存していない。出土遺物は伊賀・信楽焼鍋などである。

埋桶6・7・8 (第34図 図版15・16)

調査区北側に位置する埋桶遺構である。3基とも土坑35を切っている。掘り方の平面形はそれぞれ直径60~70cmの円形である。検出面からの深さは埋桶6と8が13cm、埋桶7が19cmと若干差がある。桶本体は残存していない。これら3基は並列して検出し、規模も



第37図 埋桶3 出土遺物

同程度なので一組のものとも考えられる。出土遺物は、柿釉皿や丹波焼甕の破片が出土している。概ね18世紀代と考えられる。

埋桶9・10・11・12 (第40図 図版17)

調査区北東側に位置する埋桶遺構である。それぞれの遺構の形や規模は次の通りである。

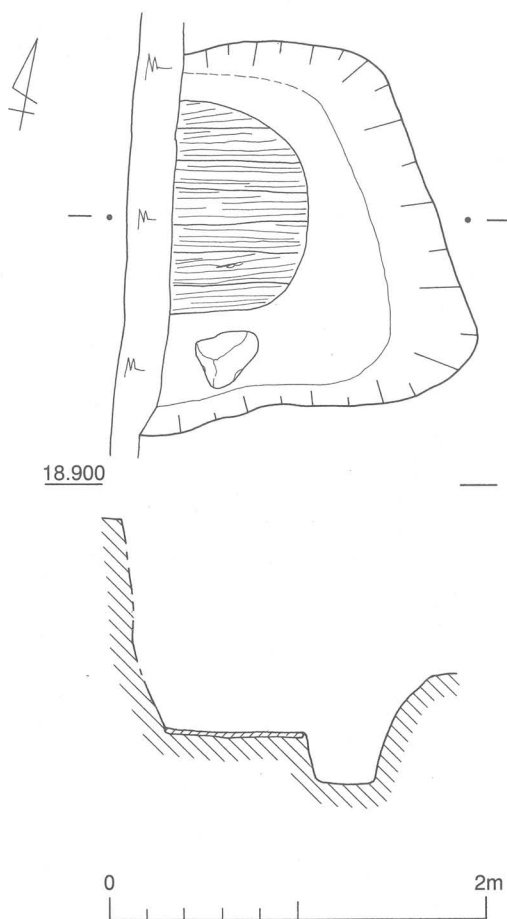
埋桶9の平面形は掘り方が長さ1.2m、幅1.0mの楕円形である。深さは30cmである。桶本体は腐食して残存していないが土層で確認できた。桶本体の直径は約80cmである。出土遺物は、土師皿、焙烙、瓦質鍋、肥前白磁染付碗・皿などが出土している。概ね18世紀初頭と考えられる。

埋桶10の平面形は掘り方が長さ1.3m、幅1.0mの不整形である。深さは20cmである。桶本体は残存せず、掘り方のみ確認できた。遺物は出土していない。

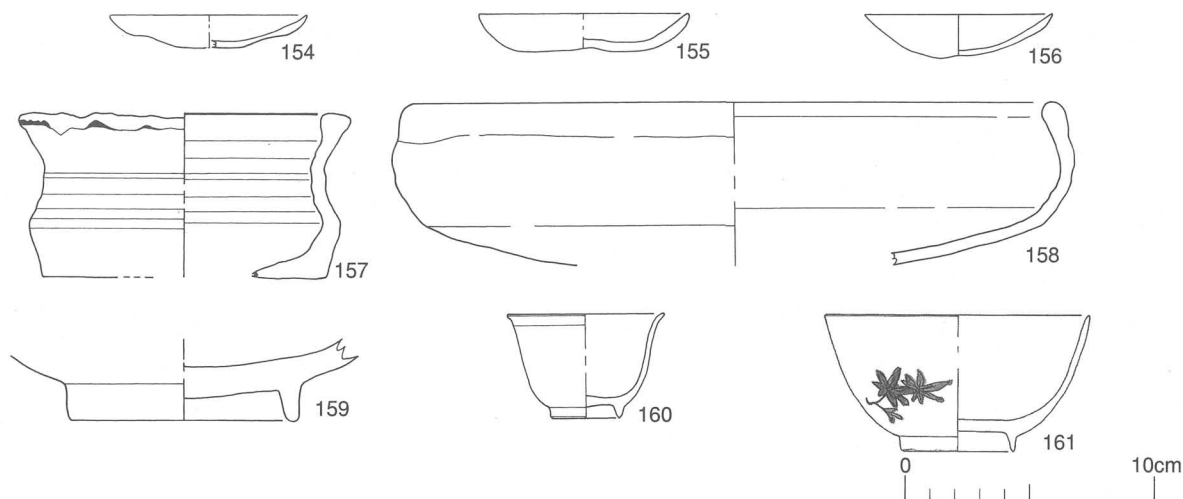
埋桶11の平面形は長さ1.2m、幅1.0mの楕円形である。深さは15cmである。桶本体は残存せず、掘り方のみ確認できた。遺物は出土していない。

埋桶12の平面形は長さ1.2m、幅1.0mの楕円形である。深さは約10cmである。桶本体は残存していない。本体の直径は75cmである。焼けた瓦が出土している。

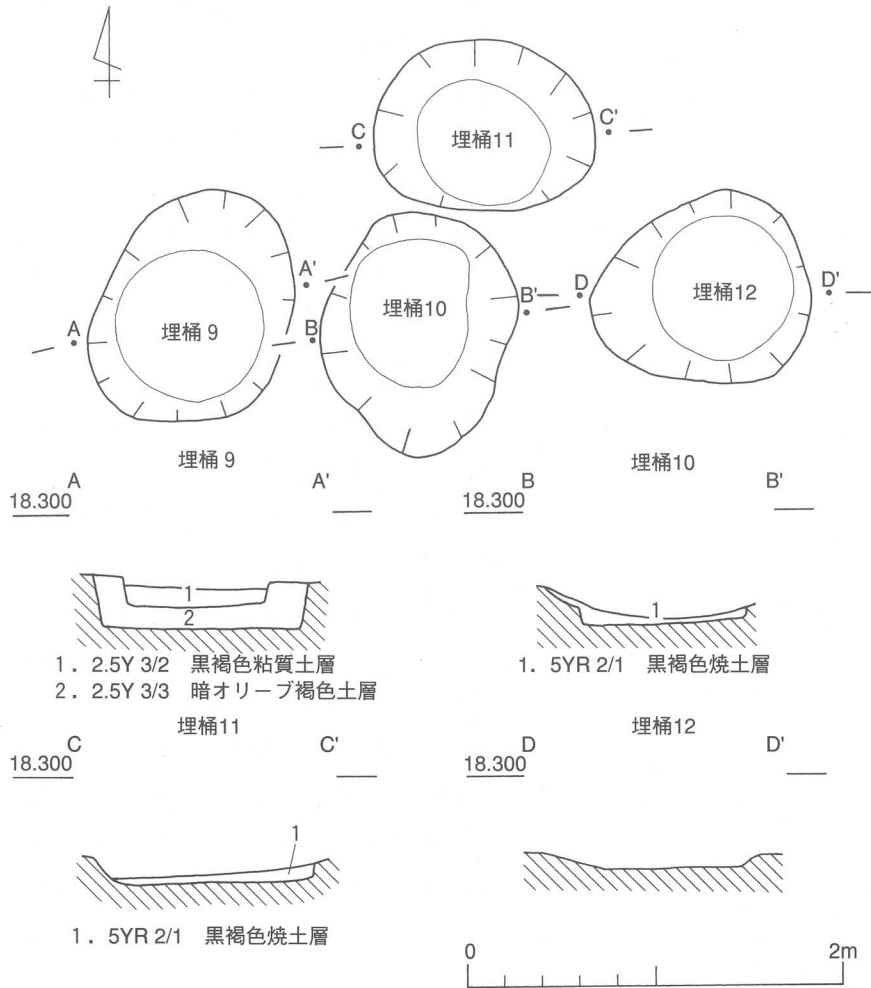
(岡野)



第38図 埋桶4 平面・断面図



第39図 埋桶4 出土遺物



第40図 埋桶9・10・11・12平面・断面図

土坑

土坑4 (第41図 図版2・20)

調査区の中央部北寄りに位置する。不整形の土坑で遺構の中央を溝1に南北に切られている。遺構の規模は、長さ1.5m、幅64cm、深さ29cmを測る。

出土遺物には、肥前青磁香炉(162)、瓦質浅鉢の破片などがある。概ね18世紀前半から中頃と考えられる。

土坑5 (第41図 図版20)

調査区の中央部に位置する楕円形の土坑である。遺構の規模は、長さ78cm、幅54cm、深さ6cmを測る。出土遺物には、肥前青磁碗(163)がある。概ね17世紀中頃と考えられる。

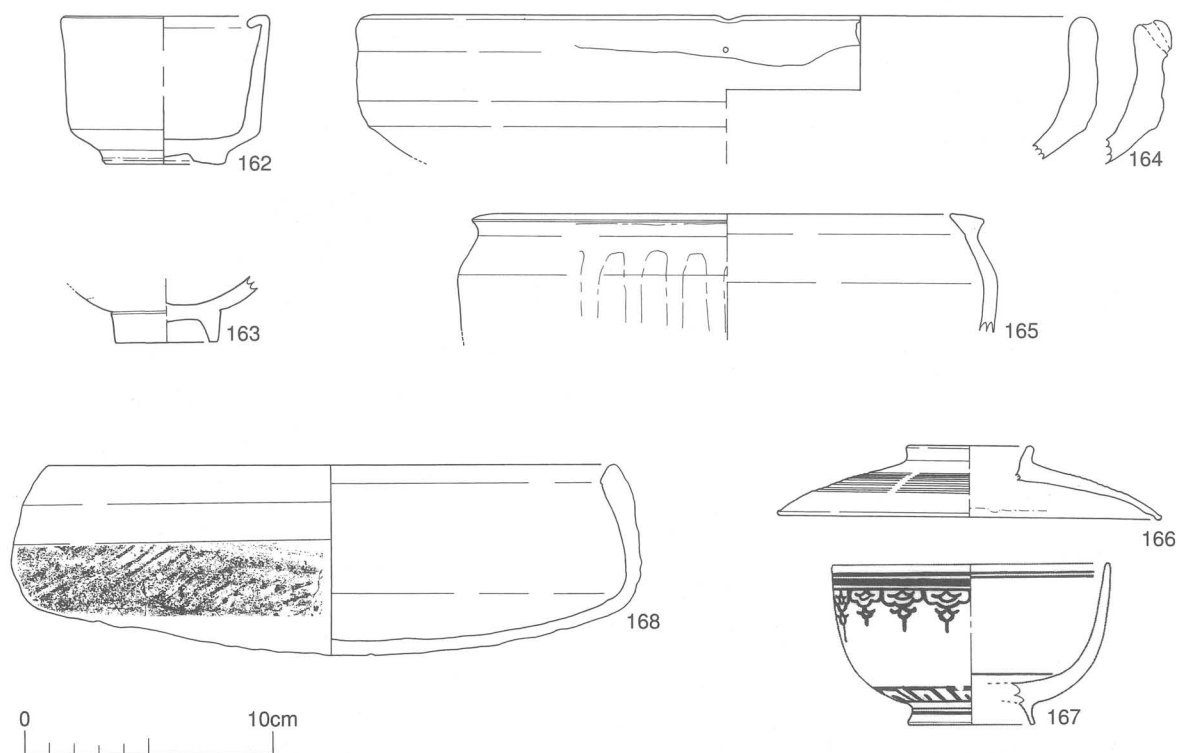
土坑13 (第41図 図版2・20)

調査区の北東隅に位置する。楕円形の土坑で、遺構の北側を竈に切られている。遺構の規模は長さ80cm、幅40cm、深さ8cmを測る。

出土遺物には、焙烙(164)、丹波焼甕(165)、唐津焼砂目積み皿などがある。概ね18世紀前半と考えられる。

土坑16 (第41図 図版20)

調査区東壁際に位置し、遺構の東側は調査区外に延びているため、形状は不明である。遺構の規模



第41図 土坑4・5・13・16・18出土遺物

土坑4-162 土坑5-163 土坑13-164、165
土坑16-166、167 土坑18-168

は、検出長80cm、幅32cm、深さ22cmを測る。

出土遺物には、伊賀・信楽焼蓋（166）、肥前白磁染付碗（167）などがある。概ね18世紀後半から19世紀前半と考えられる。

土坑18（第41図 図版3・20）

調査区の東側に位置する円形の土坑である。遺構の規模は、直径1.3m、深さ18cmを測る。

出土遺物には、焙烙（168）、細片であるため図示できなかったが瀬戸・美濃焼志野菊皿などがある。概ね17世紀前半と考えられる。

土坑23（第42図 図版3・20）

調査区の南東に位置する楕円形の土坑である。土坑の西側を井戸5に切られている。遺構の規模は、長さ1.2m、幅73cm、深さ22cmを測る。

出土遺物には、伊賀・信楽焼鉄絵碗（169）などがある。概ね18世紀後半と考えられる。

土坑29（第42図 図版20）

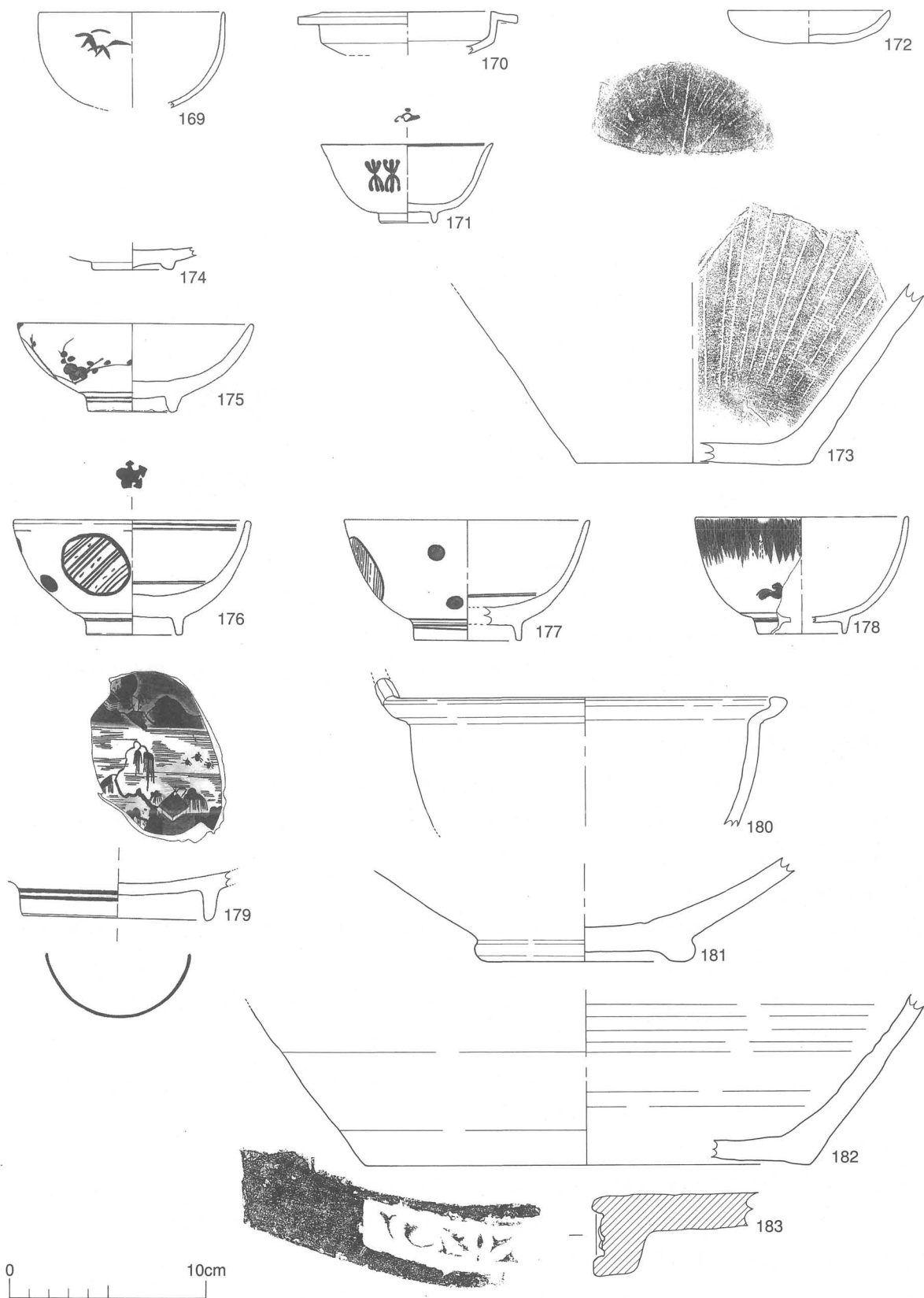
調査区での位置は不明である。出土遺物には、伊賀・信楽焼土瓶蓋（170）、瀬戸染付端反小碗（171）などがある。概ね19世紀前半と考えられる。

土坑34（第42図 図版3・20）

調査区の東側に位置する隅丸方形の土坑である。遺構の規模は、長さ2.7m、幅78cm、深さ8cmを測る。出土遺物には、土師皿（172）、丹波焼播鉢（173）などがある。概ね17世紀前半と考えられる。

土坑35（焼土処理土坑）（第42図 図版20・21）

調査区の北壁際東寄りに位置する。遺構の北側は調査区外に広がっている。西側を土坑36・埋桶5に、南側を井戸10に切られている。遺構の規模は、検出長2.6m、幅2.4m、深さ11cmを測る。埋土は、瓦・焼けた壁土を多量に含む灰黄褐色粘砂層と黒褐色粘質土層であり、焼土処理土坑と考えられる。



第42図 土坑23・29・34・35出土遺物

土坑23-169 土坑29-170、171
土坑34-172、173 土坑35-174~183

出土遺物には、唐津焼鉢（181）、丹波焼甕（182）、伊賀・信楽焼鍋（180）、肥前青磁皿（174）・白磁染付碗（175～178）・染付大皿（179）、軒平瓦（183）などがある。概ね18世紀後半と考えられる。

土坑47（第43図 図版21）

調査区の中央部に位置する。土坑の南側を土坑48に切られ、形状は不明である。遺構の規模は、検出長51cm、幅29cm、深さ22cmを測る。出土遺物には、肥前白磁染付仏飯具（184）、肥前陶器碗（185）、丹波焼播鉢などである。概ね17世紀後半から18世紀前半と考えられる。

土坑53（第43図 図版4・21・22）

調査区の中央部に位置する、ほぼ円形の土坑である。遺構の規模は、直径94cm、深さ33cmを測る。出土遺物には、土師皿（186）、伊賀・信楽焼灯明受皿（187）、肥前白磁紅皿（188）・白磁染付小坏（189）・染付碗（190）・青磁染付筒形碗（191）などがある。概ね18世紀後半から19世紀初頭と考えられる。

土坑55（第44図 図版4・22）

調査区の北西に位置する不整楕円形の土坑である。遺構の規模は、長さ1.1m、幅92cm、深さ32cmを測る。出土遺物には、焙烙（192）、堺焼播鉢（199）、伊賀・信楽焼鍋（193）、肥前青磁染付碗蓋（198）・白磁染付小碗（194）・染付碗（195・196）・青磁染付筒形碗（197）、軒瓦（200）、焜炉などがある。概ね18世紀後半と考えられる。

土坑56（第45図 図版5・22）

調査区の中央部に位置する。楕円形の土坑で、遺構の北側を溝5に南北を切られている。

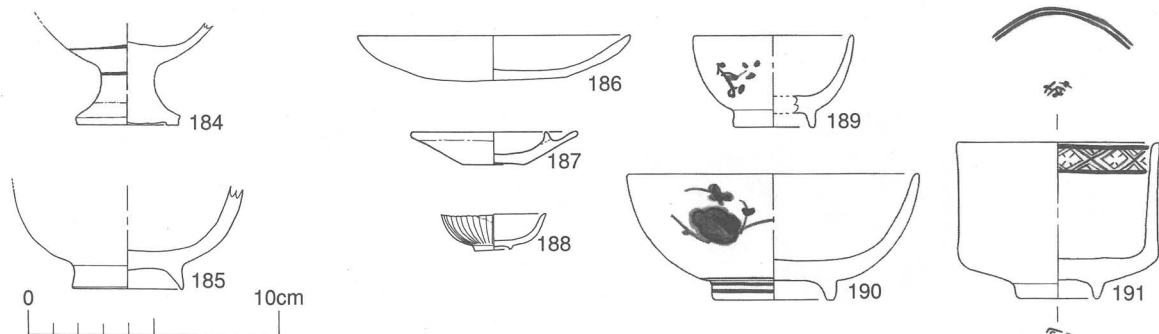
遺構の規模は、検出長1.2m、幅62cm、深さ30cmを測る。遺構の底面南側から、一辺30cmの方形の石が検出されている。出土遺物には、丹波焼壺（202）、堺・明石焼播鉢などがある。概ね18世紀中頃から後半と考えられる。

土坑57（第45図 図版5・23）

調査区の中央部に位置する隅丸方形の土坑である。遺構の規模は、長さ83cm、幅40cm、深さ27cmを測る。出土遺物には、肥前白磁染付の二重網目文碗（202）などがある。概ね18世紀後半と考えられる。

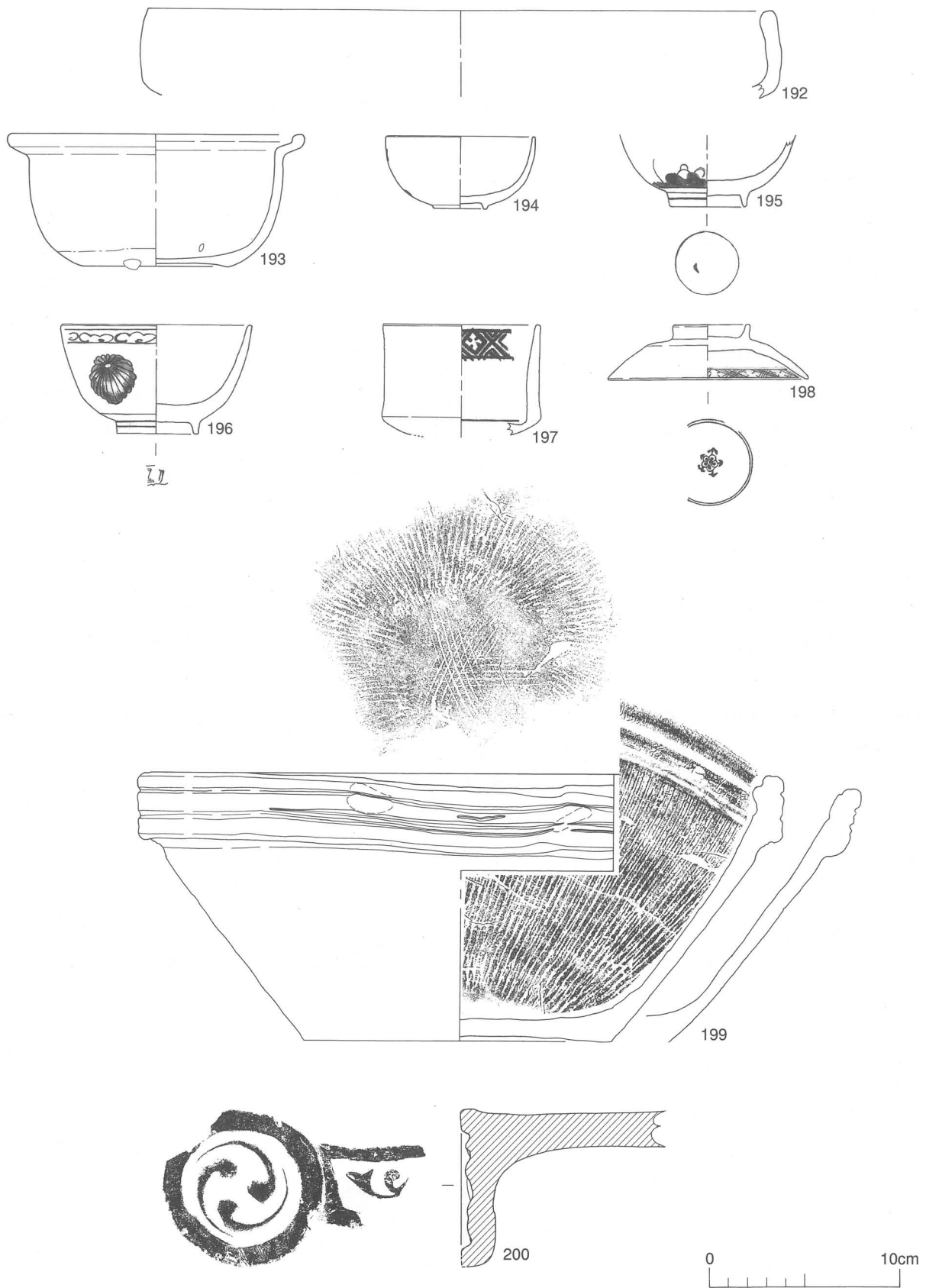
土坑60（第45図 図版5・23）

調査区の中央部に位置する。2段掘りの不整楕円形の土坑である。遺構の規模は、長さ70cm、幅58cm、最深36cmを測り、遺構底面の北側は直径40cmの円形に掘り込んでいる。遺構底面の南側には30cm大の石2個と瓦が並んで検出された。出土遺物には、ネジ込み式の陶器製栓（203）がある。



第43図 土坑47・53出土遺物

土坑47-184、185
土坑53-186～191



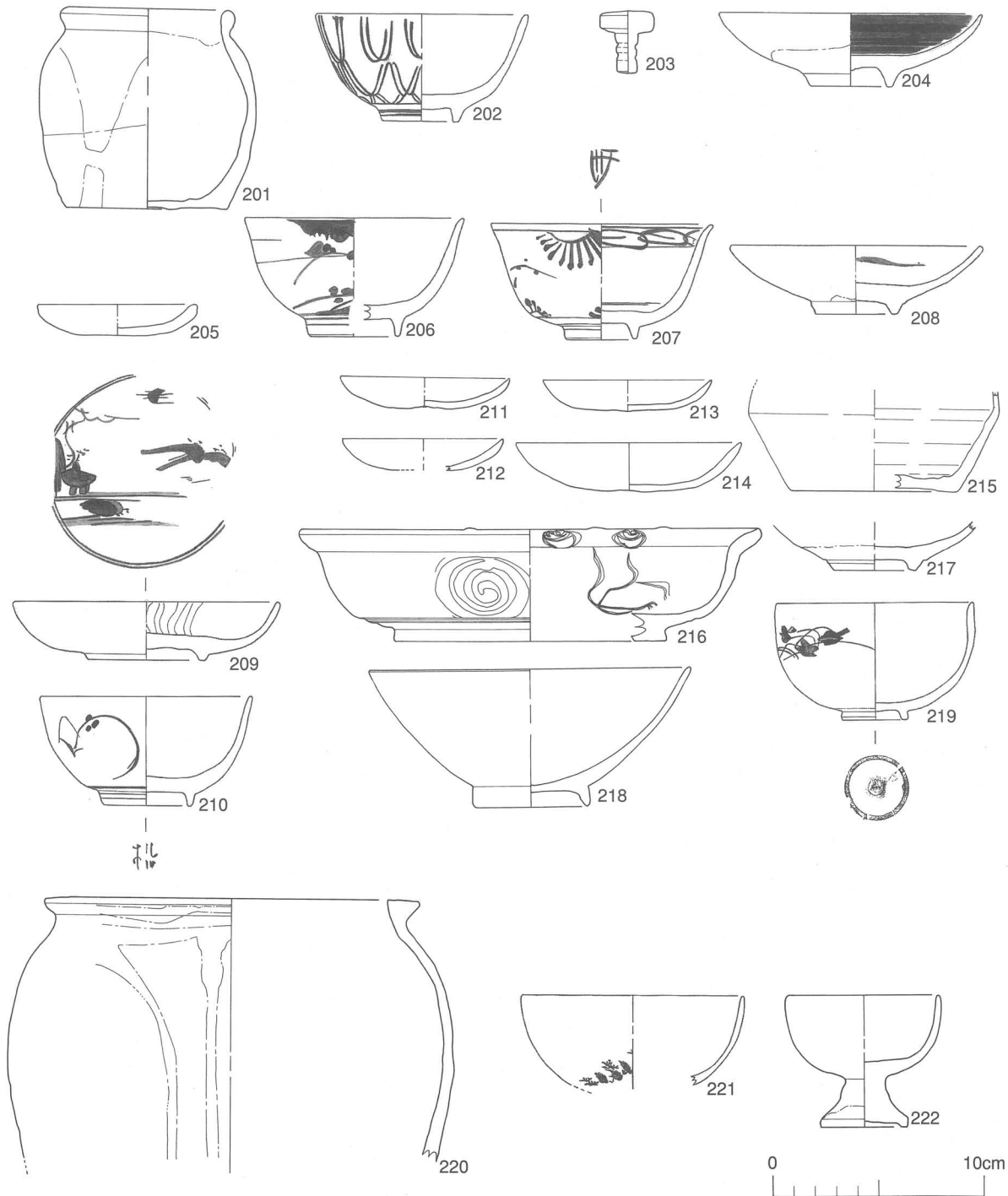
第44图 土坑55出土遺物

土坑62 (第45図 図版6・23)

調査区の中央部に位置する隅丸方形の土坑である。遺構の規模は、長さ72cm、幅50cm、深さ33cmを測る。出土遺物には、唐津焼刷毛目皿(204)などがある。概ね18世紀前半から中頃と考えられる。

土坑63 (第45図 図版6・23)

調査区の南西側に位置する長方形の土坑である。遺構の規模は、長さ1.4m、幅1.1m、最深70cmを測る。遺構の四壁・床面に漆喰を張り、床面中央に直径60cm、深さ19cmの円形の穴が掘られている。



第45図 土坑56・57・60・62・63・65・67出土遺物

土坑56-201 土坑57-202 土坑60-203
 土坑62-204 土坑63-205~210
 土坑65-211~219 土坑67-220~222

遺構の性格は不明である。出土遺物には、土師皿（205）、肥前白磁染付碗（206）、瀬戸白磁染付端反碗（207）、肥前白磁染付皿（208・209）・染付碗（210）などがある。概ね19世紀後半と考えられる。

土坑65（第45図 図版6・23・24）

調査区の南壁際に位置する。土坑の南側は調査区外に広がっているため、形状は不明である。遺構の規模は、検出長2.2m、幅1.1m、深さ41cmを測る。

出土遺物には、土師皿（211～214）、軟質施釉陶器鉢（216）、丹波焼壺（215）、肥前白磁皿（217）・碗（218）、京焼鉄絵染付碗（219）などがある。概ね18世紀後半から19世紀前半と考えられる。

土坑67（第45図 図版24）

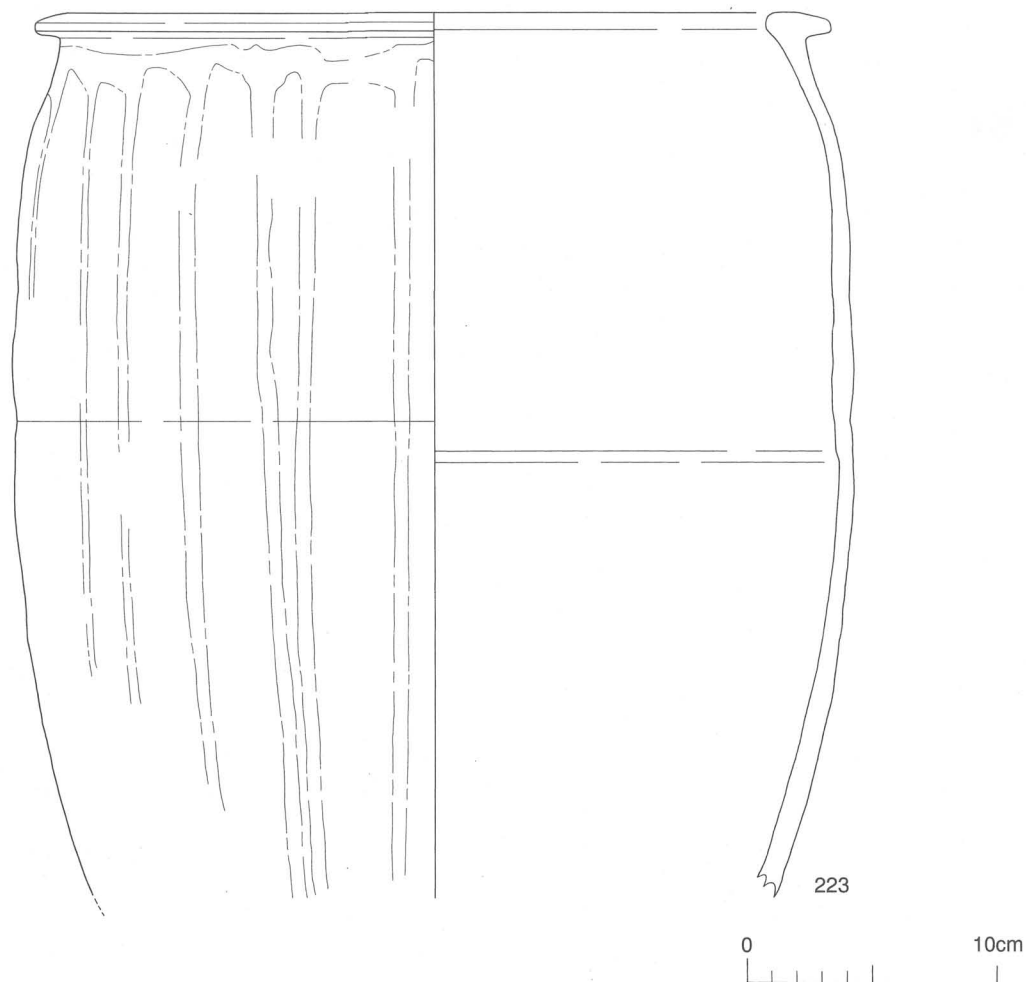
調査区の南西隅に位置する円形の土坑である。土坑の北側が溝4の南端を切っている。遺構の規模は、直径75cm、深さ33cmを測る。出土遺物には、丹波焼甕（220）、肥前白磁染付碗（221）・青磁仏飯具（222）、唐津焼大鉢（三島手）の細片などがある。概ね18世紀代と考えられる。

土坑70（第46図 図版43）

調査区の南西隅に位置する円形の土坑である。遺構の規模は、直径40cm、深さ6cmを測る。出土遺物には、丹波焼甕（223）などがある。

土坑73（第47図 図版24）

調査区の西壁南側に位置する。遺構の西側は調査区外へ延びており、南側は溝6に切られているた

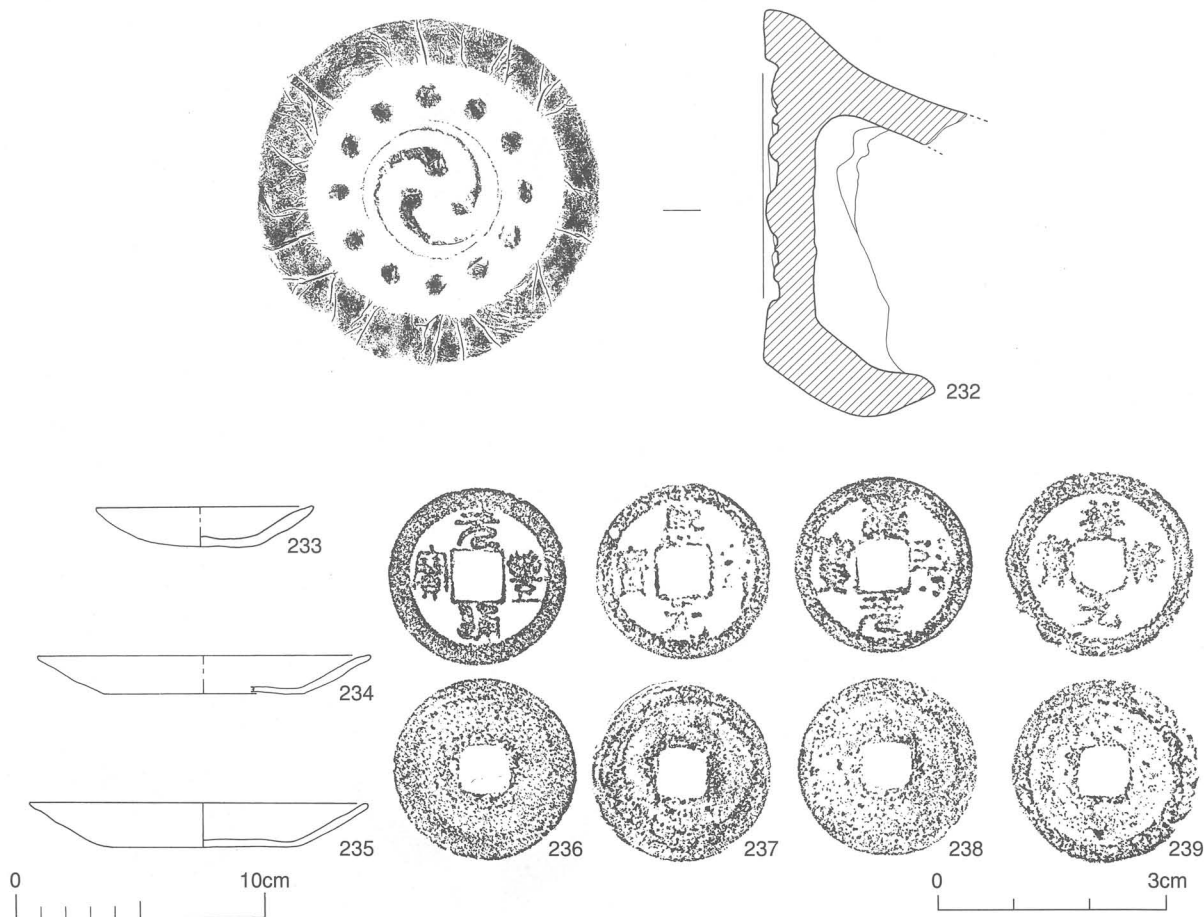


第46図 土坑70出土遺物



第47図 土坑73・74・84・87・94・97出土遺物

土坑73-224 土坑74-225、226 土坑84-227
 土坑87-228 土坑94-229 土坑97-230、231



第48図 土坑125・131出土遺物

土坑125-232 土坑131-233~239

め、形状は不明である。遺構の規模は、検出長1.5m、幅93cm、深さ38cmを測る。

出土遺物には、丹波焼播鉢（224）などがある。概ね17世紀中頃から後半と考えられる。

土坑74（第47図 図版7・24）

調査区の南壁際西側に位置する。遺構の南側は調査区外に延びており、全体の形状は不明である。遺構の規模は、検出長1.9m、幅60cm、深さ19cmを測る長方形の土坑である。出土遺物には、唐津焼刷毛目碗（226）、肥前白磁染付碗蓋（227）などがある。概ね18世紀後半と考えられる。

土坑84（第47図 図版7・25）

調査区の中央に位置する隅丸方形の土坑である。遺構の規模は、長さ98cm、幅83cm、深さ14cmを測る。遺構のほぼ中央から、完形の土師皿が口縁を上にした状態で検出されているが、遺構の性格は不明である。出土遺物は、土師皿（229）のみである。概ね16世紀後半と考えられる。

土坑87（第47図 図版24）

調査区の中央部北側に位置する楕円形の土坑である。遺構の西側を土坑106に切られている。遺構の規模は、検出長62cm、幅43cm、深さ23cmを測る。遺構の底から一石五輪塔の一部が検出されている。出土遺物は、一石五輪塔（225）のみである。

土坑94（第47図 図版25）

調査区の西側に位置する不整円形の土坑である。遺構の規模は、直径75~83cm、深さ16cmを測る。出土遺物には、肥前白磁染付碗（228）、瀬戸白磁染付端反碗などがある。概ね19世紀中頃から後半

と考えられる。

土坑97 (第47図 図版25)

調査区の西側中央部に位置する不整形の土坑である。遺構の規模は、長さ1.6m、幅20cm、深さ38cmを測る。出土遺物には、土師皿(230)、軒丸瓦(231)、肥前白磁染付碗(一重網目文)、肥前京焼風陶器碗などがある。概ね18世紀前半と考えられる。

土坑125 (第48図 図版8・25)

調査の北壁際に位置する形状不明の土坑である。遺構の北側は調査区外に広がり、西側は土坑146・土坑98・攪乱によって切られている。遺構の規模は、検出長1.9m、幅62~72cm、深さ10cmを測る。出土遺物には、鳥衾瓦(232)などがある。この他に、肥前陶器皿(内野山窯)、肥前白磁染付碗(コンニャク印判)、丹波焼甕・徳利などが出土している。概ね18世紀前半と考えられる。

土坑131 (第48図 図版8・25)

調査区の南壁中央に位置する隅丸方形の土坑である。遺構の規模は、長さ65cm、幅55cm、深さ27cmを測る。出土遺物は、土師皿(233~235)、元豊通寶(236)、熙寧元寶(237)、治平元寶(238)、祥符元寶(239)などがある。概ね16世紀前半から中頃と考えられる。

(岩田)

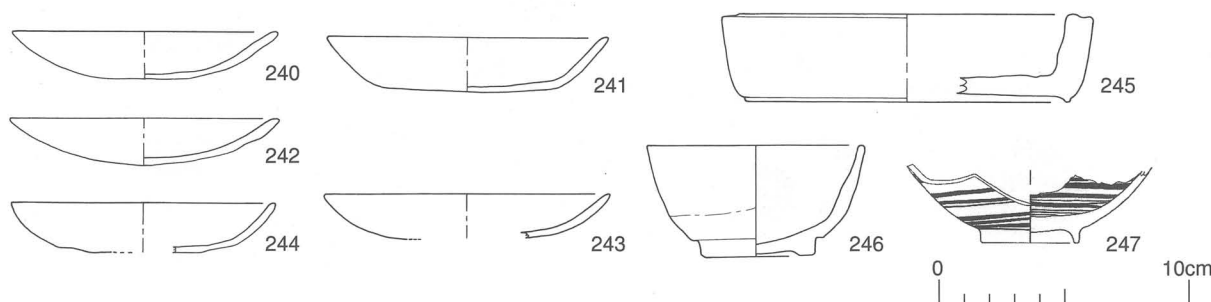
第4節 遺構外出土の遺物

遺構外出土遺物 (第49~51図 図版40~43)

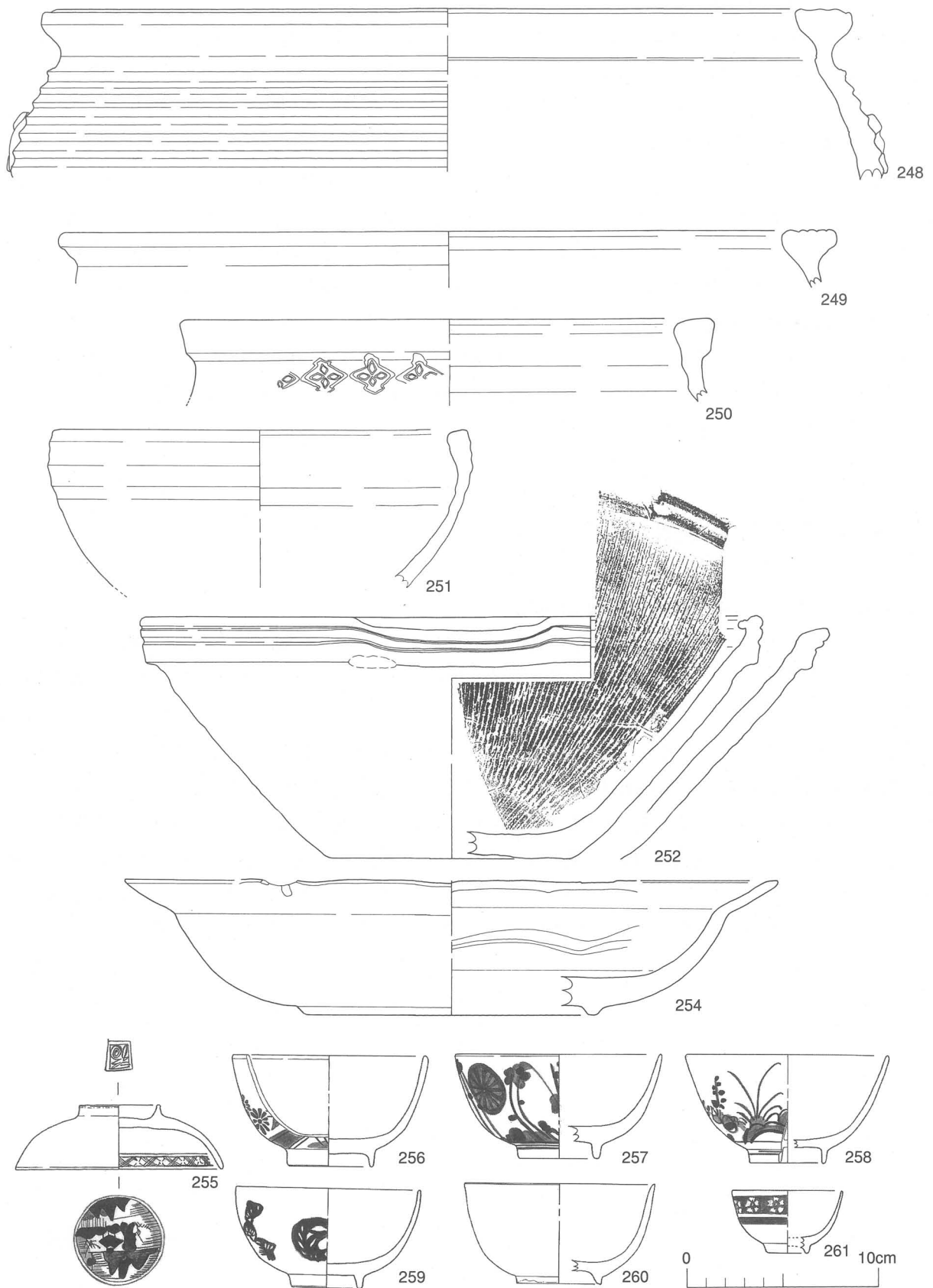
今回の発掘調査では、すべての遺構を地山面で検出したため、重機により地山上面まで掘り下げた。その結果、重機掘削中に多くの遺物が遊離した状態で出土した。したがって、出土した遺物に一括性はない。

図示した遺物は、遺構外出土の遊離遺物のうち、遺存の度合いが大きいものを特に取り上げている。遺物を概観すると、概ね遺構内から出土したものと时期的にも変わりがない。その中で注目される遺物は、弥生時代中期の壺型土器の口縁部(274)である。調査した結果、この時期の遺構はまったく検出されなかったが、付近では、本地点より南150mの地点で実施した第66次、北側40mで実施した第219次調査でも弥生時代中期(Ⅳ様式)の壺が出土している。他の2地点では、溝状遺構の中から出土しており、状況から考えて集落遺跡ではなく墓(周溝墓)の可能性が考えられる。

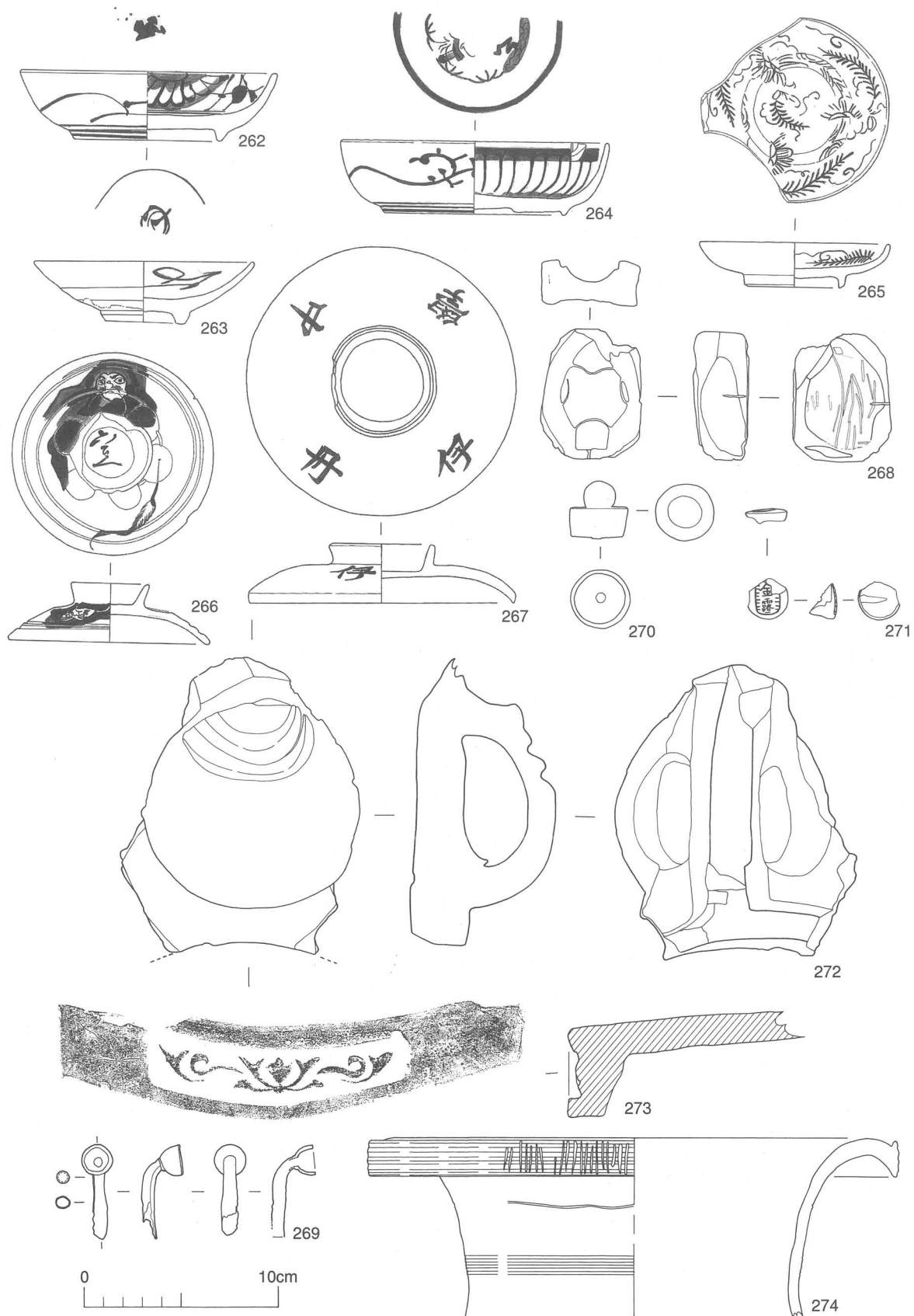
(小長谷)



第49図 遺構外出土遺物(1)



第50図 遺構外出土遺物（2）



第51図 遺構外出土遺物（3）

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
溝5	第13図-1 図版26-83	染付碗蓋	青磁	口 径 (11.2) cm 器 高 3.3 cm つまみ径 (4.8) cm	外面青磁釉 内面、つまみ内白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込み二重圏線有り つまみ量付露胎	肥前 45%
	第13図-2 図版26-84	玉垣	石		一面の基礎部分に長方形の掘り込みを設ける	花崗岩 5% 玉垣の一部のみ残存
溝6	第13図-3 図版25-81	皿	陶器	高台径 6.1 cm	灰釉 見込み蛇の目釉剥ぎ 重ね焼き痕有り 高台周辺露胎	唐津 70%
	第13図-4 図版25-82	染付碗	白磁	口 径 (11.2) cm 器 高 5.6 cm 高台径 (5.0) cm	外面雨降り文 見込み蛇の目釉剥ぎ 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 20%
	第13図-5 図版25-80	染付紅猪口	白磁	口 径 (5.7) cm 器 高 2.5 cm 高台径 (2.4) cm	外面文様有り 高台量付露胎	肥前 45%
	第13図-6 図版25-79	ミニチュア 製品	素焼き	口 径 (4.4) cm 器 高 7.6 cm 高台径 (2.5) cm	ままごと道具(碗) 削り出し高台 内外面ヨコナデ	60%
井戸2	第15図-7 図版26-85	染付碗蓋	白磁	口 径 9.8 cm 器 高 3.0 cm つまみ径 4.2 cm	外面藤文と蛸唐草文 つまみ内「廣」銘と圏線有り 内面口縁部雷文 つまみ量付露胎	瀬戸 97%
	第15図-8 図版26-86	染付小杯	白磁	口 径 (5.0) cm 器 高 2.9 cm 高台径 2.0 cm	外面網目文 内面に金で「まん起きねん」銘と錨の文様有り 高台内金で「田中」銘有り 高台量付露胎	瀬戸 50%
井戸6	第19図-9 図版26-88	土師皿	素焼き	口 径 (10.8) cm	手捏ね成形 外面ナデ 内外面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 50% 口縁煤付着
	第19図-10 図版26-87	擂鉢	陶器	底 径 (15.4) cm	クシ目一単位8本 外面体部下半ロクロナデ 底部付近ヘラケズリ	丹波 15% 底部灰釉掛かる
	第19図-11 図版27-99	甕	陶器	口 径 (24.3) cm	内外面塗り土を施す	丹波 5%
	第19図-12 図版26-91	甕	陶器	底 径 (16.2) cm	ロクロ成形 内外面塗り土を施す 外面体部の一部に灰釉掛かる	丹波 10%
	第19図-13 図版26-92	染付碗	白磁	口 径 (9.7) cm 器 高 5.9 cm 高台径 4.0 cm	外面梅樹文 高台内「大明年製」銘と圏線有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 70%
	第19図-14 図版27-93	染付碗	白磁	口 径 (10.6) cm 器 高 5.4 cm 高台径 4.2 cm	外面梅樹文 高台内圏線有り 見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第19図-15 図版27-94	染付碗	白磁	口 径 (10.9) cm 器 高 5.5 cm 高台径 (4.7) cm	外面蔓草文とコンニャク印判花文併用 高台内銘と圏線有り 高台量付露胎	肥前 25%
	第19図-16 図版27-97	染付碗	白磁	口 径 (10.5) cm 器 高 5.5 cm 高台径 (4.5) cm	外面蔓草文とコンニャク印判花文併用 高台内銘と圏線有り 高台量付露胎	肥前 25%
	第19図-17 図版27-96	染付碗	白磁	口 径 (9.7) cm 器 高 5.6 cm 高台径 (4.1) cm	外面蔓草文とコンニャク印判菊文併用 高台内圏線有り 高台量付露胎	肥前 20% 外面、内面体部下半貫入
	第19図-18 図版27-95	染付蓋物	白磁	口 径 10.2 cm 器 高 6.8 cm 高台径 7.5 cm	筒形 外面横縞文 内外面口縁部露胎 底部露胎	肥前 95%
	第19図-19 図版26-89	皿	白磁	口 径 (11.3) cm 器 高 3.4 cm 高台径 (6.5) cm	型打ち成形 口縁輪花 高台量付露胎	肥前 30%
	第19図-20 図版27-98	染付皿	白磁	口 径 (13.5) cm 器 高 3.6 cm 高台径 (7.6) cm	外面唐草文 内面菊文と斜格子文 高台内圏線有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 30%

表1 遺物観察表(1)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸6	第19図-21 図版26-90	染付小坏	白磁	口径 (5.2) cm 器高 3.0 cm 高台径 1.9 cm	見込み山と松文に「千鷹」銘有り 高台量付露胎	瀬戸 60%
井戸8	第22図-22 図版27-101	土師皿	素焼き	口径 7.8 cm 器高 1.7 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 90% 口縁部煤付着
	第22図-23 図版27-103	土師皿	素焼き	口径 7.4 cm 器高 1.9 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 100% 内外面煤けている
	第22図-24 図版27-100	土師皿	素焼き	口径 (7.4) cm 器高 1.7 cm	ロクロ成形 底部糸切り痕有り(右巻き)	在地 50%
	第22図-25 図版27-102	土師皿	素焼き	口径 6.7 cm 器高 1.2 cm	ロクロ成形 底部糸切り痕有り(右巻き)	在地 90% 口縁部煤付着
	第22図-26 図版27-104	焙烙	素焼き	口径 (30.5) cm	底部外型成形 内外面ヨコナデ	在地 5%
	第22図-27 図版27-105	秉燭	軟質施釉陶器	口径 5.1 cm 器高 2.1 cm 底径 3.2 cm	型作り成形 内面柿釉 内外面底部指頭圧痕有り 灯明芯保持部分貼り付け 外面露胎	99%
	第22図-28 図版28-106	ニチュア製品	軟質施釉陶器	口径 2.0 cm 器高 2.5 cm 底径 2.0 cm	ままごと道具(壺) ロクロ成形 底部糸切り痕有り 外面口縁部から肩部淡黄色釉 外面口縁部から体部 緑釉流し掛け 外面体部下半、内面露胎	99%
	第22図-29 図版28-107	十能	素焼き	最大厚 2.4 cm	底部型作り 内面ヨコナデ 内外面雲母粉付着	50% 外面底部煤けている
	第22図-30 図版28-108	ニチュア製品	素焼き	高さ 5.2 cm 幅 2.8 cm 厚み 1.9 cm	人形(太夫) 型押し成形 底部孔有り 表面雲母粉付着	100%
	第22図-31 図版28-109	焼塩壺蓋	素焼き	径 7.8 cm 厚み 1.7 cm	外型成形	98%
	第22図-32 図版28-110	碗	陶器	口径 (9.8) cm 器高 5.8 cm 高台径 3.7 cm	灰釉 高台周辺露胎	京焼系 50% 内外面貫入
	第22図-33 図版28-111	色絵碗	陶器	口径 (9.1) cm 器高 6.2 cm 高台径 2.6 cm	外面菊花文 高台周辺露胎	京焼 40% 内外面貫入
	第22図-34 図版28-112	鉄絵碗	陶器	口径 9.1 cm 器高 5.5 cm 高台径 3.1 cm	外面文様有り 高台周辺露胎	京焼系 90% 内外面貫入
	第22図-35 図版28-113	腰鑄碗	陶器	口径 (9.8) cm	外面体部下半から鑄釉を施す	瀬戸・美濃 25% 内外面貫入
	第22図-36 図版28-114	染付鉢	陶器	口径 (15.8) cm 器高 7.6 cm 高台径 7.0 cm	灰釉 外面文様有り 高台内刻印有り 内面、高台 周辺露胎	京焼系 50% 外面貫入
	第22図-37 図版28-115	碗	陶器	口径 (12.8) cm 器高 4.9 cm 高台径 4.2 cm	灰釉 見込み蛇の目釉剥ぎ 高台量付露胎 離れ砂 付着	唐津 65% 内外面貫入
	第22図-38 図版28-116	蓋	陶器	口径 8.8 cm 器高 1.9 cm つまみ径 1.3 cm	灰釉 ロクロ成形 つまみ有り 底部露胎	丹波 98%
	第22図-39 図版43-117	鍋	陶器	口径 (16.0) cm 器高 7.7 cm 底径 (7.4) cm	鉄釉 把手1ヶ所残存 脚1ヶ所残存 底部周辺露胎	伊賀・信楽 30%
	第23図-40 図版28-118	甕	陶器	口径 (26.2) cm	外面口縁部から体部に塗り土を施す 外面鉄釉と灰 釉を掛け流す 内面体部灰釉を施す	丹波 30%

表2 遺物観察表(2)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸8	第23図-41 図版43-119	甕	陶器	口 径 (26.0) cm 器 高 25.4 cm 底 径 (16.4) cm	鉄釉 内外面底部露胎	丹波 60% 灰被り
	第23図-42 図版29-120	甕	陶器	口 径 (50.0) cm	内外面に塗り土を施す	丹波 5%
	第24図-43 図版29-121	擂鉢	陶器	口 径 (37.4) cm 器 高 16.6 cm 底 径 (20.0) cm	クシ目一単位9本 見込みクシ目一単位7本 外面へラケズリ 底部高台風のつくりを持つ	堺 45%
	第24図-44 図版43-122	焼き損じ	陶器		甕：外面赤土部釉 内面灰釉 外面体部に鉛釉を掛け流す 徳利：赤土部釉 内面体部露胎	丹波 甕の体部に甕の口縁部と徳利の首部分が2つ溶着
	第24図-45 図版29-123	染付碗蓋	青磁	口 径 (11.0) cm 器 高 3.5 cm つまみ径 (4.2) cm	外面青磁釉 内面、つまみ内白磁釉 口縁口錆 内面口縁部四方禪文 見込み山水文と二重圏線 つまみ内二重方形枠の渦福 つまみ量付露胎	肥前 50%
	第24図-46 図版29-124	染付碗	青磁	口 径 (11.5) cm 器 高 6.9 cm 高台径 (4.7) cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 口縁口錆 内面口縁部四方禪文 見込み山水文と二重圏線有り 高台内銘有り 高台量付露胎	肥前 45%
	第24図-47 図版29-125	染付小碗	白磁	口 径 (7.6) cm 器 高 3.8 cm 高台径 (3.1) cm	外面文様有り 外面体部の一部と高台量付露胎	肥前 50%
	第24図-48 図版29-126	染付碗	白磁	口 径 (10.0) cm 器 高 5.0 cm 高台径 (4.2) cm	外面梅樹文 高台量付露胎	肥前 40% 内外面貫入
	第24図-49 図版29-127	染付皿	白磁	口 径 7.0 cm 器 高 1.2 cm 高台径 3.9 cm	外面唐草文 見込み山水文 高台量付露胎	肥前 90%
	第24図-50 図版29-128	染付皿	白磁	口 径 (13.6) cm 器 高 3.7 cm 高台径 (7.6) cm	外面唐草文 内面扇面葡萄文 見込み文様有り 高台内圏線有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第24図-51 図版30-129	染付皿	白磁	口 径 12.8 cm 器 高 3.9 cm 高台径 4.5 cm	内面二重斜格子文 見込み二重圏線と蛇の目釉剥ぎ有り アルミナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 80%
	第25図-52 図版30-130	染付碗	青磁	口 径 (11.1) cm 器 高 6.5 cm 高台径 4.4 cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線 高台内銘有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 70%
	第25図-53 図版30-131	染付碗	青磁	口 径 12.8 cm 器 高 7.0 cm 高台径 5.7 cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 口縁口錆 内面口縁部四方禪文 見込み山水文 高台内二重方形枠に渦福有り 高台量付露胎	肥前 95%
	第25図-54 図版30-132	染付碗	青磁	口 径 11.1 cm 器 高 6.5 cm 高台径 5.2 cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込み手描き五弁花と二重圏線有り 高台内二重方形枠に渦福有り 高台量付露胎	肥前 80%
	第25図-55 図版30-133	染付碗	白磁	口 径 10.4 cm 器 高 4.9 cm 高台径 4.6 cm	外面二重網目文 内面体部網目文 見込み菊文 高台内銘有り 高台量付露胎	肥前 50%
	第25図-56 図版30-134	染付碗	白磁	口 径 10.6 cm 器 高 5.2 cm 高台径 4.1 cm	外面松竹文 見込み蛇の目釉剥ぎ 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 98%
	第25図-57 図版30-135	染付碗	白磁	口 径 (10.7) cm 器 高 5.2 cm 高台径 4.7 cm	外面松竹梅文 見込み蛇の目釉剥ぎ 重ね焼き痕有り 高台量付露胎	肥前 75%
	第25図-58 図版30-136	染付小碗	白磁	口 径 (9.0) cm 器 高 4.2 cm 高台径 (4.1) cm	外面山水文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第25図-59 図版30-137	染付小碗	白磁	口 径 (9.1) cm 器 高 3.9 cm 高台径 3.6 cm	外面草花文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第25図-60 図版30-138	染付小杯	白磁	口 径 7.7 cm 器 高 5.2 cm 高台径 4.5 cm	口縁端反り 外面雪輪松梅文 高台内二重方形枠に渦福と圏線有り 高台量付露胎	肥前 95%

表3 遺物観察表(3)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸8	第25図-61 図版31-139	染付碗	白磁	高台径 4.7 cm	外面竹文 見込み花文と二重圏線有り 高台壘付露胎	肥前 35%
	第25図-62 図版31-140	染付碗	青磁	口径 (8.8) cm 器高 6.5 cm 高台径 (4.3) cm	筒形 外面、高台内青磁釉 内面白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線有り 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第25図-63 図版31-141	染付碗	青磁	口径 (7.7) cm 器高 6.1 cm 高台径 4.1 cm	筒形 外面、高台内青磁釉 内面白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線有り 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 70%
	第25図-64 図版31-142	染付碗	白磁	口径 (8.1) cm 器高 6.2 cm 高台径 3.8 cm	筒形 外面竹文 内面口縁部四方禪文 見込みコンニャク印判五弁花と圏線有り 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第25図-65 図版31-143	染付碗	白磁	口径 (8.1) cm	筒形 外面松竹文 内面口縁部二重圏線有り	肥前 40%
	第25図-66 図版31-144	染付蓋物	白磁	口径 9.9 cm 器高 7.9 cm 高台径 5.7 cm	外面横縞文 内面口縁部露胎 高台壘付露胎	肥前 90% 内外面体部下半貫入
	第25図-67 図版31-145	染付蓋物	白磁	高台径 7.8 cm	外面葡萄文 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 55%
	第25図-68 図版31-146	染付碗蓋	白磁	口径 (10.0) cm 器高 2.8 cm つまみ径 (4.2) cm	外面雨龍文と宝珠文 内面口縁部四方禪文 見込み二重圏線と環状松竹梅文か つまみ壘付露胎	肥前 40%
	第25図-69 図版31-147	染付碗蓋	白磁	口径 10.1 cm 器高 2.8 cm つまみ径 3.8 cm	外面牡丹文 内面口縁部四方禪文 見込み手描き五弁花と二重圏線有り つまみ内二重圏線有り つまみ壘付露胎	肥前 85%
	第25図-70 図版32-148	染付碗蓋	白磁	口径 10.0 cm 器高 2.6 cm つまみ径 4.3 cm	外面体部を3分割し、その窓ごとに松文・竹文・梅文を描く 内面口縁部四方禪文 見込み環状松竹梅文と二重圏線有り つまみ壘付露胎	肥前 90%
	第25図-71 図版32-149	染付蓋物蓋	白磁	口径 (8.0) cm	外面鶴丸文 口縁部露胎	肥前 50%
	第26図-72 図版32-150	染付蓋物蓋	白磁	口径 (11.3) cm	外面青海波文と竹梅文と草花文 口縁部露胎 離れ砂付着	肥前 25%
	第26図-73 図版32-151	染付瓶	白磁	口径 1.9 cm 器高 13.2 cm 高台径 5.0 cm	外面花文 内面体部、高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 75%
	第26図-74 図版32-152	染付碗蓋	白磁	口径 (10.1) cm 器高 2.9 cm つまみ径 4.9 cm	外面草花文 内面口縁部四方禪文 見込み環状松竹梅文と二重圏線有り つまみ壘付露胎	肥前 65%
	第26図-75 図版32-153	紅皿	白磁	口径 4.6 cm 器高 1.4 cm 高台径 1.5 cm	型押し成形 外面体部下半露胎	肥前 55%
	第26図-76 図版32-154	紅皿	白磁	口径 4.6 cm 器高 1.8 cm 高台径 1.4 cm	型押し成形 外面体部下半露胎	肥前 80%
	第26図-77 図版32-155	砥石	石	厚み 3.1 cm		粘板岩 20% 焼成を受けている
	第26図-78	軒平瓦	瓦	瓦当高 4.1 cm 周縁厚 1.4 cm	均整唐草文	25%
井戸9	第27図-79 図版33-157	碗	陶器	高台径 5.0 cm	呉器手 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 20% 内外面貫入
	第27図-80 図版33-158	碗	陶器	高台径 4.5 cm	呉器手 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 15% 内外面貫入

表4 遺物観察表(4)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸9	第27図-81 図版33-159	碗	陶器	高台径 4.7 cm	呉器手 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 20% 内外面貫入
	第27図-82 図版33-160	碗	陶器	高台径 5.0 cm	呉器手 高台量付露胎	肥前 40% 内外面貫入
	第27図-83 図版33-161	碗	陶器	口径 (10.5) cm	外面銅緑釉 内面透明釉 外面体部下露胎	肥前(内野山) 30% 内外面貫入
	第27図-84 図版33-162	碗	陶器	高台径 4.4 cm	内外面巻刷毛目文 高台量付露胎 離れ砂付着	唐津 50%
	第27図-85 図版33-163	色絵小碗	陶器	口径 (9.5) cm	外面赤・緑で笹文を施す 高台周辺露胎	京焼 80% 内外面貫入
	第27図-86 図版33-165	染付碗	白磁	口径 (7.7) cm	筒形 外面水裂菊花文 内面口縁部三重圏線有り 見込み二重圏線有り	肥前 35%
	第27図-87 図版33-164	染付皿	白磁	口径 (14.1) cm 器高 3.0 cm 高台径 (8.4) cm	外面唐草文 内面文様有り 見込み文様有り 高台内圏線有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 35%
	第27図-88 図版33-166	染付瓶	白磁	高台径 4.4 cm	外面草花文 内面体部、高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 40%
井戸10	第29図-89 図版33-167	皿	軟質施釉陶器	口径 (6.4) cm 器高 1.1 cm	柿釉 ロク口成形 底部糸切り痕有り	30%
	第29図-90 図版34-168	土師皿	素焼き	口径 (12.4) cm 器高 2.6 cm	手捏ね成形 内外面口縁部ヨコナデ	在地 20% 外面煤けている
	第29図-91 図版34-169	土師皿	素焼き	口径 (14.2) cm 器高 2.2 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ	在地 25% 内外面口縁部煤付着
	第29図-92 図版34-170	土師皿	素焼き	口径 (14.1) cm 器高 2.4 cm	手捏ね成形 内外面ヨコナデ	在地 30%
	第29図-93 図版34-171	蓋	陶器	口径 5.0 cm 器高 1.0 cm 底径 2.3 cm	ロク口成形 底部糸切り痕有り つまみ貼り付け 上面孔有り	伊賀・信楽 98% つまみ欠損
	第29図-94 図版34-172	鉄絵碗	陶器	口径 (9.5) cm 器高 5.4 cm 高台径 3.5 cm	外面若松文 高台周辺露胎	京焼系 30% 内外面貫入
	第29図-95 図版34-173	拳骨碗	陶器	口径 11.2 cm 器高 8.4 cm 高台径 5.0 cm	鉄釉 外面体部に長石を散らす くぼみ8ヶ所残存 外面口縁部周辺、高台量付露胎	瀬戸・美濃 85%
	第29図-96 図版34-174	碗	陶器	口径 8.9 cm 器高 5.2 cm 高台径 3.7 cm	長石釉 口縁端反り 高台周辺露胎	伊賀・信楽 80% 内外面貫入
	第29図-97 図版34-175	蓋	陶器	口径 9.0 cm 器高 2.6 cm つまみ高 1.0 cm	上面灰釉 下面塗り土を施す つまみ有り	丹波か 100%
	第30図-98 図版34-176	土瓶蓋	陶器	口径 11.5 cm 器高 3.2 cm 底径 5.1 cm	灰釉 つまみ有り 底部糸切り底有り 外面体部から底部露胎	伊賀・信楽 95% 内面貫入
	第30図-99 図版34-177	皿	陶器	口径 11.6 cm 器高 2.6 cm 底径 5.6 cm	灰釉 内面口縁部菊花状の粘土貼り付け 内面体部に4条の平行クシ目有り 外面口縁部より下露胎	伊賀・信楽 90% 外面口縁部、内面貫入 外面口縁部煤付着
	第30図-100 図版35-178	鍋	陶器	口径 20.5 cm 器高 11.6 cm 底径 8.5 cm	鉄釉 把手1ヶ所残存 内面底部目跡2ヶ所残存 外面底部周辺露胎	伊賀・信楽 60% 外面底部煤けている

表5 遺物観察表(5)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸10	第30図-101 図版35-179	器種不明	陶器	底 径 11.3 cm	鉄釉 ロク口成形 底部周辺に6ヶ所くぼみ有り	底部の一部
	第30図-102 図版35-180	壺	陶器	底 径 9.8 cm	外面白銅釉を施し、上から灰釉を流し掛け 外面底部目跡4ヶ所有り 内面底部目跡3ヶ所有り 内面露胎	丹波 10%
	第30図-103 図版35-181	壺	陶器	口 径 8.7 cm 器 高 9.5 cm 底 径 7.9 cm	鉄釉 外面口縁部下から灰釉を流し掛け 外面底部目跡1ヶ所有り 底部露胎	丹波 50%
	第30図-104 図版35-182	播鉢	陶器	口 径 (28.8) cm 器 高 12.7 cm 底 径 13.9 cm	クシ目一単位8本	堺・明石 50%
	第30図-105 図版35-183	染付碗	白磁	口 径 12.5 cm 器 高 5.3 cm 高台径 4.9 cm	外面梅文 見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 90%
	第30図-106 図版35-184	染付碗	白磁	高台径 5.3 cm	外面松文 見込み昆虫文と二重圏線有り 高台量付露胎	肥前 35%
	第30図-107 図版35-185	染付碗	白磁	口 径 11.9 cm 器 高 6.0 cm 高台径 4.8 cm	外面丸文 見込み蛇の目釉剥ぎ 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線 アルミナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 95%
	第30図-108 図版35-186	染付碗	白磁	口 径 12.1 cm 器 高 5.5 cm 高台径 4.8 cm	外面丸文 見込み蛇の目釉剥ぎ 見込みコンニャク印判五弁花と圏線有り アルミナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎	肥前 85%
	第30図-109 図版35-187	染付碗	白磁	口 径 12.2 cm 器 高 6.2 cm 高台径 5.0 cm	外面丸文 内面口縁部二重圏線 見込み蛇の目釉剥ぎ 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線 アルミナ砂塗布 高台内銘有り 高台量付露胎	肥前 90% 重ね焼き痕有り
	第30図-110 図版35-188	染付小碗	白磁	口 径 (9.9) cm 器 高 5.2 cm 高台径 (4.1) cm	外面寿字文 内面口縁部二重圏線有り 見込み寿字に圏線有り 高台量付露胎	肥前 25%
	第30図-111 図版35-189	染付碗	白磁	口 径 7.4 cm 器 高 5.4 cm 高台径 3.8 cm	筒形 外面竹文 内面口縁部二重圏線有り 見込み文様と圏線有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 80%
	第30図-112 図版36-190	染付蕎麦猪口	白磁	口 径 (7.1) cm 器 高 5.3 cm 高台径 (4.9) cm	外面花唐草文 高台内圏線有り 高台量付露胎	肥前 25%
	第30図-113 図版36-191	染付段重	白磁	口 径 (7.1) cm 器 高 3.1 cm 高台径 (4.4) cm	外面蛸唐草文 口縁端部、内面口縁部、高台量付露胎	肥前 30%
	第31図-114 図版36-192	青花碗	青磁	口 径 (7.0) cm 器 高 3.9 cm 高台径 3.2 cm	口縁端反り 外面、内面口縁部青磁釉 内面白磁釉 内面口縁部圏線有り 内面体部算木文 見込み対極文 高台量付、高台内露胎	中国 70%
	第31図-115 図版36-193	染付鉢	白磁	口 径 21.1 cm	口縁輪花 外面花唐草文 外面高台周辺文様有り 内面口縁部波濤文と花文 見込み文様と二重圏線有り	肥前 60% 焼き継ぎ痕有り
	第31図-116 図版36-194	染付皿	白磁	口 径 (14.2) cm 器 高 4.1 cm 高台径 9.0 cm	口縁口鏽 外面唐草文 内面体部花文 見込み文様と二重圏線有り 高台内銘と圏線有り 高台量付露胎	肥前 25%
	第31図-117 図版36-195	染付鉢	白磁	口 径 (15.9) cm 器 高 6.3 cm 高台径 10.6 cm	外面唐草文 内面体部を6ヶ所に区画し山水文と花文を交互に配す 見込み環状松竹梅文と帯状に花文めぐる 蛇の目凹型高台	肥前 98% 焼き継ぎ痕有り
	第31図-118 図版36-196	染付碗蓋	白磁	口 径 (9.6) cm 器 高 2.9 cm つまみ径 5.5 cm	外面風景文(太鼓橋と鳥居と帆掛船) 内面口縁部二重圏線有り 見込み帆掛船文と圏線有り つまみ量付露胎	肥前 50%
	第31図-119 図版36-197	染付蓋	白磁	口 径 (6.6) cm	外面コンニャク印判桐文 外面口縁部露胎	肥前 25% 外面貫入
	第31図-120 図版37-198	染付瓶	白磁	口 径 1.9 cm 器 高 10.0 cm 高台径 3.9 cm	外面草文 内面口縁から底部、高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 60%

表6 遺物観察表(6)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
井戸10	第31図-121 図版37-199	ミニチュア 製品	素焼き	径 4.1 cm 高さ 1.5 cm	独楽 型押し成形 表面雲母粉付着 中心に孔有り (貫通せず)	98%
	第31図-122 図版37-200	染付皿	白磁	口径 (12.2) cm 器高 3.6 cm 高台径 (4.8) cm	内面唐草文 見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 25%
	第31図-123 図版37-201	軒平瓦	瓦	瓦当高 4.1 cm 周縁厚 1.4 cm	均整唐草文	25%
竈	第32図-124 図版37-202	染付碗	白磁	口径 (11.0) cm 器高 5.2 cm 高台径 4.3 cm	外面丸文 見込み蛇の目釉剥ぎと圏線有り アルミ ナ砂塗布 重ね焼き痕有り 高台量付露胎 離れ砂 付着	肥前 55% 見込み蛇の 目釉剥ぎ部分煤けている
	第32図-125 図版37-203	小碗	陶器	口径 (5.9) cm 器高 2.8 cm 高台径 2.9 cm	外面露胎 外面口縁部から内面灰釉	40%
	第32図-126 図版37-204	染付蓋物	白磁	口径 (7.5) cm 器高 3.6 cm 高台径 (4.0) cm	外面蛸唐草文 内面口縁部、高台量付露胎	肥前 40%
	第32図-127 図版37-205	染付小坏	白磁	口径 (6.4) cm 器高 2.9 cm 高台径 (3.1) cm	口縁口金 見込み青・金で文様を施す 高台量付露 胎	瀬戸 45%
	第32図-128 図版37-206	軒丸瓦	瓦	径 13.6 cm 周縁厚 1.7 cm 瓦当厚 1.2 cm	左巻き三巴文 珠文13個 瓦当側接合面横方向のカ キメ有り	瓦当部 98%
	埋桶1	第33図-129 図版37-207	土師皿	素焼き	口径 (7.1) cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ
第33図-130 図版38-208		染付碗	白磁	口径 (9.1) cm 器高 4.5 cm 高台径 3.8 cm	外面梅樹文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 70%
第33図-131 図版38-209		碗	陶器	口径 (12.8) cm 器高 5.7 cm 高台径 (4.9) cm	内外面打刷毛目文 高台周辺露胎	瀬戸・美濃 55%
第33図-132 図版38-210		皿	白磁	高台径 (4.5) cm	見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 高台周辺露 胎	肥前 10%
第33図-133 図版38-211		染付碗	白磁	口径 9.0 cm 器高 4.4 cm 高台径 3.7 cm	外面梅樹文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 95%
第33図-134 図版38-212		煙管	銅	吸口径 0.4 cm 長さ 4.3 cm 接合部径 0.9 cm	吸口	100% 緑青付着 内部 にラウの一部残存
埋桶2		第35図-135 図版38-213	播鉢	陶器	口径 (40.0) cm 器高 15.8 cm 底径 (14.8) cm	クシ目一単位6本 外面体部上半口クロナデ 外面 体部下半ナデアゲ
	第35図-136 図版38-214	土師皿	素焼き	口径 7.2 cm 器高 1.2 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 90%
	第35図-137 図版38-215	土師皿	素焼き	口径 10.2 cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 内外面口縁部、内面体部ヨコナデ 外 面体部、内部底部ナデ	在地 98%
	第35図-138 図版38-216	浅鉢	瓦質	口径 (31.2) cm	底部外型成形 外面体部タタキ調整有り 内面口縁 部から体部ヨコナデ 内外面雲母粉付着	30% 内面煤付着
	第35図-139 図版38-217	碗	磁器	口径 (10.6) cm 器高 6.9 cm 高台径 (4.3) cm	高台量付露胎	肥前 25%
	第35図-140 図版38-218	焙烙	素焼き	口径 (22.8) cm	底部外型成形 内外面ヨコナデ	在地 10% 外面煤けて いる

表7 遺物観察表(7)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
埋桶2	第35図-141 図版38-219	染付碗	白磁	口径 (9.2) cm 器高 7.0 cm 高台径 (4.0) cm	外面草花文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 45% 内外面貫入
	第35図-142 図版38-220	花器	陶器	口径 (33.7) cm	鉄釉	丹波 15%
	第35図-143 図版39-221	碗	陶器	高台径 6.0 cm	灰釉 高台量付目痕5ヶ所有り	肥前 45% 内外面貫入
	第35図-144 図版39-222	鉢	陶器	口径 (32.2) cm	二彩手 内面巻刷毛目文 外面体部下半露胎	唐津 5%
埋桶3	第37図-145 図版39-223	土師皿	素焼き	口径 7.4 cm 器高 1.6 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 99% 口縁部煤付着
	第37図-146 図版39-224	土師皿	素焼き	口径 (7.6) cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 50%
	第37図-147 図版39-225	土師皿	素焼き	口径 7.4 cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 99% 口縁部煤付着
	第37図-148 図版39-226	土師皿	素焼き	口径 7.5 cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 100% 口縁部煤付着
	第37図-149 図版39-227	土師皿	素焼き	口径 10.3 cm 器高 2.0 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 95% 口縁部煤付着
	第37図-150 図版39-228	土師皿	素焼き	口径 10.5 cm 器高 2.0 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 99% 口縁部煤付着
	第37図-151 図版39-229	鍋	陶器	口径 (14.0) cm	灰釉 把手1ヶ所残存 内面体部露胎	伊賀・信楽 60% 外面、内面口縁部貫入
	第37図-152 図版39-230	軒丸瓦	瓦	径 13.4 cm 周縁厚 1.8 cm 瓦当厚 1.5 cm	左巻き三巴文 珠文9個	25%
	第37図-153 図版39-231	播鉢	陶器	口径 (41.8) cm 器高 15.0 cm 高台径 (11.1) cm	クシ目一単位8本 外面体部ロクロナデ 底部に高台風のつくりをもつ 内面口縁部に扇面に「上」の刻印有り	堺 15%
	埋桶4	第39図-154 図版39-232	土師皿	素焼き	口径 (7.9) cm 器高 1.3 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ
第39図-155 図版39-233		土師皿	素焼き	口径 (8.4) cm 器高 1.4 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 30%
第39図-156 図版39-234		土師皿	素焼き	口径 7.5 cm 器高 1.7 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 98% 口縁部煤付着
第39図-157 図版39-235		火入れ	陶器	口径 (13.3) cm 器高 6.6 cm 底径 (11.4) cm	ロクロナデ成形 口縁部灰釉を施す	丹波 25%
第39図-158 図版39-236		焙烙	素焼き	口径 (26.0) cm	底部外型成形 外面体部 内面ヨコナデ	30% 外面煤付着 胎土に雲母粉含む
第39図-159 図版40-237		皿	陶器	高台径 9.2 cm	灰釉 高台量付露胎	肥前 20% 内外面貫入
第39図-160 図版40-238		小坏	白磁	口径 (6.3) cm 器高 4.2 cm 高台径 2.9 cm	口縁端反り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 45%

表8 遺物観察表(8)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
埋桶4	第39図-161 図版40-239	染付碗	白磁	口 径 (10.6) cm 器 高 5.5 cm 高台径 (4.6) cm	外面楓文 高台壘付露胎	肥前 25%
土坑4	第41図-162 図版20-1	香炉	青磁	口 径 (8.5) cm 器 高 6.0 cm 高台径 5.0 cm	外面青磁釉 見込みに釉掛かる 内面体部・高台壘付露胎	肥前 80%
土坑5	第41図-163 図版20-2	碗	青磁	高台径 4.2 cm	外面青磁釉 内面白磁釉 高台周辺露胎	肥前 10%
土坑13	第41図-164 図版20-3	焙烙	素焼き	口 径 (28.4) cm	底部外型成形 内外面口縁から体部ヨコナデ 把手上部に孔有り(貫通)	在地 10% 外面に煤付着
	第41図-165 図版20-4	甕	陶器	口 径 (20.6) cm	外面鉄釉の上から灰釉を流し掛け 内面灰釉	丹波 5%
土坑16	第41図-166 図版20-6	蓋	陶器	口 径 (15.2) cm 器 高 2.9 cm つまみ径 (3.7) cm	灰釉 口縁端部露胎	伊賀・信楽 20%
	第41図-167 図版20-7	染付碗	白磁	口 径 (11.2) cm 器 高 6.5 cm 高台径 5.1 cm	外面瓔珞文 内面口縁部二重圏線有り 見込み圏線有り 高台壘付露胎	肥前 40%
土坑18	第41図-168 図版20-5	焙烙	素焼き	口 径 23.0 cm 器 高 7.7 cm	底部外型成形 内外面口縁部ヨコナデ 外面体部に右上がり平行タタキ痕	在地 70% 内外面に煤付着
土坑23	第42図-169 図版20-8	鉄絵碗	陶器	口 径 (9.6) cm	灰釉 外面笹竹文	伊賀・信楽 40%
土坑29	第42図-170 図版20-9	土瓶蓋	陶器	口 径 (11.2) cm	灰釉 外面口縁端部から底部露胎	伊賀・信楽 10%
	第42図-171 図版20-10	染付小碗	白磁	口 径 (8.8) cm 器 高 4.1 cm 高台径 2.8 cm	口縁端反り 口縁口錆 外面福寿文 見込み岩波文 高台壘付露胎	瀬戸 60%
土坑34	第42図-172 図版20-11	土師皿	素焼き	口 径 (8.2) cm 器 高 1.7 cm	手捏ね成形 内外面ナデ	在地 40%
	第42図-173 図版20-12	播鉢	陶器	底 径 (12.0) cm	播目へら描き	丹波 15%
土坑35	第42図-174 図版20-13	皿	青磁	高台径 4.2 cm	内面白磁釉 高台周辺露胎	肥前 10% 内面貫入
	第42図-175 図版20-14	染付碗	白磁	口 径 12.1 cm 器 高 4.6 cm 高台径 4.6 cm	外面梅文 見込み蛇の目釉剥ぎ 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 100%
	第42図-176 図版21-15	染付碗	白磁	口 径 12.2 cm 器 高 5.9 cm 高台径 5.0 cm	外面丸文 内面口縁部二重圏線有り 見込みコンニャク印判五弁花と二重圏線有り 蛇の目釉剥ぎ 高台壘付露胎	肥前 95%
	第42図-177 図版21-16	染付碗	白磁	口 径 (12.6) cm 器 高 6.2 cm 高台径 (5.5) cm	外面丸文 見込み二重圏線有り 蛇の目釉剥ぎ 高台壘付露胎 離れ砂付着	肥前 45%
	第42図-178 図版21-17	染付碗	白磁	口 径 (10.9) cm 器 高 6.0 cm 高台径 (4.6) cm	外面雨降り文 高台内圏線有り 高台壘付露胎	肥前 20%
	第42図-179 図版21-18	染付大皿	白磁	高台径 (9.8) cm	見込み山水文 高台内圏線有り 高台壘付露胎	肥前 10%
	第42図-180 図版21-19	鍋	陶器	口 径 (20.5) cm	鉄釉 把手1ヶ所残存	伊賀・信楽 20%

表9 遺物観察表(9)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
土坑35	第42図-181 図版21-20	鉢	陶器	高台径 10.4 cm	灰釉 見込み胎土目1ヶ所残存 外面露胎	唐津 10%
	第42図-182	甕	陶器	底径 (22.6) cm	鉄釉 底部露胎	丹波 15%
	第42図-183 図版21-22	軒平瓦	瓦	瓦当高 4.0 cm 周縁厚 2.0 cm	均整唐草文	瓦当部 50%
土坑47	第43図-184 図版21-23	仏飯具	白磁	高台径 4.0 cm	外面文様有り 高台周辺露胎	肥前 50%
	第43図-185 図版21-24	碗	陶器	高台径 (4.4) cm	呉器手 高台量付露胎	肥前 30% 内外面貫入
土坑53	第43図-186 図版21-25	土師皿	素焼き	口径 10.9 cm 器高 1.8 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ内面ナデ	在地 60% 内面に黒色付着物有り 胎土10YR3/2 黒褐色
	第43図-187 図版21-26	受皿	陶器	口径 6.7 cm 器高 1.3 cm 底径 2.4 cm	灰釉 受部1ヶ所切り込み有り 外面露胎	伊賀・信楽 100% 内面貫入
	第43図-188 図版21-27	紅皿	白磁	口径 4.2 cm 器高 1.4 cm 高台径 1.5 cm	型押し成形 外面下半部露胎	肥前 60%
	第43図-189 図版21-28	染付小杯	白磁	口径 (6.5) cm 器高 3.7 cm 高台径 (3.3) cm	外面草花文 高台量付露胎	肥前 35%
	第43図-190 図版22-29	染付碗	白磁	口径 (11.8) cm 器高 5.1 cm 高台径 5.0 cm	外面梅文 見込み蛇の目釉剥ぎ 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 40%
	第43図-191 図版22-30	染付碗	青磁	口径 (8.2) cm 器高 6.3 cm 高台径 (3.4) cm	筒形 外面青磁釉 内面と高台内白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込み手描き五弁花と二重圏線有り 高台内銘有り 高台量付露胎	肥前 20% 内外面貫入
土坑55	第44図-192 図版22-31	焙烙	素焼き	口径 (32.8) cm	底部外型成形 内外面口縁部から体部ヨコナデ	在地 10% 内面底部煤けている
	第44図-193 図版22-38	鍋	陶器	口径 (15.6) cm 器高 7.0 cm 底径 (7.6) cm	鉄釉 脚1ヶ所残存 見込み目跡1ヶ所残存 底部周辺露胎	伊賀・信楽 20% 底部周辺煤付着
	第44図-194	染付小碗	白磁	口径 (7.8) cm 器高 3.9 cm 高台径 (2.8) cm	外面文様有り 高台量付露胎	肥前 30% 内外面貫入
	第44図-195 図版22-34	染付碗	白磁	高台径 4.0 cm	外面草花文 高台内銘と圏線有り 高台量付露胎	肥前 40% 二次焼成受ける
	第44図-196 図版22-35	染付碗	白磁	口径 (10.2) cm 器高 5.8 cm 高台径 4.3 cm	外面如意頭文とコンヤク印判菊文併用 高台内文様あり 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 35%
	第44図-197 図版22-36	染付碗	青磁	口径 (8.4) cm	筒形 外面青磁釉 内面白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込み二重圏線有り	肥前 10% 内外面貫入
	第44図-198 図版22-32	染付碗蓋	青磁	口径 (10.6) cm 器高 2.9 cm つまみ径 (4.1) cm	外面青磁釉 内面とつまみ内白磁釉 内面口縁部四方禪文 見込み手描き五弁花と二重圏線有り つまみ量付露胎	肥前 50%
	第44図-199 図版22-37	播鉢	陶器	口径 (32.4) cm 器高 14.1 cm 底径 (15.8) cm	クシ目一単位9本 見込みクシ目一単位8本	堺 40%
	第44図-200 図版22-39	軒瓦	瓦	瓦当高 4.1 cm 周縁厚 1.5 cm	左巻き三巴文・均整唐草文	20% 小巴部分(径8.1cm 周縁高1.3cm 瓦当厚1.1cm)

表10 遺物観察表 (10)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
土坑56	第45図-201 図版22-40	壺	陶器	口径 (8.4) cm 器高 9.6 cm 底径 7.6 cm	内面口縁部から外面体部下半鉄釉 鉄釉の上から3ヶ所に灰釉 口縁裏口1ヶ所有り 外面体部下半と内面口縁部から下露胎	丹波 70%
土坑57	第45図-202 図版23-41	染付碗	白磁	口径 (10.1) cm 器高 5.2 cm 高台径 3.7 cm	外面二重網目文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 40%
土坑60	第45図-203 図版23-42	栓	陶器	上部径 2.4 cm 下部径 0.9 cm 高さ 3.0 cm	ネジ込み式 頭部裏面離れ砂付着	100%
土坑62	第45図-204 図版23-43	皿	陶器	口径 12.5 cm 器高 3.5 cm 高台径 4.0 cm	内面巻刷毛目文 見込み蛇の目釉剥ぎ 外面体部下半露胎	唐津 40%
土坑63	第45図-205 図版23-44	土師皿	素焼き	口径 (7.6) cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 50%
	第45図-206 図版23-45	染付碗	白磁	口径 (10.1) cm 器高 5.7 cm 高台径 (4.0) cm	外面草花文 高台量付露胎	肥前 45%
	第45図-207 図版23-46	染付碗	白磁	口径 (10.6) cm 器高 5.5 cm 高台径 (3.4) cm	口縁端反り 外面菊文 内面口縁部文様有り 見込み文様と圏線有り 高台量付露胎	瀬戸 25%
	第45図-208 図版23-47	染付皿	白磁	口径 (12.0) cm 器高 3.3 cm 高台径 3.9 cm	内面文様有り 見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 高台周辺露胎	肥前 70%
	第45図-209 図版23-48	染付皿	白磁	口径 (12.8) cm 器高 2.8 cm 高台径 5.6 cm	内面口縁部から体部波文型打ち成形 見込み山水文 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 60%
	第45図-210	染付碗	白磁	口径 10.2 cm 器高 5.2 cm 高台径 4.2 cm	外面梅樹文 高台内簡略化した「大明年製」銘有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 75%
土坑65	第45図-211 図版23-50	土師皿	素焼き	口径 (8.0) cm 器高 1.4 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 40%
	第45図-212 図版23-51	土師皿	素焼き	口径 (7.6) cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 20%
	第45図-213 図版23-52	土師皿	素焼き	口径 (8.0) cm 器高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 30%
	第45図-214 図版23-53	土師皿	素焼き	口径 10.7 cm 器高 2.3 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 100% 内外面煤付着
	第45図-215 図版23-54	壺	陶器	底径 7.9 cm	鉄釉 ロクロ成形 内面露胎	丹波 10% 内面底部に自然釉掛かる
	第45図-216 図版23-55	鉢	軟質施釉陶器	口径 (22.0) cm 器高 5.4 cm 高台径 (12.9) cm	口縁折れ縁で輪花 外面渦巻文 内面宝珠文 線刻により文様を施す	10% 内外面貫入
	第45図-217 図版24-56	皿	白磁	高台径 3.9 cm	見込み蛇の目釉剥ぎ アルミナ砂塗布 高台周辺露胎	肥前 20%
	第45図-218 図版24-57	碗	白磁	口径 (15.2) cm 器高 6.6 cm 高台径 (5.5) cm	見込み蛇の目釉剥ぎ 高台量付露胎	肥前 40%
	第45図-219 図版24-58	鉄絵染付碗	陶器	口径 9.4 cm 器高 5.6 cm 高台径 3.2 cm	外面鉄絵と呉須で草花文を描く 高台周辺露胎	京焼 98%
	土坑67	第45図-220 図版24-60	甕	陶器	口径 (17.8) cm	外面頸部から鉄釉を施す 外面肩部から灰釉を流し掛ける 外面口縁端部から内面灰釉 ロクロ目有り

表11 遺物観察表 (11)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
土坑67	第45図-221 図版24-61	染付碗	白磁	口 径 (10.6) cm	外面草花文	肥前 15%
	第45図-222 図版24-62	仏飯具	青磁	口 径 (7.3) cm 器 高 6.3 cm 底 径 4.1 cm	外面青磁釉 内面白磁釉 底部周辺露胎	肥前 50%
土坑70	第46図-223 図版43-59	甕	陶器	口 径 32.0 cm	鉄釉 外面口縁部下から灰釉を流し掛け	丹波 60%
土坑73	第47図-224 図版24-63	播鉢	陶器	底 径 (14.1) cm	クシ目一単位8本 内外面塗り土を施す 外面体部上半口ロナデ 外面体部下半指頭圧痕有り 外面底部周辺ヘラケズリ	丹波 20%
土坑74	第47図-225 図版24-65	碗	陶器	口 径 (10.8) cm 器 高 5.8 cm 高台径 (3.9) cm	外面巻刷毛目文 内面巻刷毛目文 高台量付露胎	唐津 20%
	第47図-226 図版24-66	染付碗蓋	白磁	口 径 (8.2) cm 器 高 3.0 cm つまみ径 2.6 cm	外面花唐草文 つまみ量付露胎	肥前 45% 二次焼成受ける
土坑84	第47図-227 図版25-68	土師皿	素焼き	口 径 9.1 cm 器 高 1.7 cm	手捏ね成形 内外面ヨコナデと指頭圧痕	在地 100%
土坑87	第47図-228 図版24-64	一石五輪塔	石	幅 16.5 cm		花崗岩 30% 水・地輪のみ残存
土坑94	第47図-229 図版25-67	染付碗	白磁	口 径 (11.5) cm	外面二重格子文 内面口縁部二重圏線有り 見込み圏線有り	肥前 20%
土坑97	第47図-230 図版25-69	土師皿	素焼き	口 径 (8.8) cm 器 高 1.5 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内面ナデ	在地 15%
	第47図-231 図版25-70	軒丸瓦	瓦		左巻き三巴文 残存珠文数4個	40%
土坑125	第48図-232 図版25-71	鳥衾瓦	瓦	径 14.1 cm 瓦当厚 1.5 cm	左巻き三巴文 珠文12個	30%
土坑131	第48図-233 図版25-72	土師皿	素焼き	口 径 (8.7) cm 器 高 1.6 cm	手捏ね成形 内外面ナデ	在地 70%
	第48図-234 図版25-73	土師皿	素焼き	口 径 (13.4) cm	手捏ね成形 外面口縁部ヨコナデ 外面体部、内面ナデ	在地 25%
	第48図-235 図版25-74	土師皿	素焼き	口 径 (13.7) cm 器 高 1.9 cm	手捏ね成形 外面口縁部ヨコナデ 外面体部ナデと指頭圧痕有り 内面ナデ	在地 45%
	第48図-236 図版25-75	銭	銅	径 2.4 cm 厚 み 0.1 cm	元豊通寶(篆書体)	100% 緑青付着 北宋元豊元年(1078)初鑄
	第48図-237 図版25-76	銭	銅	径 2.4 cm 厚 み 0.1 cm	熙寧元寶(真書体)	99% 緑青付着 「寧」の字判読難 北宋熙寧元年(1068)初鑄
	第48図-238 図版25-77	銭	銅	径 2.3 cm 厚 み 0.1 cm	治平元寶(篆書体)	100% 緑青付着 「治平」の字判読難 北宋治平元年(1064)初鑄
	第48図-239 図版25-78	銭	銅	径 2.5 cm 厚 み 0.1 cm	祥符元寶	99% 緑青付着 「祥符」の字判読難 北宋大中祥符元年(1008)初鑄
遺構外出土遺物	第49図-240 図版40-240	土師皿	素焼き	口 径 (10.6) cm 器 高 1.9 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 30%

表12 遺物観察表 (12)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
遺構外出 土遺物	第49図-241 図版40-241	土師皿	素焼き	口径 (11.2) cm 器高 2.2 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 25% 口縁部煤付着
	第49図-242 図版40-242	土師皿	素焼き	口径 (10.8) cm 器高 1.9 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 25%
	第49図-243 図版40-243	土師皿	素焼き	口径 (11.4) cm 器高 1.8 cm	手捏ね成形 内外面ナデ	在地 20%
	第49図-244 図版40-244	土師皿	素焼き	口径 (10.6) cm 器高 2.0 cm	手捏ね成形 外面指頭圧痕 内外面口縁部ヨコナデ 内面ナデ	在地 25% 口縁部煤付着
	第49図-245 図版40-245	鉢	陶器	口径 (14.8) cm 器高 3.6 cm 底径 (13.0) cm	外面塗り土を施す 内面、外面底部灰釉	丹波 10% 灰被り
	第49図-246 図版40-246	小碗	陶器	口径 8.8 cm 器高 4.5 cm 高台径 4.6 cm	錆釉 高台周辺露胎 削り出し輪高台 見込み胎土 目3ヶ所残存	瀬戸・美濃 85% 露胎部分煤けている
	第49図-247 図版40-247	碗	陶器	高台径 (4.0) cm	内外面巻刷毛目文 高台畳付露胎	唐津 25% 内外面貫入
	第50図-248 図版40-248	甕	陶器	口径 (44.9) cm	鉄釉 外面体部上半に不遊環を貼り付ける	丹波 5%
	第50図-249 図版40-249	甕	陶器	口径 (41.0) cm	口縁部鉄釉を施す	丹波 2%
	第50図-250 図版40-250	甕	瓦質	口径 (28.1) cm	外面体部にスタンプで花文を施す 外面回転ヘラ削り 内面ヨコナデと指頭圧痕	5%
	第50図-251 図版40-251	鉢	陶器	口径 (21.8) cm	ロクロ目有り	丹波 25% 灰被り
	第50図-252 図版41-252	播鉢	陶器	口径 (30.4) cm 器高 12.5 cm 底径 (9.8) cm	クシ目一単位11本 外面口縁部から体部ヨコナデ	堺・明石 25%
	第50図-254 図版41-254	皿	青磁	口径 (34.3) cm 器高 7.1 cm 高台径 (15.5) cm	型打ち成形 口縁輪花 内面体部、見込みヘラ彫り の文様有り 高台内鉄銹を施す 高台内窯道具痕か	肥前 20%
	第50図-255 図版41-255	染付碗蓋	青磁	口径 11.0 cm 器高 3.4 cm つまみ径 4.3 cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 口縁口銹 内面 口縁部四方襷文 見込み山水文と二重圏線 つまみ 内二重方形枠に渦福 つまみ畳付露胎	肥前 80%
	第50図-256 図版41-256	染付碗	白磁	口径 (10.3) cm 器高 5.8 cm 高台径 4.6 cm	外面草花文 高台畳付露胎 離れ砂付着	肥前 30%
	第50図-257 図版41-257	染付碗	白磁	口径 (10.9) cm 器高 5.5 cm 高台径 (4.3) cm	外面コンニャク印判菊文と草花文 高台畳付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第50図-258 図版41-258	染付碗	白磁	口径 (10.7) cm 器高 5.7 cm 高台径 (4.0) cm	外面草花文 高台畳付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第50図-259 図版41-259	染付碗	白磁	口径 (9.7) cm 器高 5.3 cm 高台径 (3.9) cm	外面コンニャク印判で鶴丸文と松文を交互に配す 高台畳付露胎 離れ砂付着	肥前 60%
	第50図-260 図版41-260	碗	青磁	口径 (10.0) cm 器高 5.3 cm 高台径 (4.4) cm	外面青磁釉 内面、高台内白磁釉 高台畳付露胎 離れ砂付着	肥前 50%
	第50図-261 図版41-261	染付小碗	白磁	口径 (5.8) cm 器高 3.3 cm 高台径 (2.3) cm	外面墨弾きの花文 高台畳付露胎	肥前 25%

表13 遺物観察表 (13)

遺構名	番号	器種	材質	法量	文様・技法の特徴	備考 産地・残存率・年代等
遺構外出 土遺物	第51図-262 図版42-262	染付皿	白磁	口 径 (13.4) cm 器 高 3.6 cm 高台径 (7.7) cm	外面唐草文 内面体部花文 見込みコンニャク印判 五弁花と二重圏線有り 高台内銘と圏線有り 高台 量付露胎 離れ砂付着	肥前 25%
	第51図-263 図版42-263	染付皿	白磁	口 径 11.5 cm 器 高 3.2 cm 高台径 4.3 cm	内面折れ松葉文 見込み蛇の目軸剥ぎ アルミナ砂 塗布 高台周辺露胎	肥前 85%
	第51図-264 図版42-264	染付皿	白磁	口 径 (13.9) cm 器 高 3.8 cm 高台径 (9.6) cm	外面唐草文 内面体部連子文 見込み環状松竹梅文 蛇の目凹型高台 重ね焼き痕有り	肥前 50%
	第51図-265 図版42-265	色絵皿	白磁	口 径 (9.8) cm 器 高 2.3 cm 高台径 5.2 cm	内面赤で藤文 見込み蛇の目軸剥ぎ部分文様有り 高台量付露胎 離れ砂付着	肥前 75%
	第51図-266 図版42-266	染付碗蓋	白磁	口 径 10.5 cm 器 高 3.1 cm つまみ径 4.1 cm	外面達磨文 つまみ周辺6ヶ所へこみ有り 外面体 部螺旋状の沈線有り つまみ内「宝」銘か つまみ 量付露胎	瀬戸 90%
	第51図-267 図版42-267	染付蓋	白磁	口 径 13.9 cm 器 高 3.1 cm つまみ径 5.5 cm	外面「伊丹中學」の文字 つまみ量付、つまみ内露 胎	瀬戸 98%
	第51図-268 図版43-268	型	素焼き	長 さ 6.9 cm 幅 5.1 cm 高 さ 2.4 cm	外型	95% 型内面雲母粉付着
	第51図-269 図版43-269	煙管	銅	火皿径 1.6 cm	雁首 首部は火皿部に向かって左横に合わせ目	80% 緑青付着が著しい
	第51図-270 図版43-270	栓	ガラス	つまみ径 1.7 cm 上 径 3.0 cm 高 さ 3.1 cm	透明	100%
	第51図-271 図版43-271	染付蓋	白磁		つまみ上面小判文様の中に「金露」の文字	1% つまみ部分のみ残 存
	第51図-272 図版43-272	鬼瓦	瓦		宝珠文	2% 宝珠部分のみ残存 宝珠付跨鬼か
	第51図-273 図版43-273	軒平瓦	瓦	瓦当高 4.6 cm 周縁厚 1.9 cm	均整唐草文	60%
	第51図-274 図版43-274	広口壺	弥生土器	口 径 (27.4) cm	口縁部端面に凹線文をめぐらし、縦に刻み目を施す 外面頸部に凹線文1条と6条をめぐらす 外面ヨコナ デ 内面磨耗が著しく調整不明	5%

表14 遺物観察表 (14)

第3章 まとめ

本遺跡は、中世の有岡城跡とその後に続く近世の在郷町の遺跡で、これまでの発掘調査件数は270次を越え、中世から近世への町の移り変わりが次第に明らかになってきている。本遺跡は、場所によって、中世の遺構が多く確認されたり、あるいは近世が中心になるなど、その遺跡のあり方が違っている。今回の発掘調査地点は、有岡城当時から続く主要幹線道路に面した場所で、有岡城段階では城下町に該当し、近世になると酒蔵が密集する地域となっていく。

有岡城の構造は、城の東部の段丘縁に主郭を設け、その西側に侍町を置き、さらに大溝（幅5m堀）を隔てて西側に街道を取り込んだ町屋を配している。また、その全体を取り囲み土塁と堀で固めた所謂惣構えの構造である。町屋の中心部には南北に貫くように街道が取り込まれている。このような形態が整ったのは天正2年（1574）の荒木村重以降のことであるが、それ以前の伊丹氏時代にその原型は作られていたと推定されている。

さて、今回の発掘調査地点について惣構え内での位置関係を見てみると、有岡城内を南北に貫く街道に面した町場に該当する。この街道は南側では、鶴塚から大阪・尼崎に向かい、北側では、北ノ口から、池田・多田（川西市多田）に向かっている。調査地点は、この主要街道に沿っていることから、古くから町屋が建ち並んだ場所と推定していたが、検出した有岡城段階の遺構は意外と少ない。この時期の遺構としては渡来銭と土師皿が出土した土坑131がある。土師皿以外に時期を判別する資料が共伴しないので特定することが難しいが、概ね16世紀前半から中頃までの時期が考えられる。16世紀後半の土坑84もこの段階の遺構である。

今回の発掘調査の主な時代は江戸時代である。現在残る伊丹郷町の古地図の内、描かれた年代が最も古い絵図は、寛文9年伊丹郷町絵図（第3図）である。この絵図には調査地点付近に家並みが描かれていることから、少なくとも17世紀中頃には町場が成立していたことがわかる。発掘調査では、これを裏付けるこの時期の遺構に埋桶2と埋桶4がある。敷地境を示す溝5や溝6も、17世紀後半頃から18世紀前半頃には成立している。しかし、最も多くの遺構が存在する時期は18世紀以降のことで、18世紀前半には井戸1・6が、18世紀後半には井戸8が、19世紀前半には井戸2・3・10があり、この場所が町場として人々の生活が営まれていたことを示している。

18世紀後半になると、酒造用の竈の存在から酒蔵の敷地となっていくものと考えられ、これに伴う建物跡が礎石建物1と考えられる。酒蔵の範囲は溝5より北側の一帯で、天保15年伊丹郷町分間絵図（第3図）で見ると、調査地点北側の比較的広い敷地がそれにあたる。調査地点は、竈の存在から蒸し米を作る釜屋にあたり、酒造工程の上、付近に洗米工程の洗い場や精米工程の臼屋などが存在していたと考えられる。釜屋の建物については礎石が残っていないため規模などは明らかにできなかった。天保15年伊丹郷町分間絵図を見ると、溝5より南側もさらに大きな区画となっていることがわかる。伊丹郷町では、このような大区画の土地は酒蔵と考えられ、実際にその南側の一部を発掘調査（第192次調査）し、酒造用の竈を発掘している。調査の結果、この酒蔵は17世紀末頃には存在し天保年間には廃業していたことがわかっている。

溝5を挟んで存在した二つの酒蔵について、酒蔵の所有者や生産石高などについては、今のところそれを示す資料がないが、伊丹郷町の近世文書の整理作業も進められているので、今後の調査によって明らかになることを期待したい。

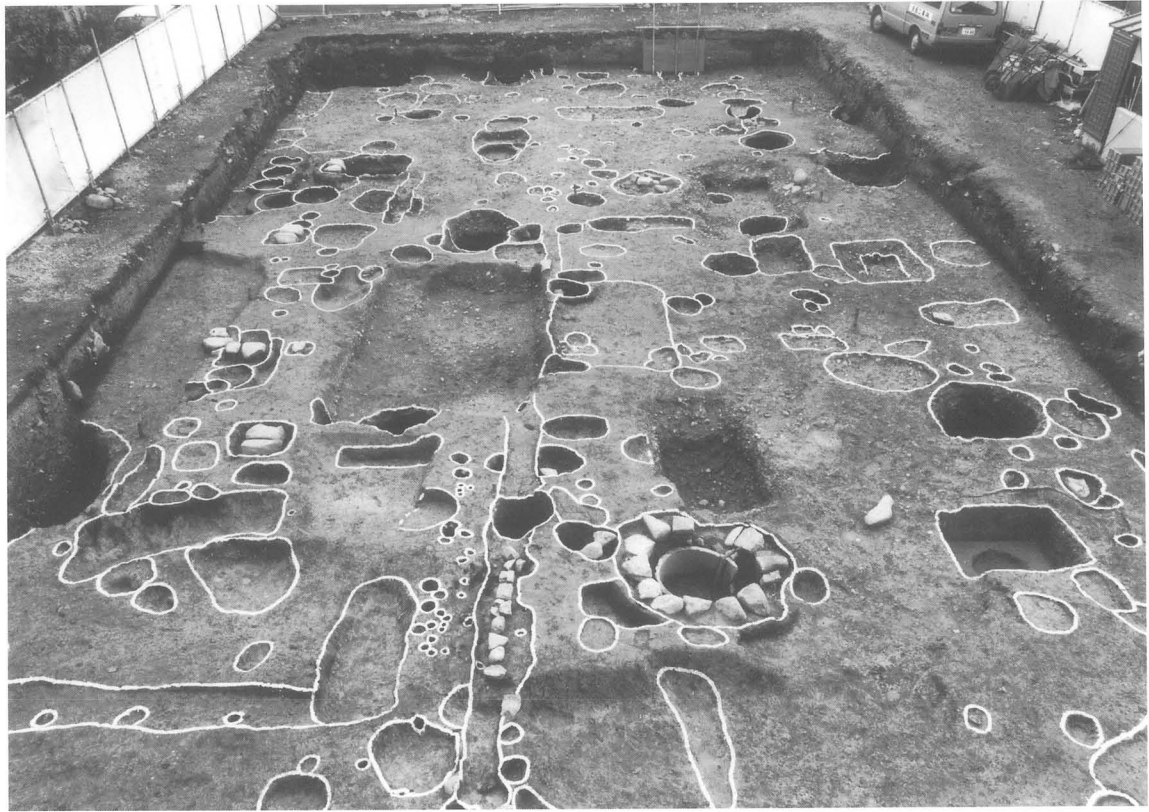
（小長谷）

遺構 \ 年代	16世紀	17世紀	18世紀	19世紀	備考
溝5			-----		
溝6		-----			
礎石建物1			-----		
井戸1			-----		
井戸2				-----	
井戸3				-----	
井戸6			-----		
井戸8			-----		
井戸9		-----			
井戸10				-----	
埋桶1			-----		
埋桶2		-----			
埋桶3			-----		
埋桶9			-----		便所跡
竈			-----		酒造用竈
土坑4			-----		
土坑5		-----			
土坑13			-----		
土坑16			-----	-----	
土坑18	-----				
土坑23			-----		
土坑29				-----	
土坑34	-----				
土坑35			-----		焼土処理土坑
土坑47		-----			
土坑53			-----		
土坑55			-----		
土坑56			-----		
土坑57			-----		
土坑62			-----		
土坑63				-----	穴蔵か
土坑65			-----	-----	
土坑67			-----		
土坑73		-----			
土坑74			-----		
土坑84	-----				
土坑94				-----	
土坑97			-----		
土坑125			-----		
土坑131	-----				

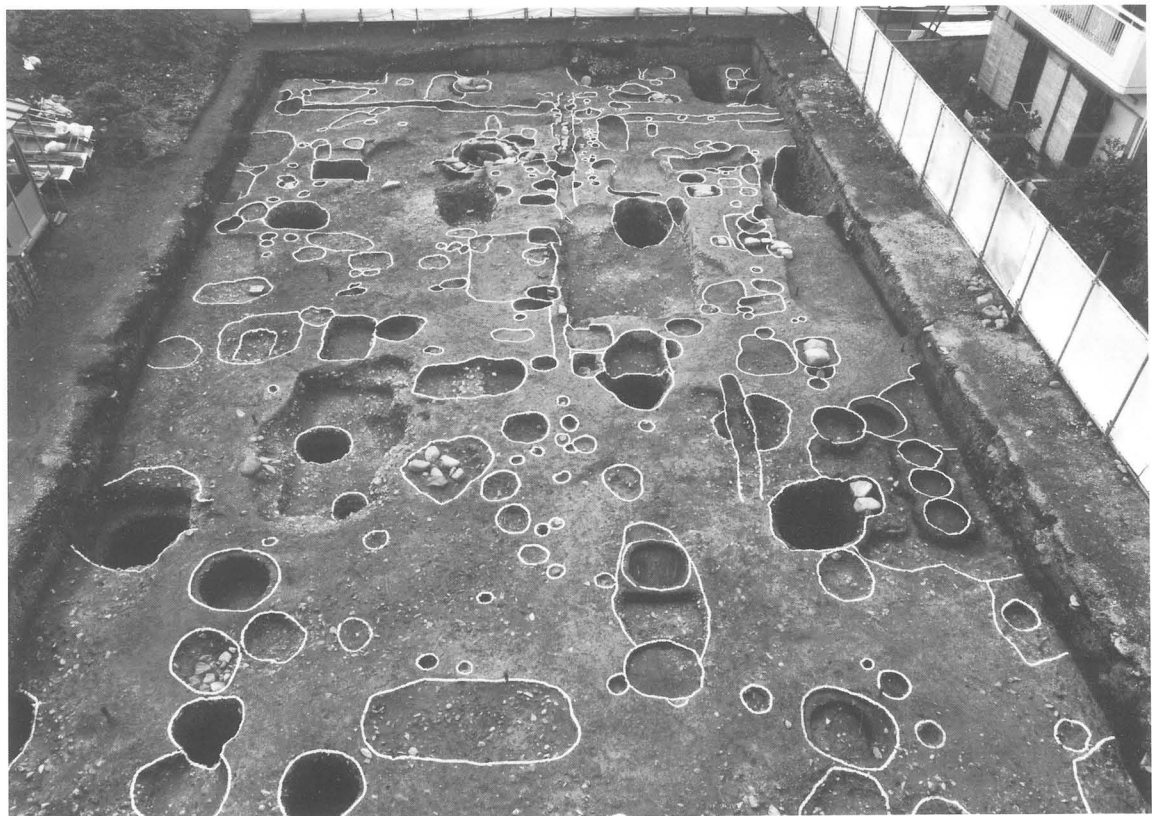
表15 主要遺構の年代

報 告 書 抄 録

ふりがな	ありおかじょうあととはつかつちようさほうこくしよ							
書名	有岡城跡発掘調査報告書XI							
副書名								
巻次								
シリーズ名	伊丹市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第27集							
編集者名	小長谷正治							
編集機関	伊丹市教育委員会							
所在地	兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地							
発行年月日	2003年3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ありおかじょうあと 有岡城跡・伊丹郷町遺跡 第65次調査	いたみし 伊丹市宮ノ前 2丁目212-1	28207	61	34° 46' 44"	135° 25' 12"	19880801～ 19880915	490m ²	共同住宅建設
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
有岡城跡・伊丹郷町遺跡 第65次調査	酒蔵・町屋	近世		竈・溝・井戸・埋桶・土坑		陶磁器等 23箱		

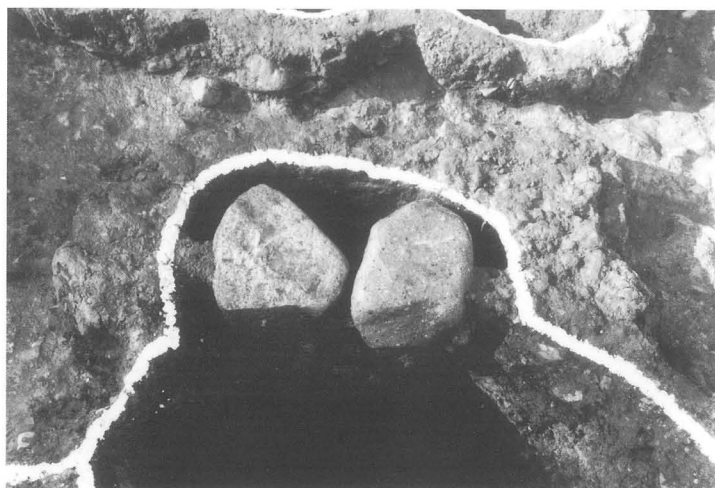


1. 調査区全景 西より

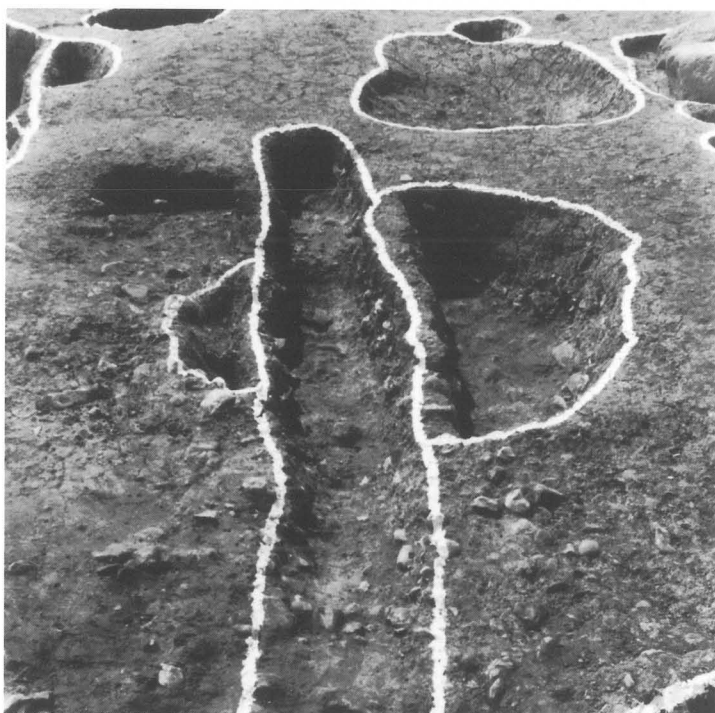


2. 調査区全景 東より

図版 2



1. 礎石3 南より

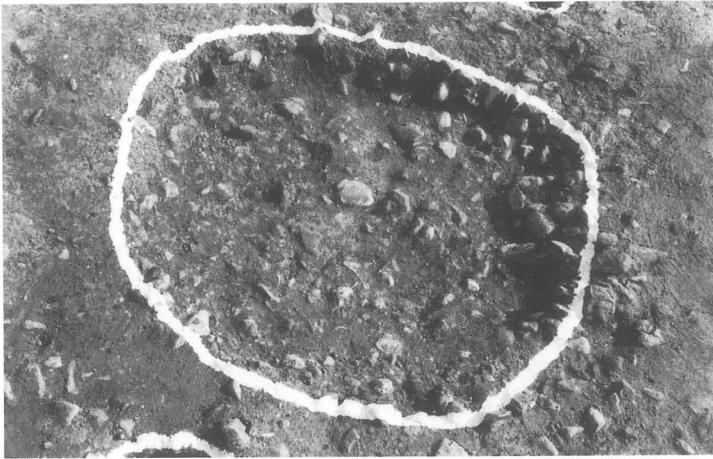


2. 土坑4 東より

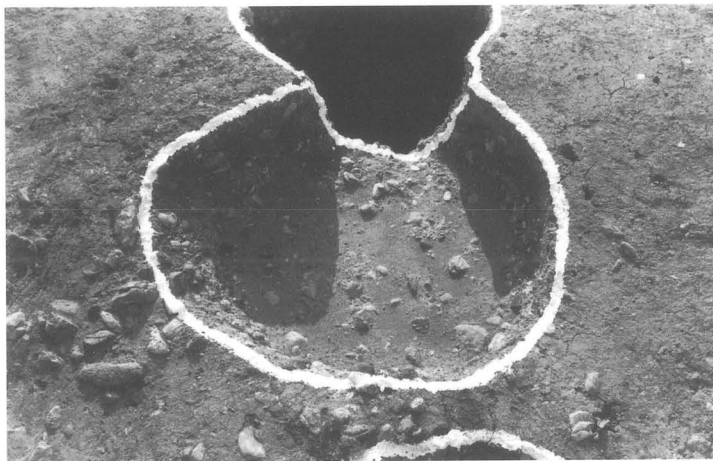


3. 土坑13 南より

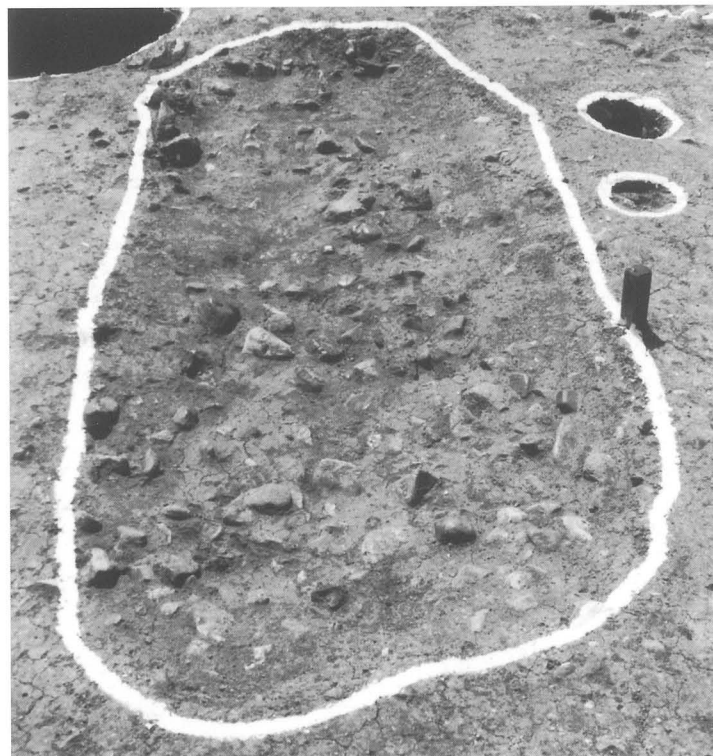
図版 3



1. 土坑18 北より

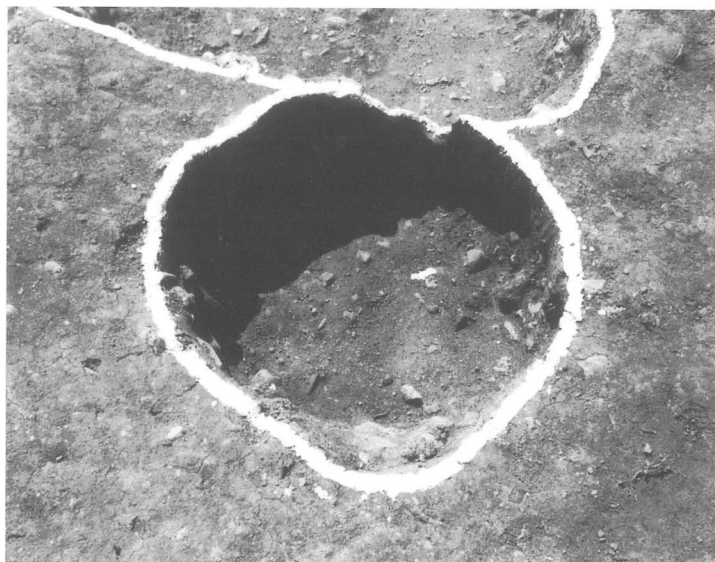


2. 土坑23 北より

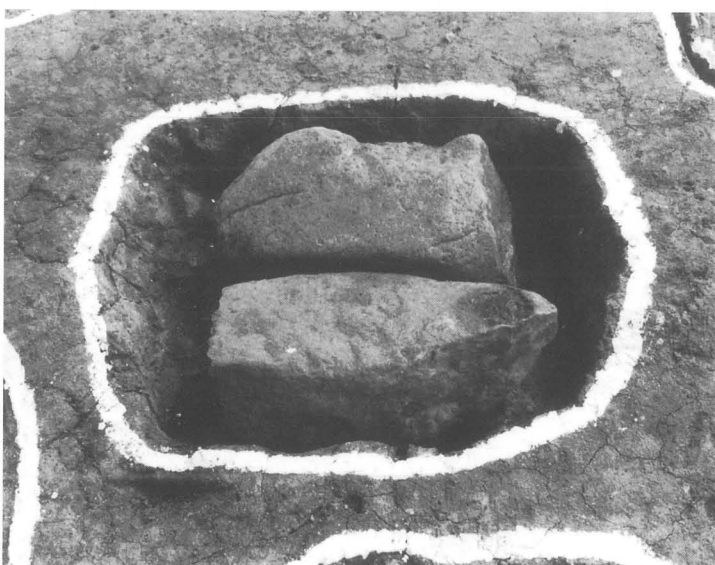


3. 土坑34 北より

図版 4



1. 土坑53 北より

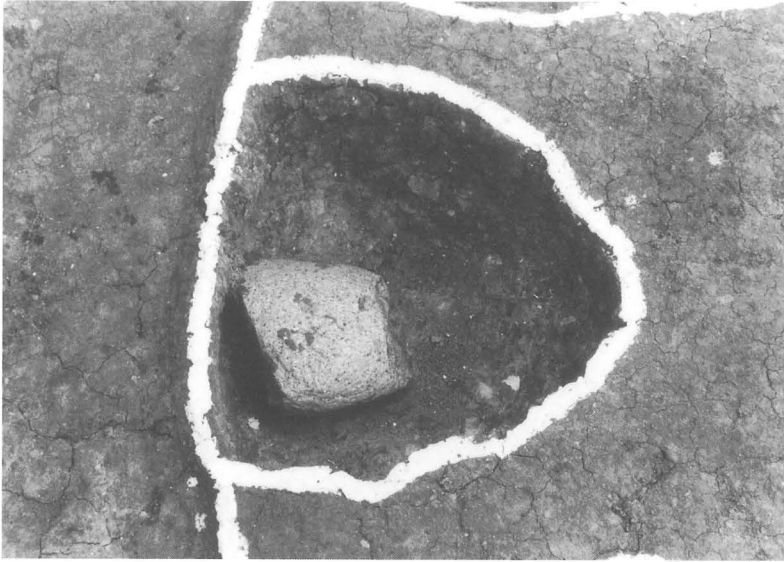


2. 礎石4 西より

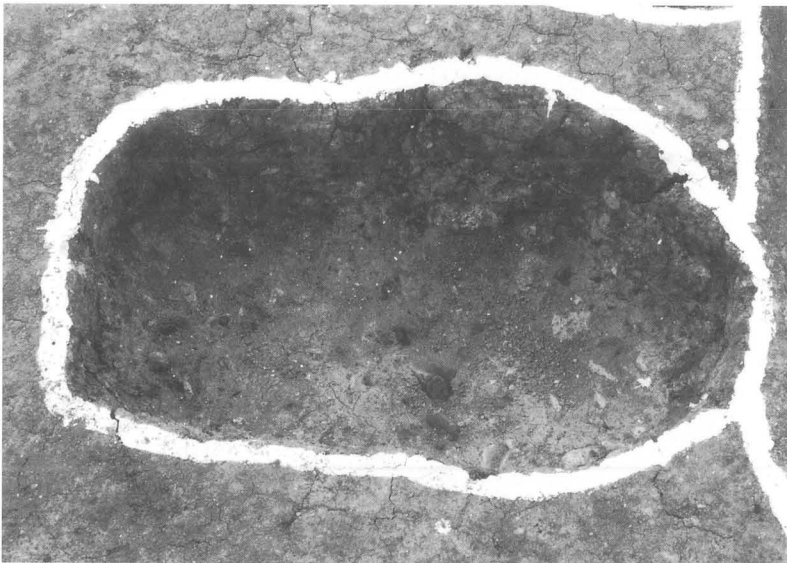


3. 土坑55 西より

図版 5



1. 土坑56 西より



2. 土坑57 東より

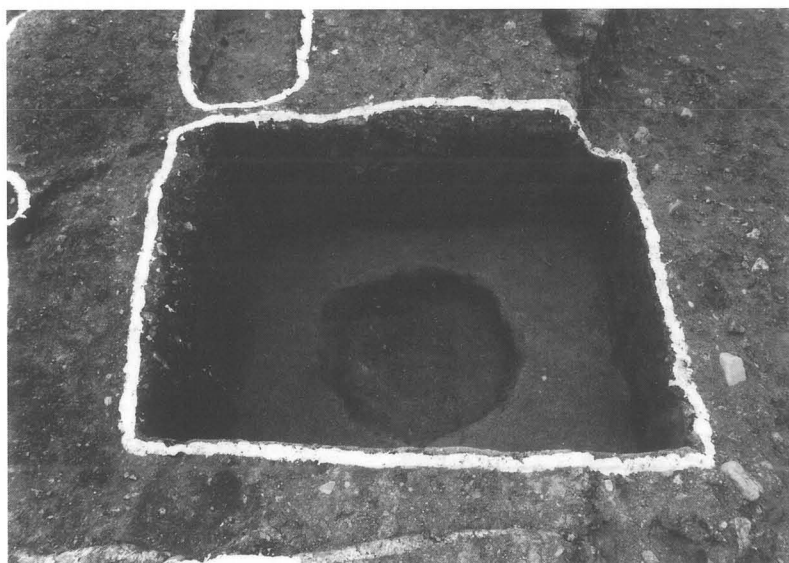


3. 土坑60 西より

図版 6



1. 土坑62 東より

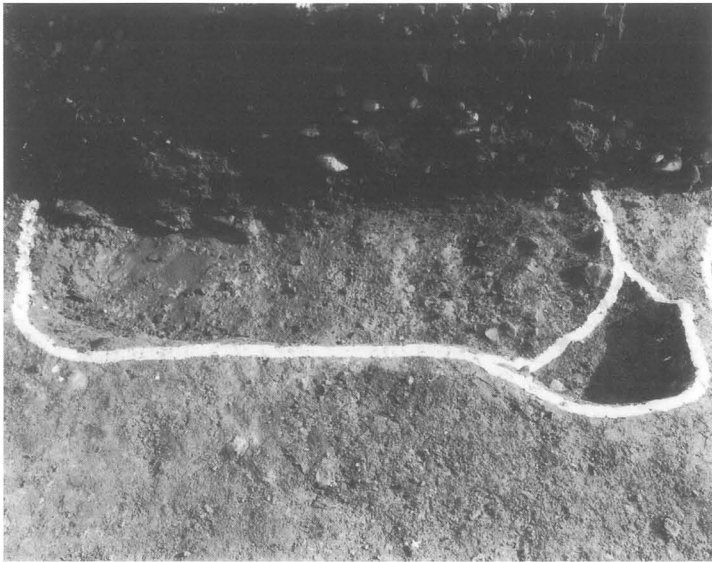


2. 土坑63 東より



3. 土坑65 北より

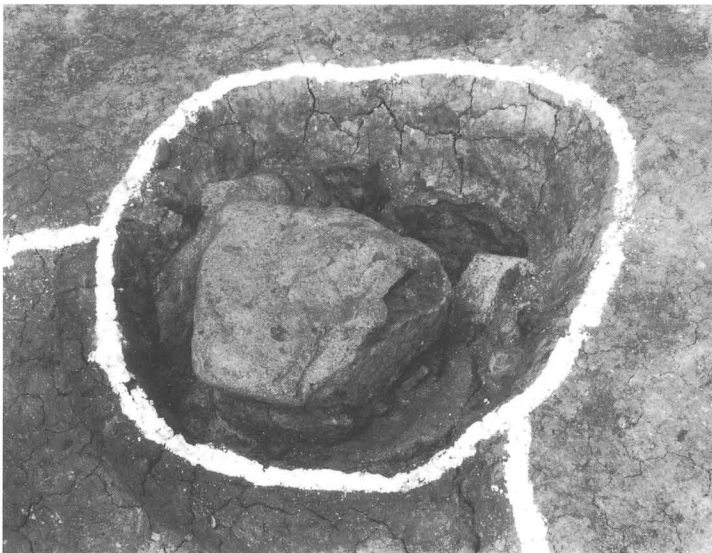
図版 7



1. 土坑74 北より

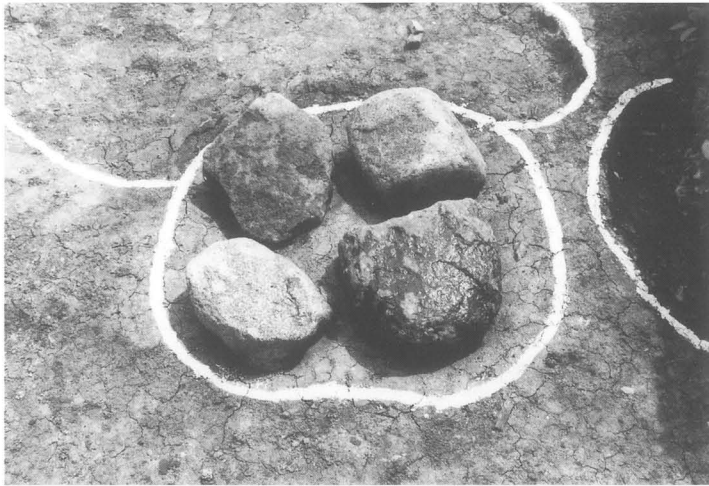


2. 土坑84 西より
土師皿出土状況

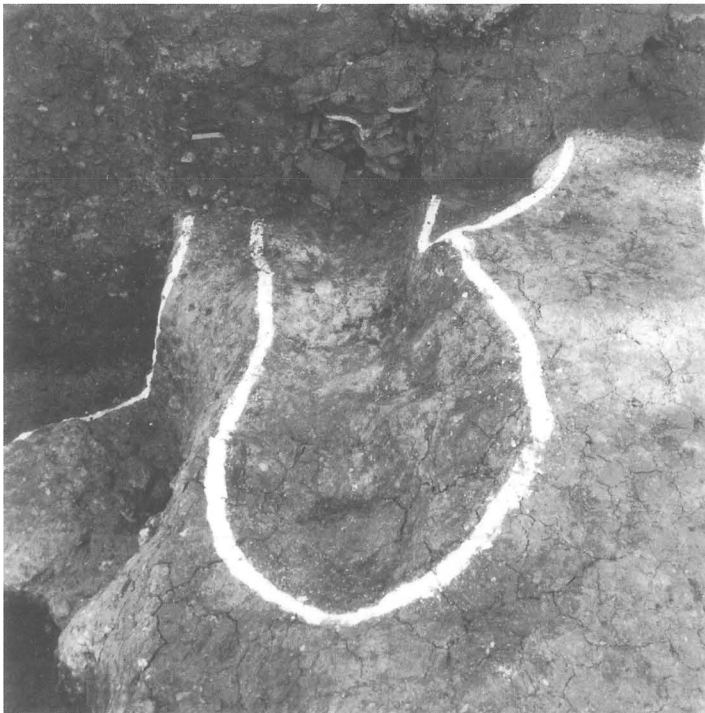


3. 礎石5 南より

図版 8



1. 礎石6 北より



2. 土坑125 南より



3. 土坑131 東より

図版 9

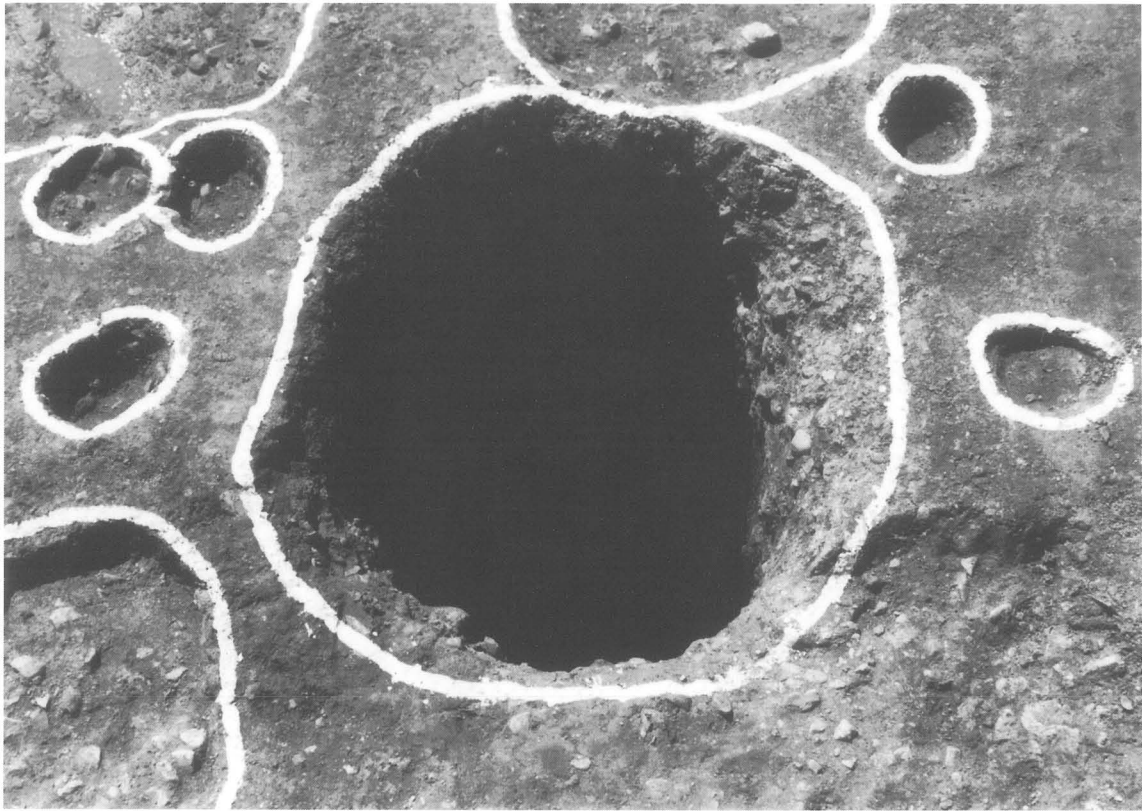


1. 溝5 石列 西より

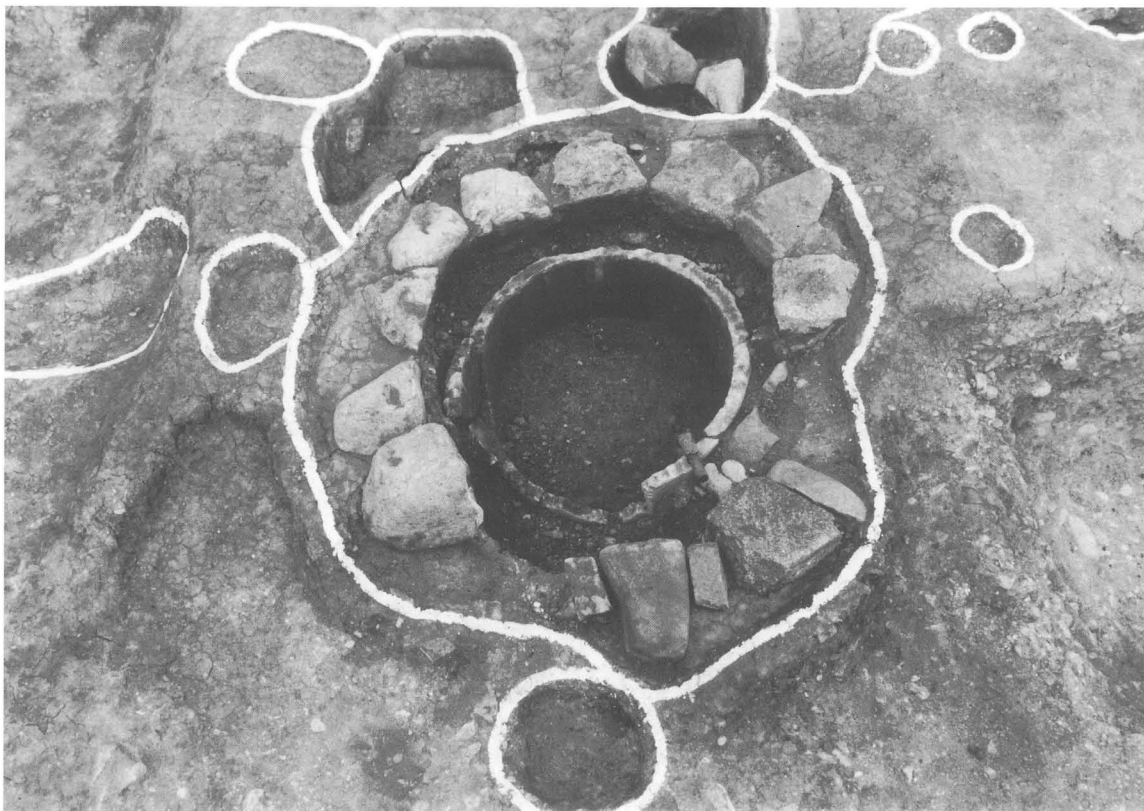


2. 溝6 北より

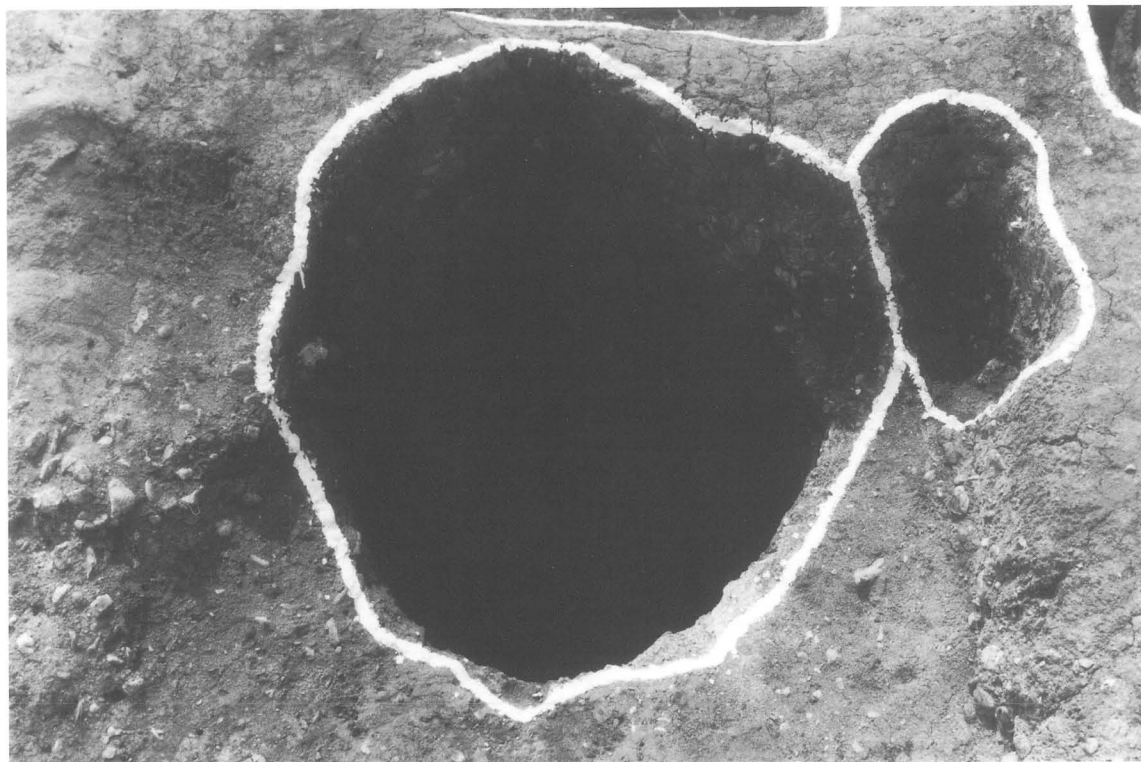
図版10



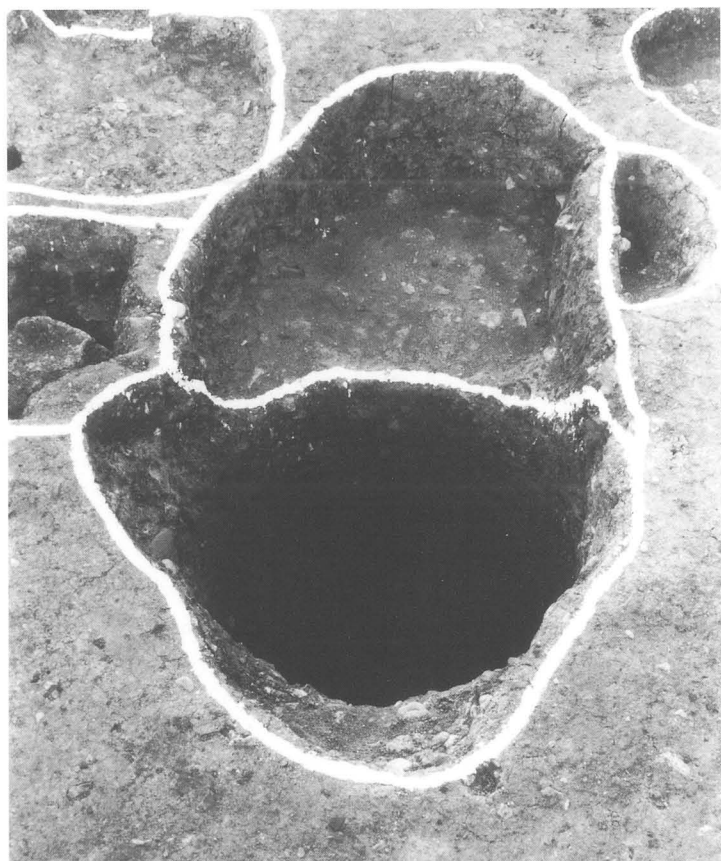
1. 井戸6 北より



2. 井戸7 南より



1. 井戸8 東より



2. 井戸9 東より

図版12



1. 竈 北より



2. 竈 西より

図版13



1. 竈内部 東より



2. 竈内部 西より

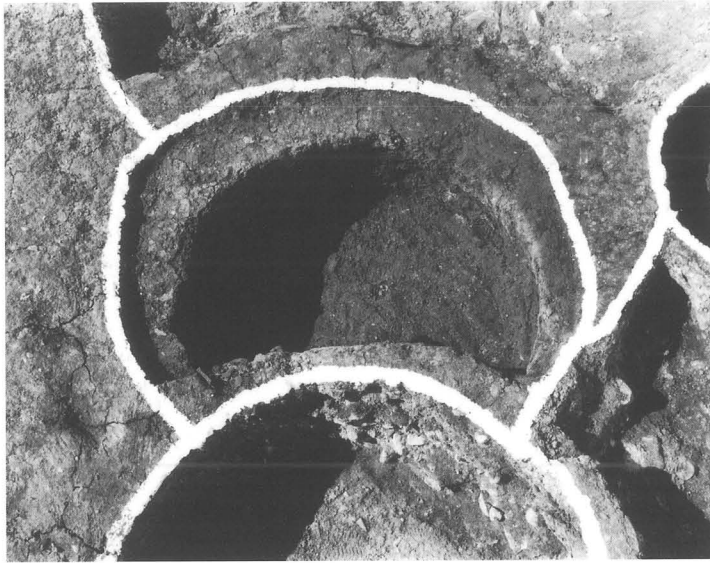


3. 竈内部 東より

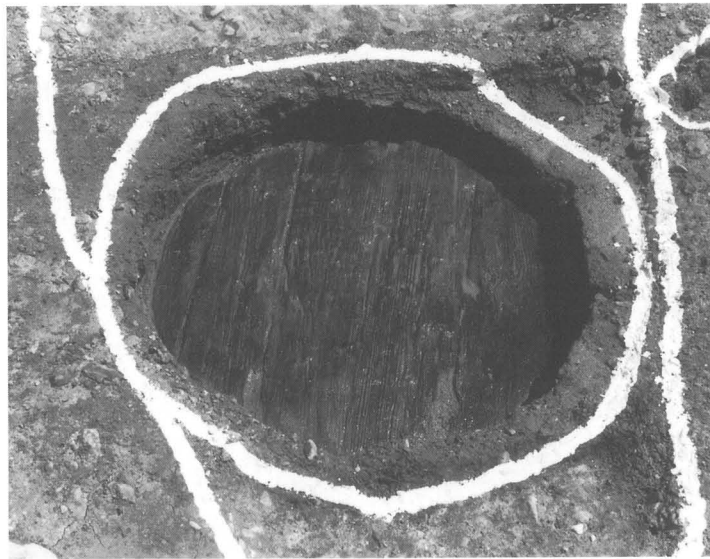
図版14



1. 埋桶1 北より

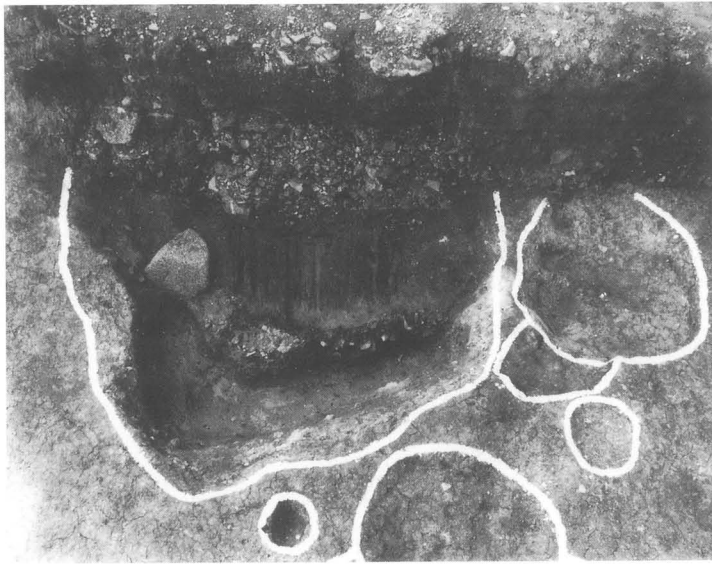


2. 埋桶2 南より

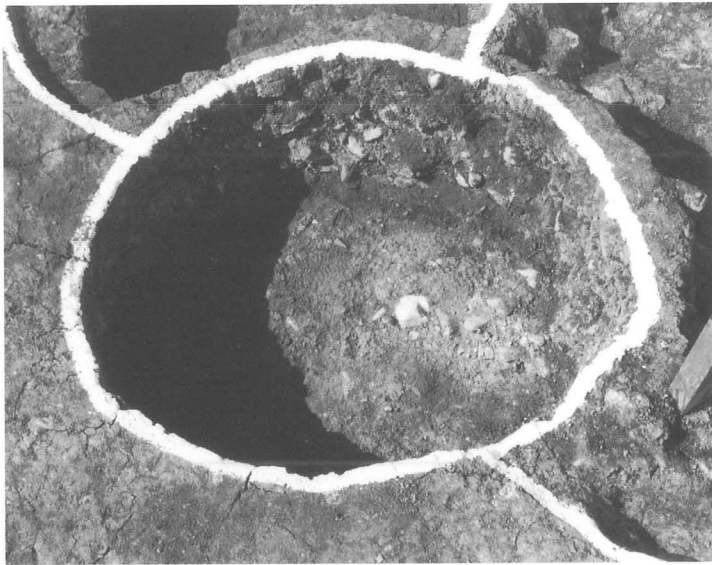


3. 埋桶3 西より

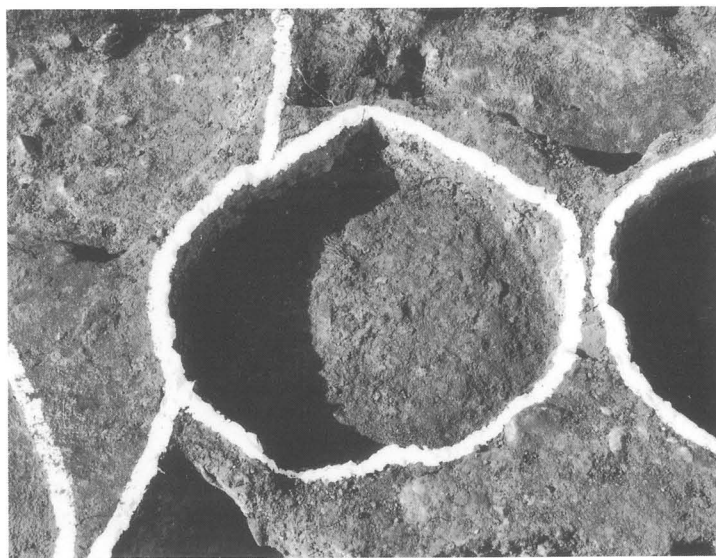
図版15



1. 埋桶 4 東より

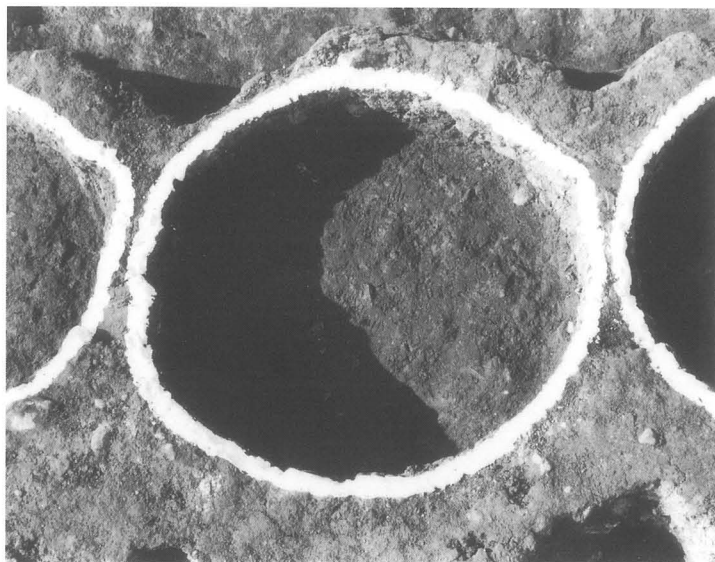


2. 埋桶 5 南より

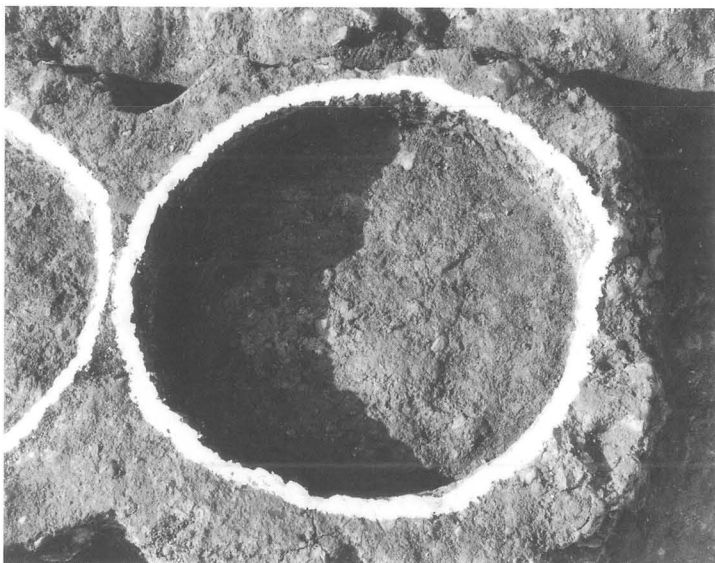


3. 埋桶 6 南より

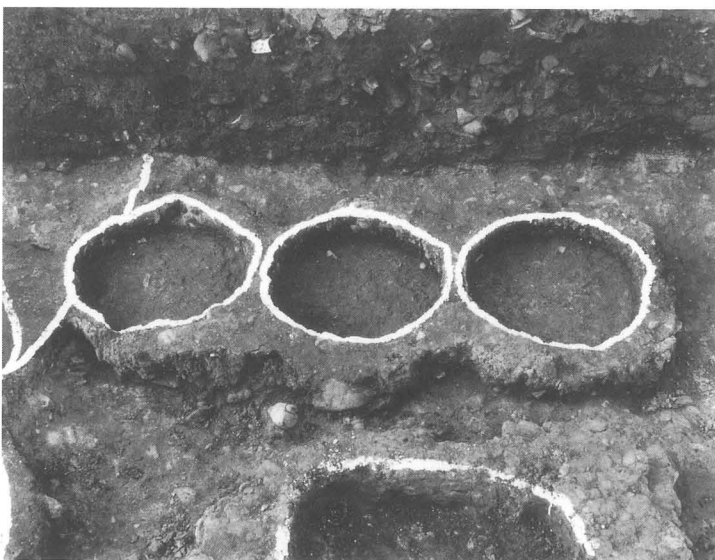
図版16



1. 埋桶7 南より



2. 埋桶8 南より

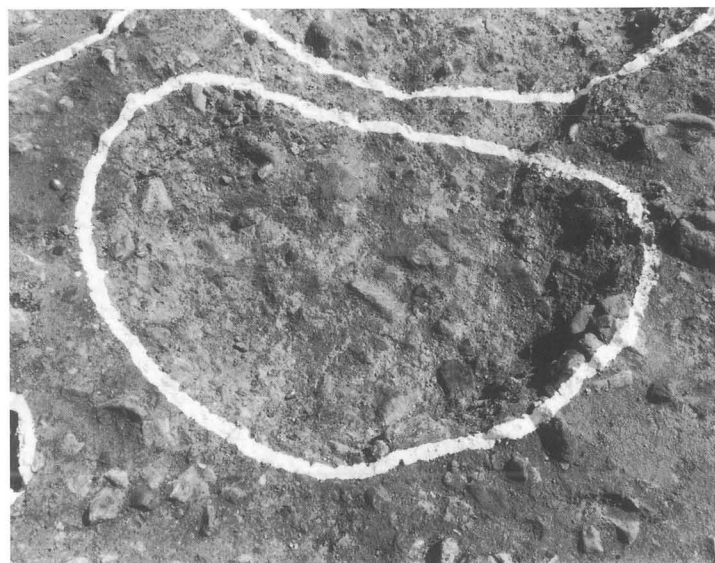


3. 埋桶6・7・8 南より

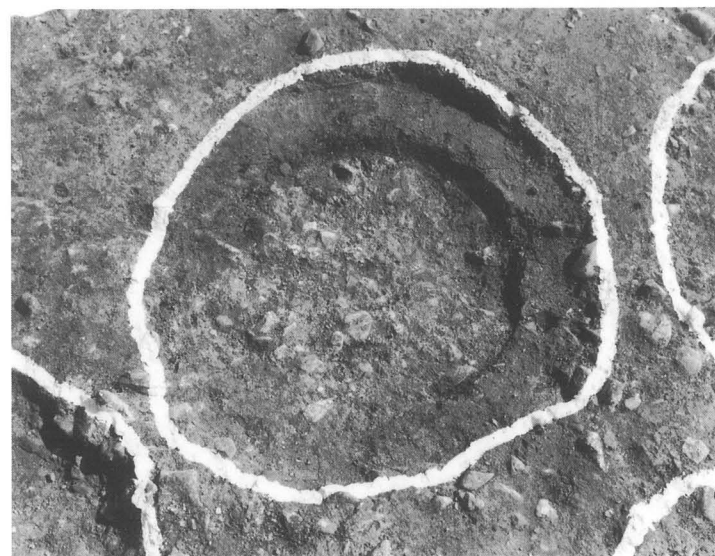
図版17



1. 埋桶9 北より

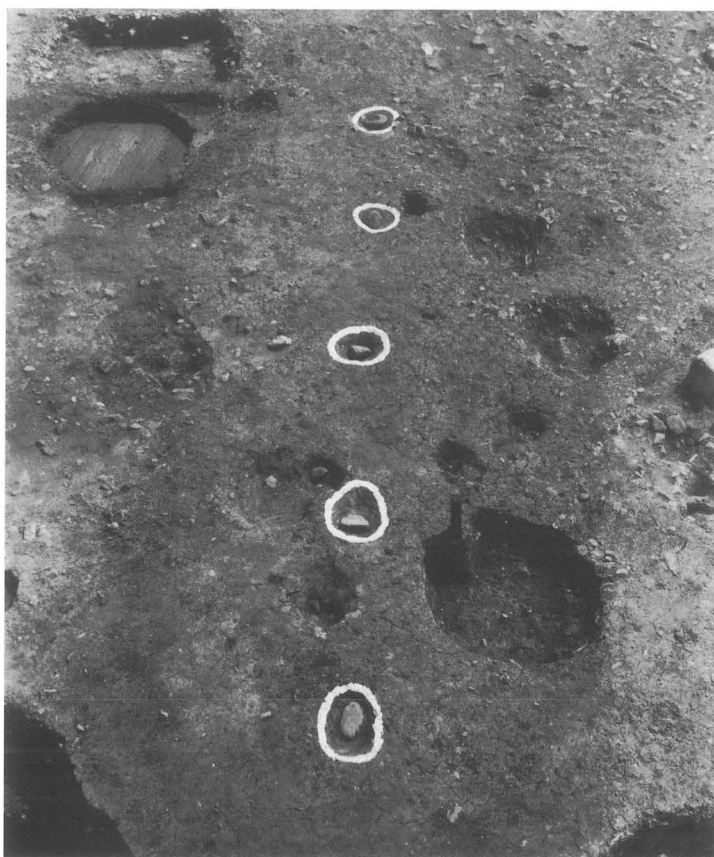


2. 埋桶11 北より

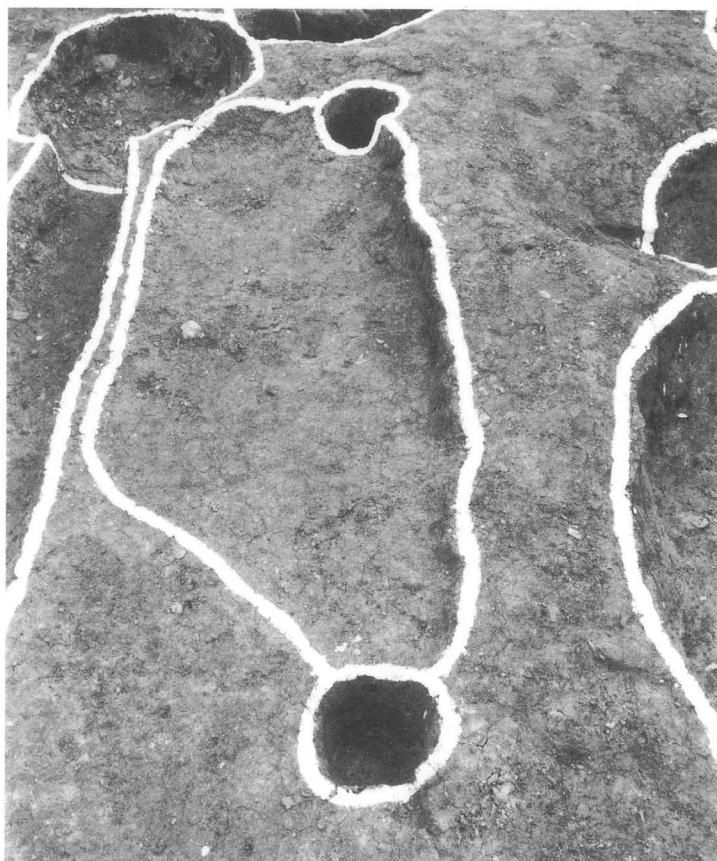


3. 埋桶12 北より

図版18

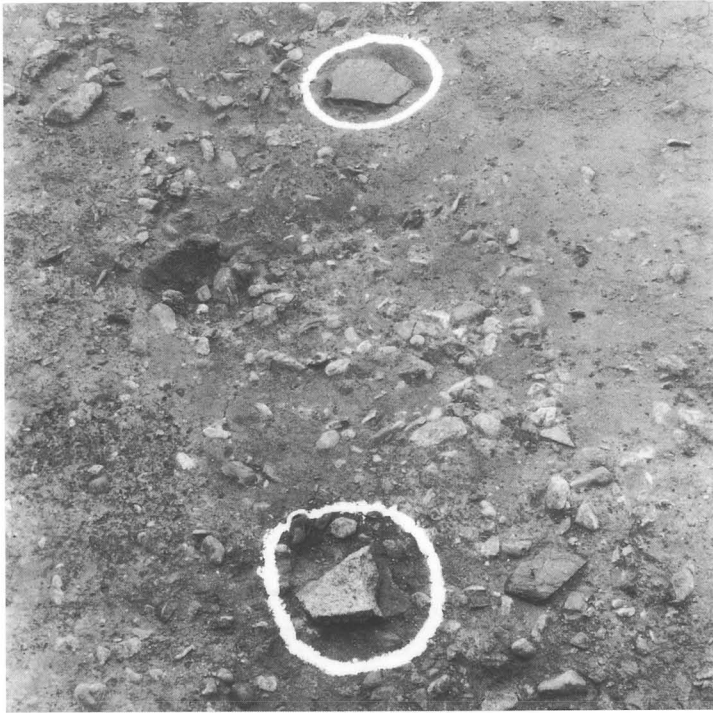


1. 礎石列1 西より

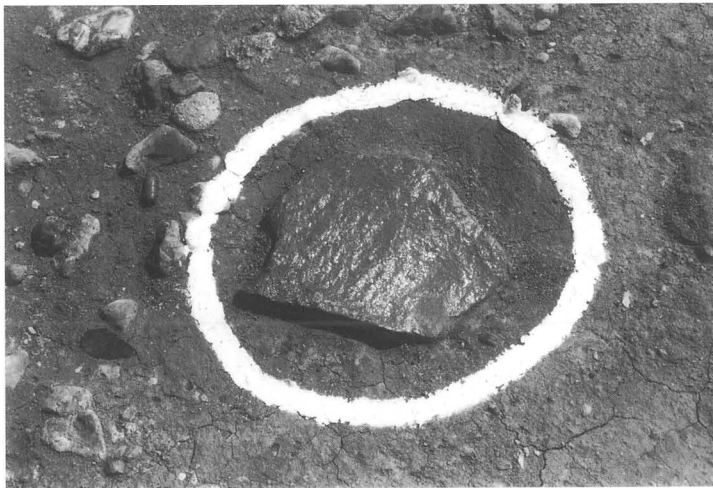


2. 柱穴 北より

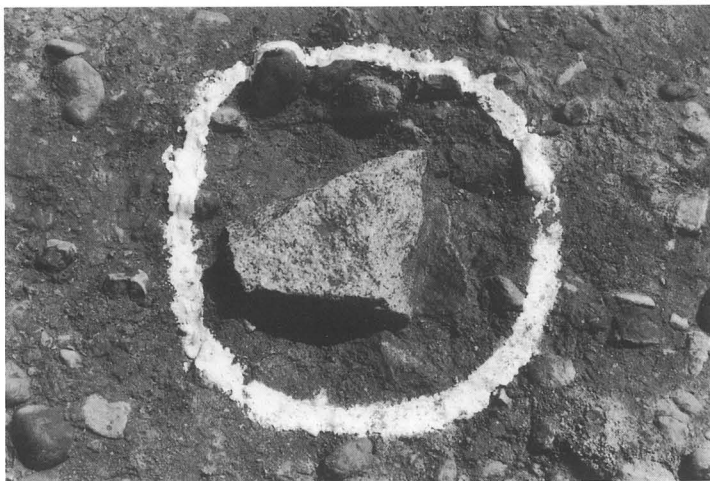
図版19



1. 礎石列2 北より

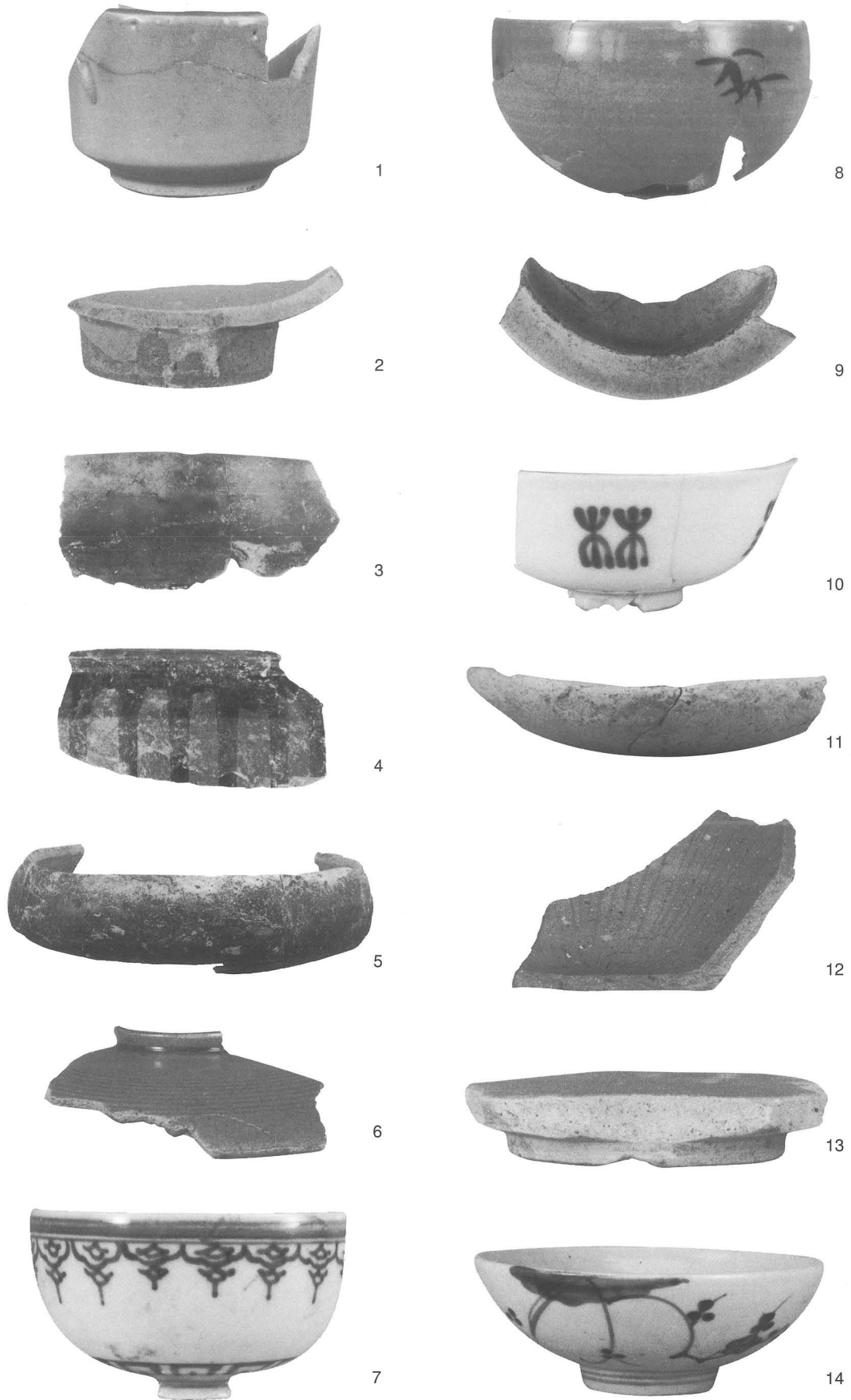


2. P3 北より



3. P10 北より

图版20



出土遺物 (1) 土坑4 (1) 土坑5 (2) 土坑13 (3·4) 土坑18 (5) 土坑16 (6·7)
土坑23 (8) 土坑29 (9·10) 土坑34 (11·12) 土坑35 (13·14)

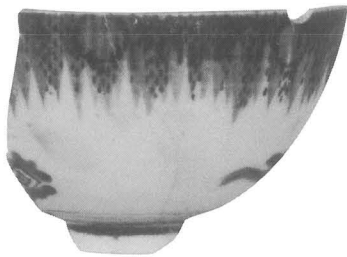
图版21



15



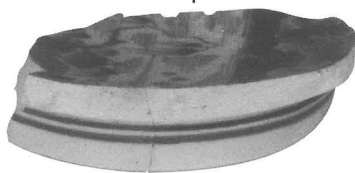
16



17



18



19



20



22



23



24



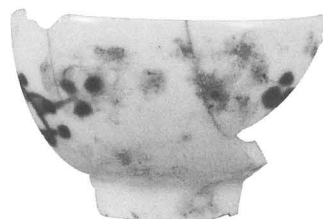
25



26



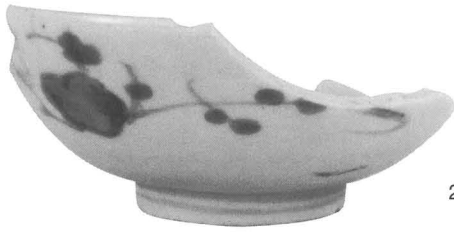
27



28

出土遺物 (2) 土坑35 (15~20・22) 土坑47 (23・24) 土坑53 (25~28)

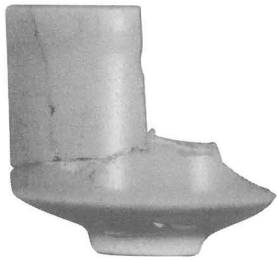
图版22



29



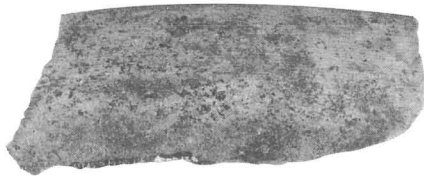
35



30



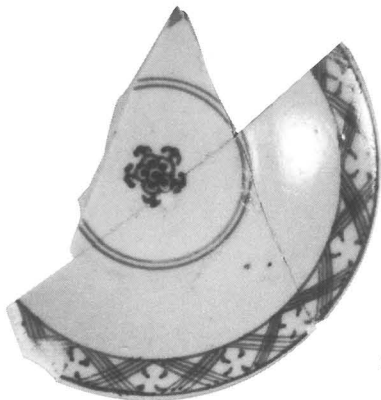
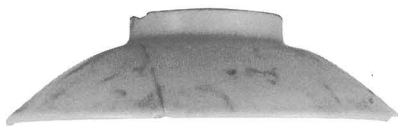
36



31



37



32



38



39

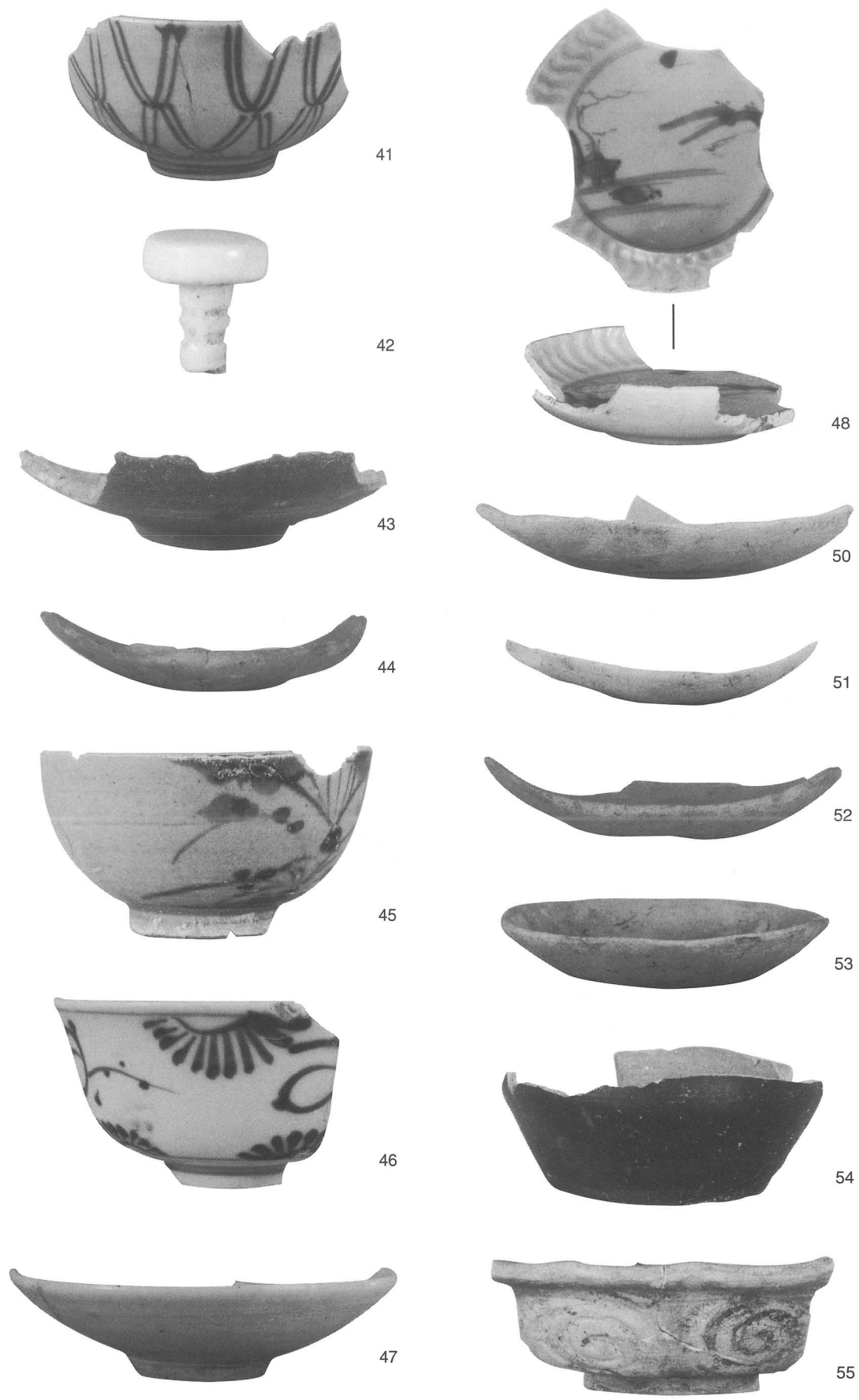


34



40

出土遺物 (3) 土坑53 (29・30) 土坑55 (31~39) 土坑56 (40)



出土遺物 (4) 土坑57 (41) 土坑60 (42) 土坑62 (43) 土坑63 (44~48)
土坑65 (49~55)

图版24



56



63



57



64



58



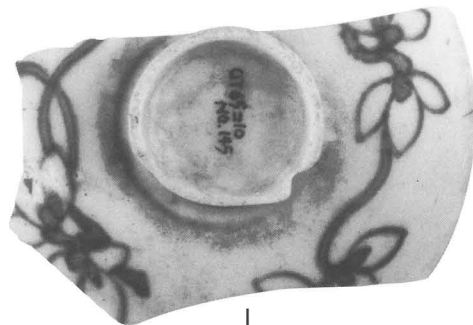
60



65



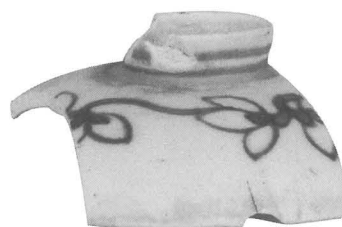
61



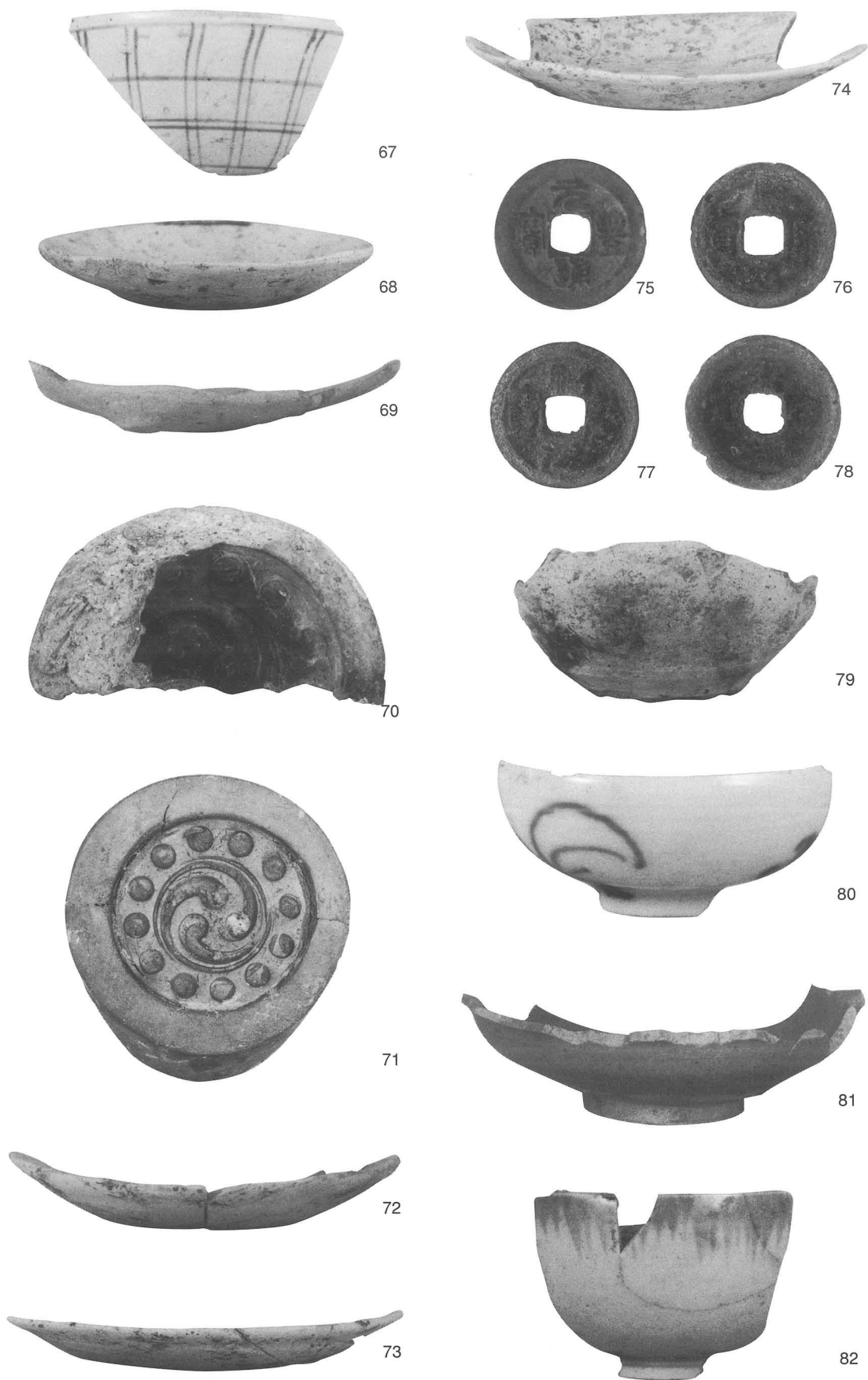
66



62



出土遺物 (5) 土坑65 (56~58) 土坑67 (60~62) 土坑73 (63)
土坑74 (65・66) 土坑87 (64)



出土遺物 (6) 土坑94 (67) 土坑84 (68) 土坑97 (69・70) 土坑125 (71)
土坑131 (72~78) 溝6 (79~82)

図版26



83



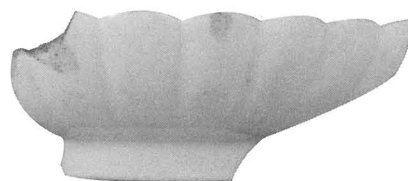
87



84



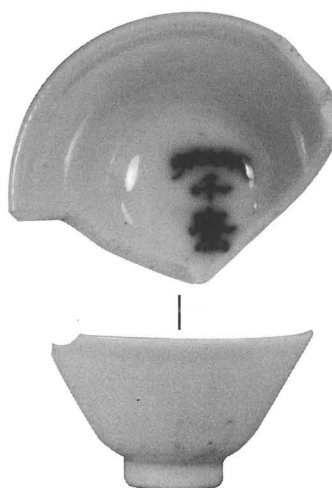
88



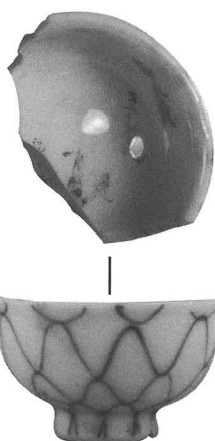
89



85



90



86

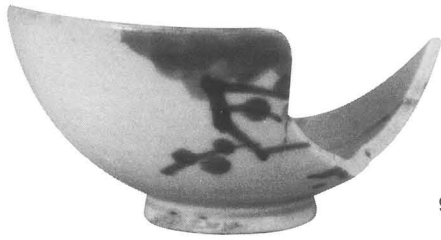


91



92

出土遺物 (7) 溝5 (83・84) 井戸2 (85・86) 井戸6 (87~92)



93



99



94



100



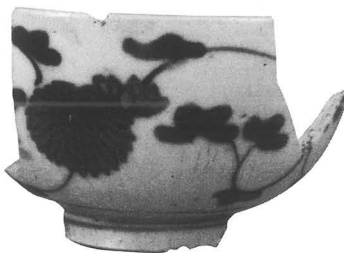
95



101



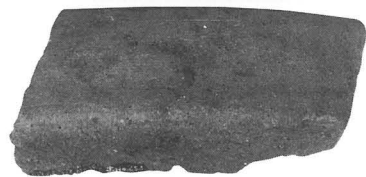
102



96



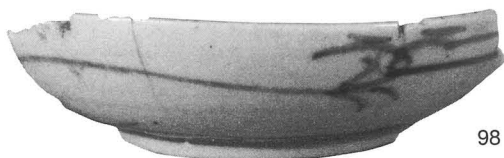
103



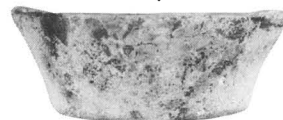
104



97



98



105

図版28



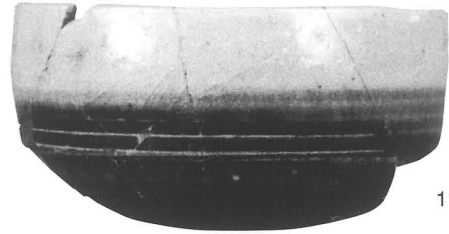
106



112



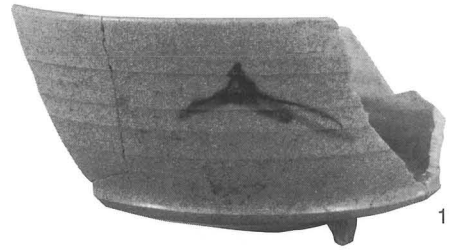
107



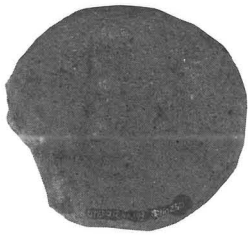
113



108



114



109



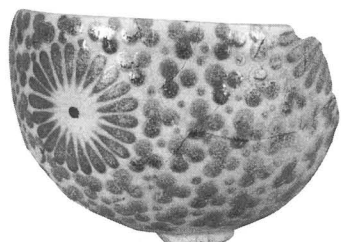
115



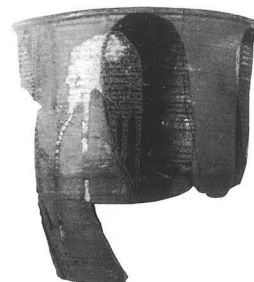
110



116



111



118



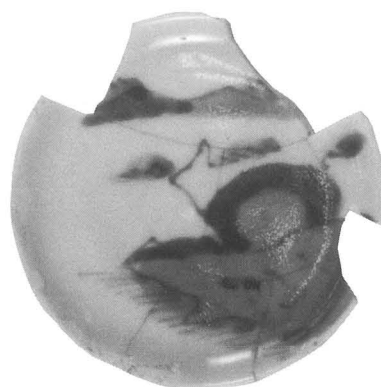
120



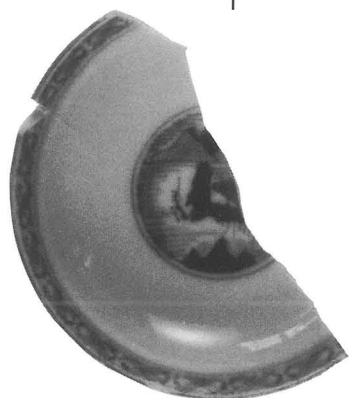
126



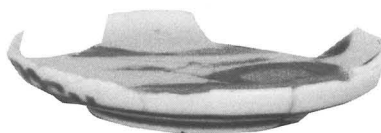
121



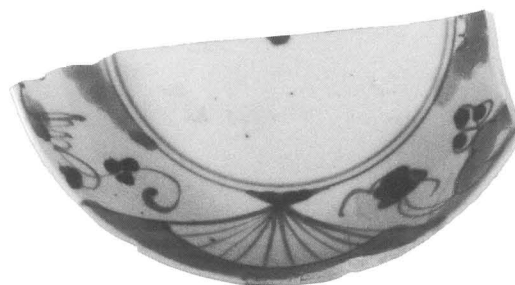
127



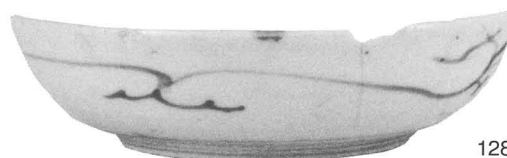
123



124

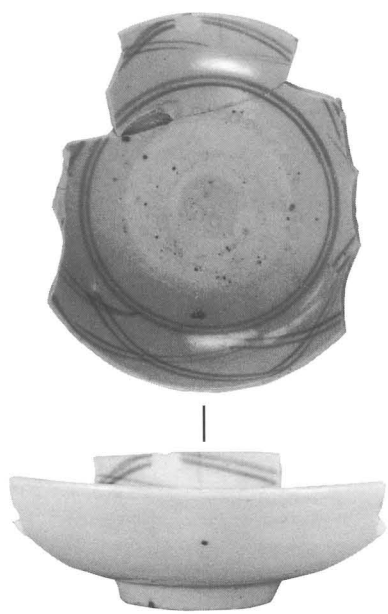


125



128

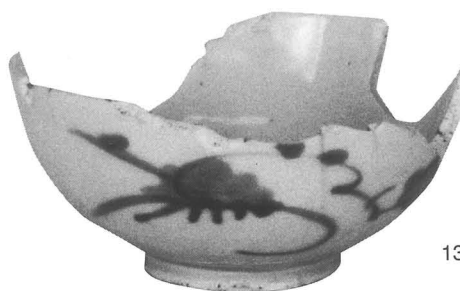
図版30



129



134



135



130



136



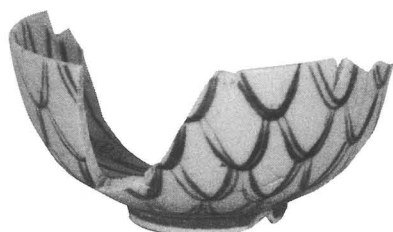
131



137



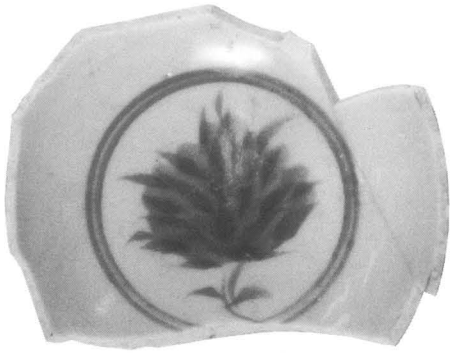
132



133



138



139



140



141



142



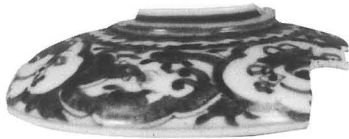
143



144



145



146



147

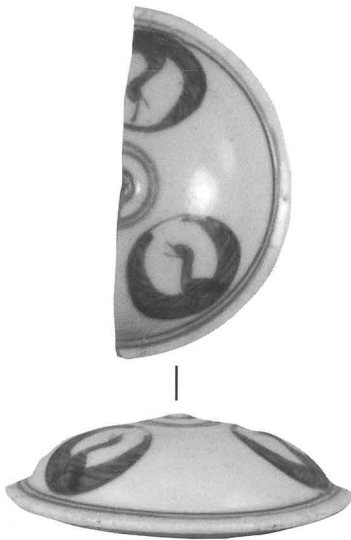
图版32



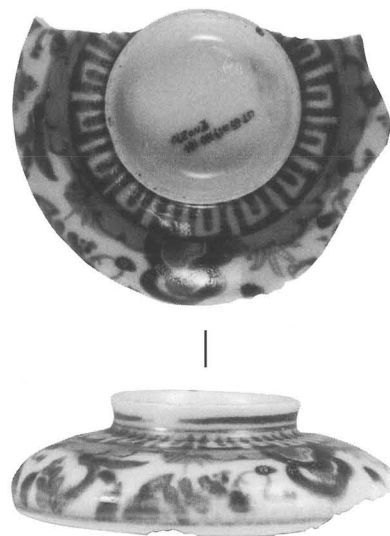
148



151



149



152



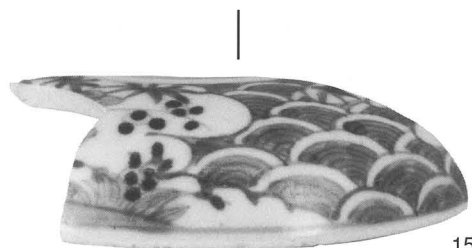
150



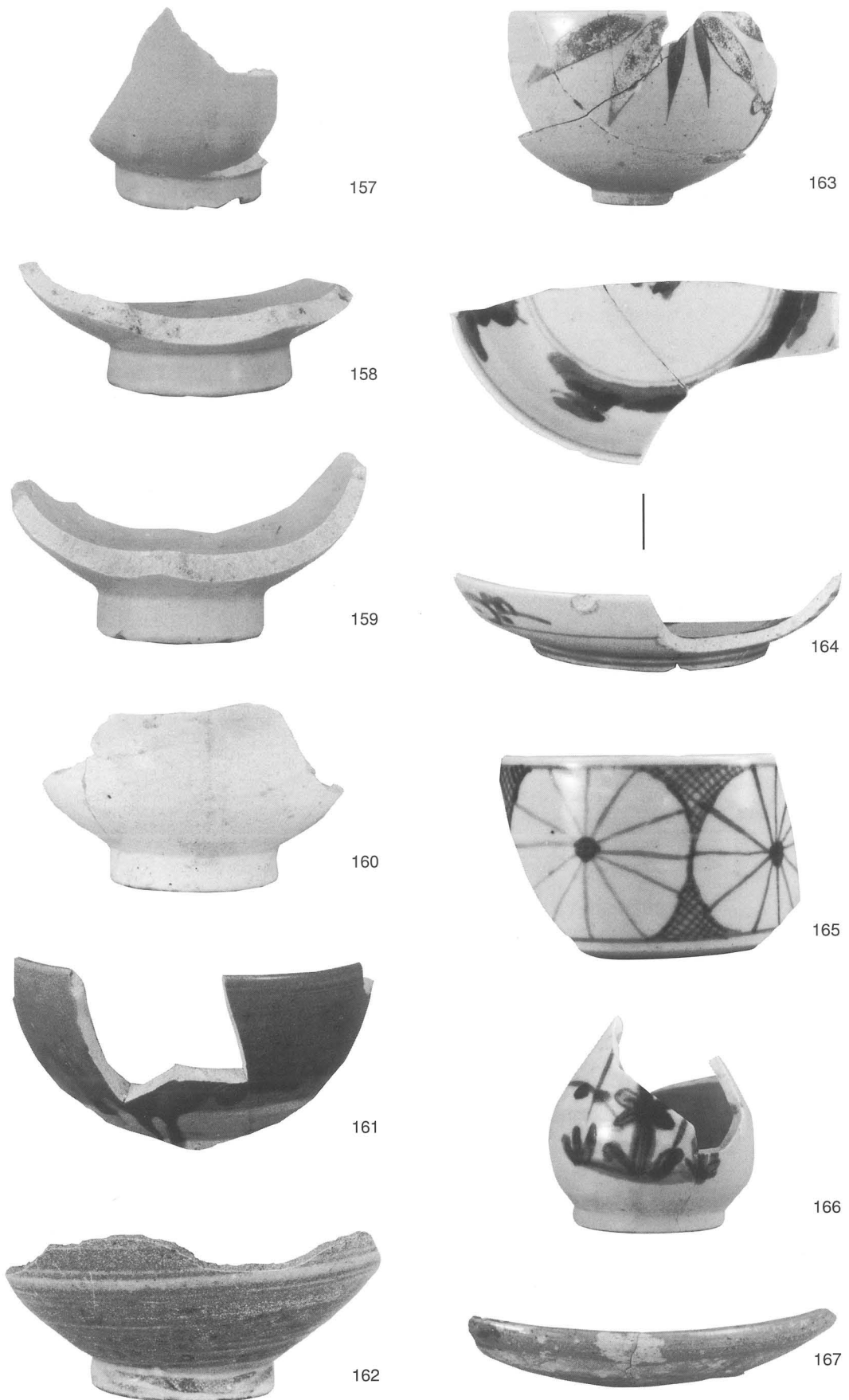
153



154



155



出土遺物 (14) 井戸9 (157~166) 井戸10 (167)

図版34



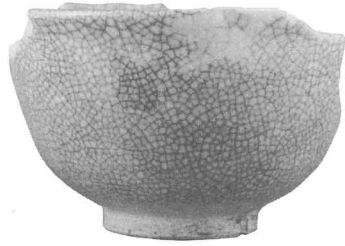
168



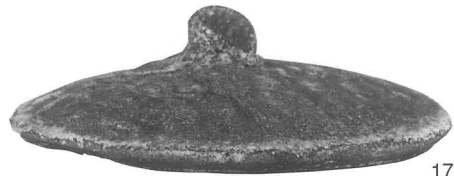
169



170



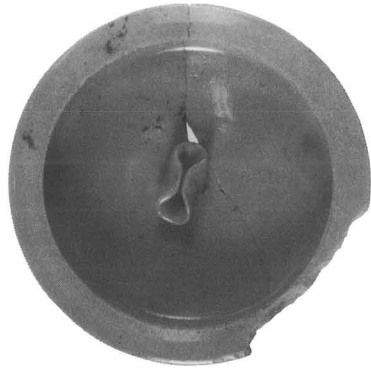
174



175



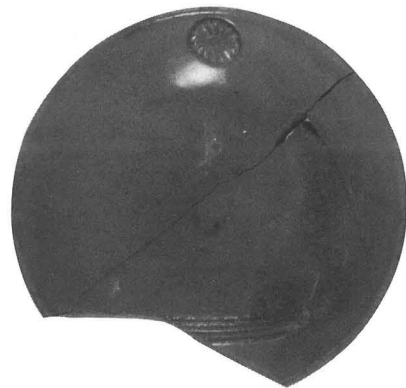
171



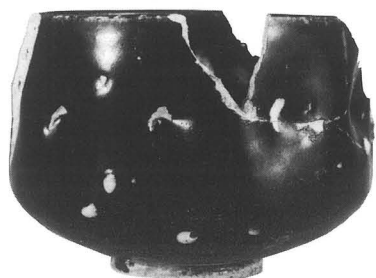
176



172



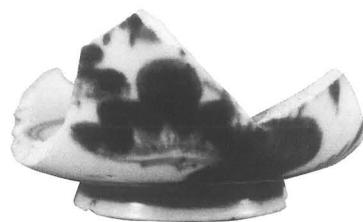
177



173



178



184



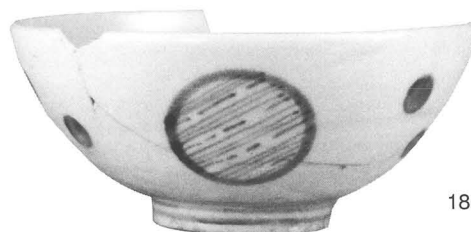
179



185



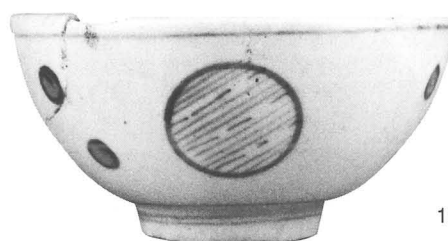
180



186



181



187



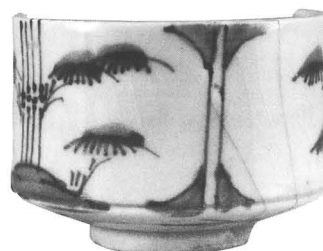
182



188



183



189

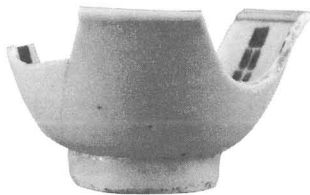
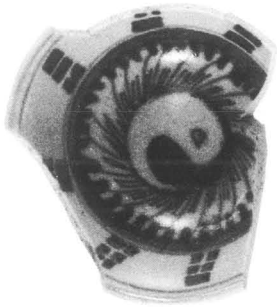
図版36



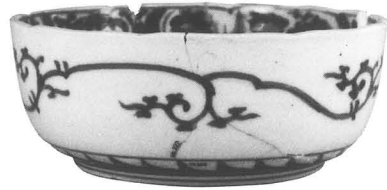
190



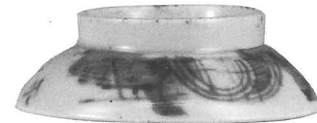
191



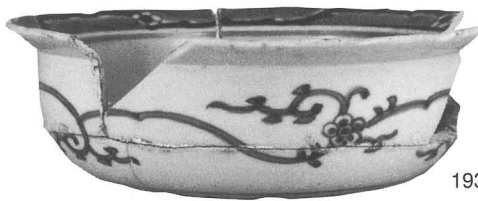
192



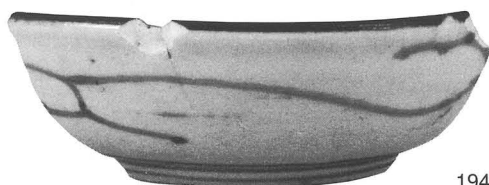
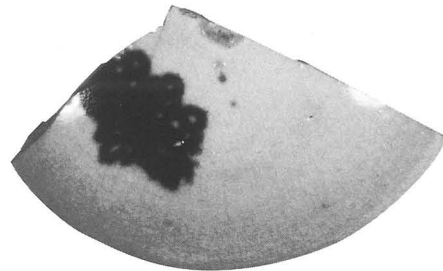
195



196



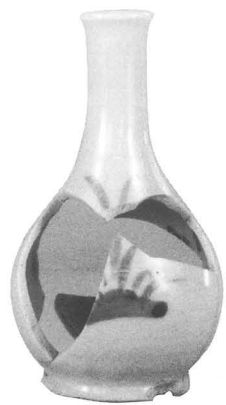
193



194



197



198



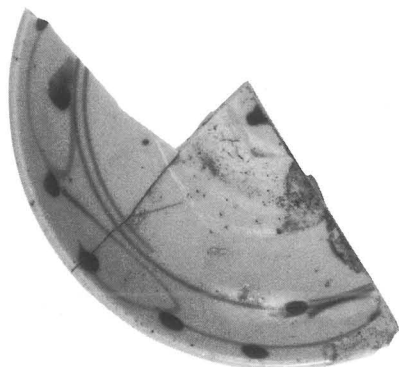
203



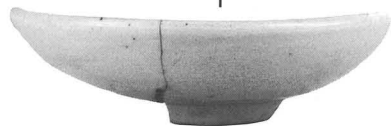
204



199



205



200



206



201



202



207

出土遺物 (18) 井戸10 (198~201) 竈 (202~206) 埋桶1 (207)

図版38



208



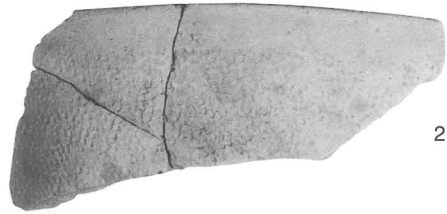
214



215



209



216



210



217



211



218



212



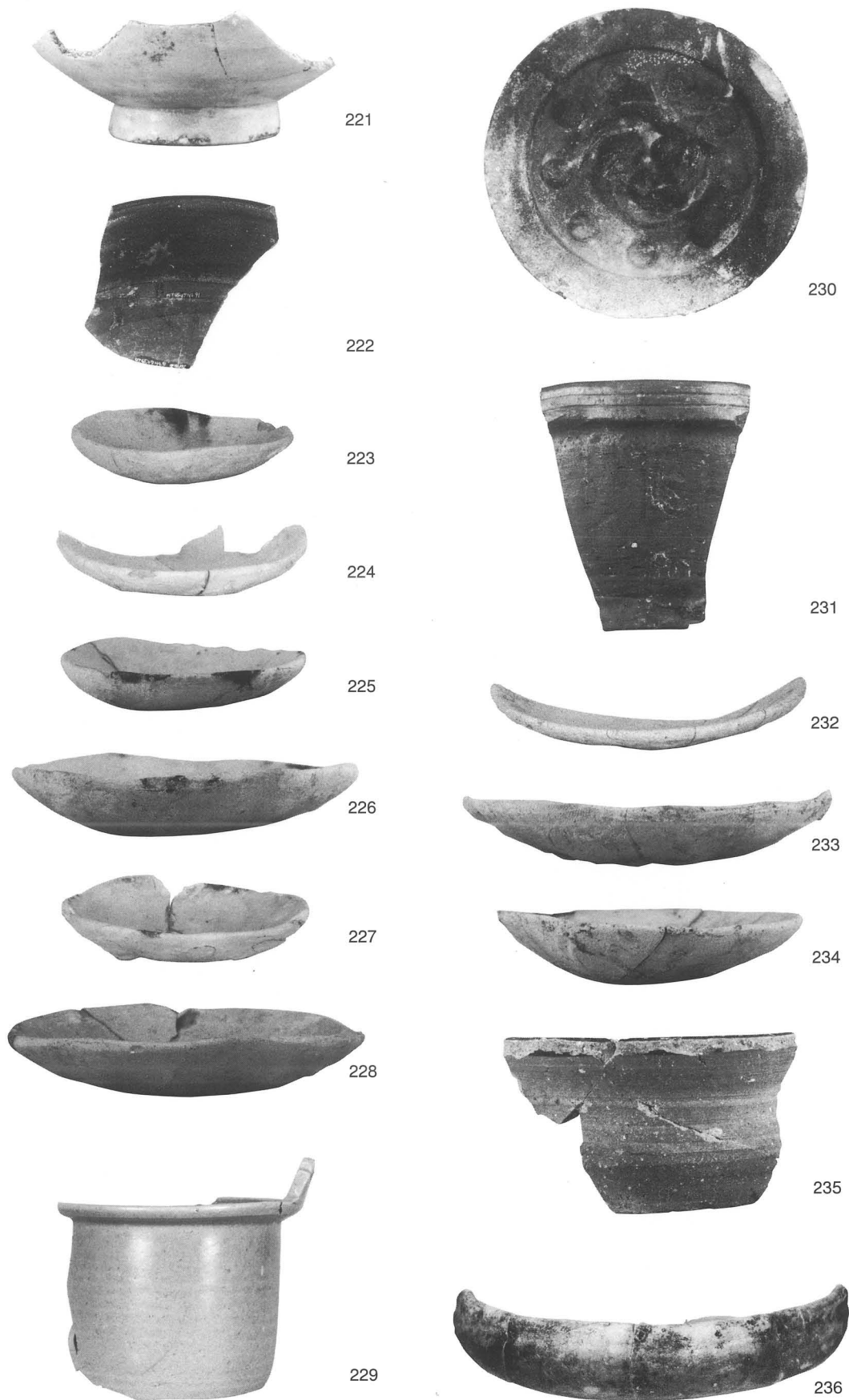
219



213

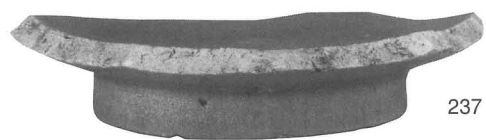


220

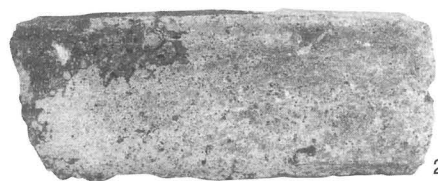


出土遺物 (20) 埋桶 2 (221・222) 埋桶 3 (223~231) 埋桶 4 (232~236)

図版40



237



245



238



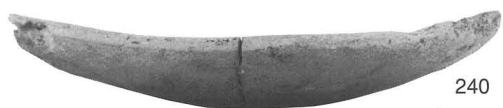
246



239



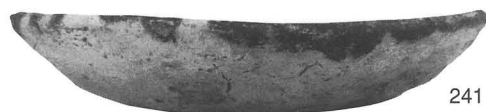
247



240



248



241



249



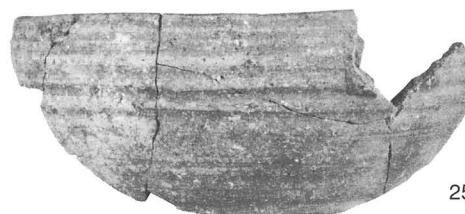
242



250



243



251



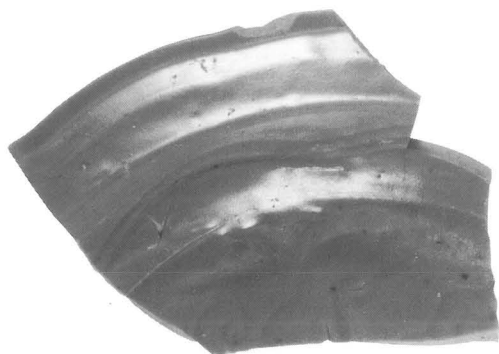
244



252



256



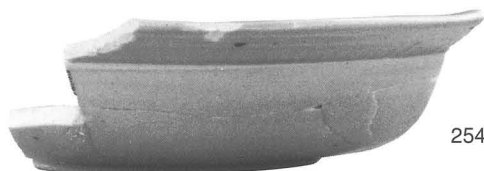
254



257



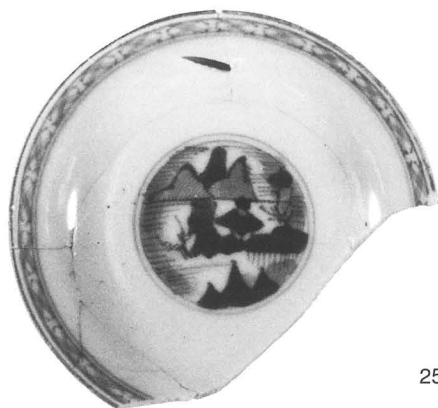
258



259



260

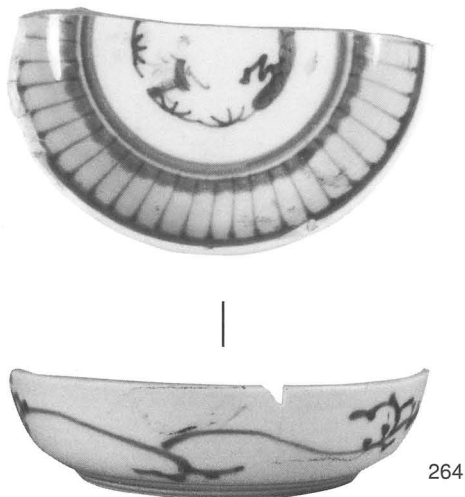
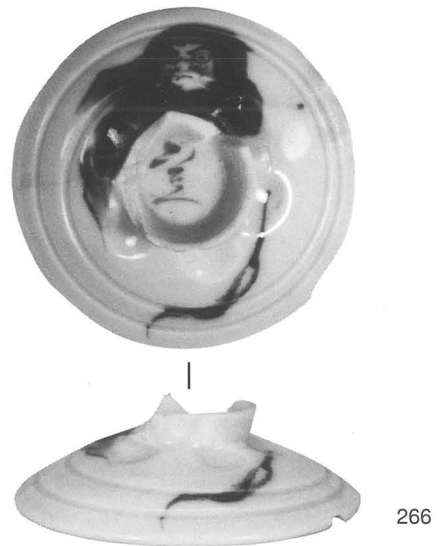
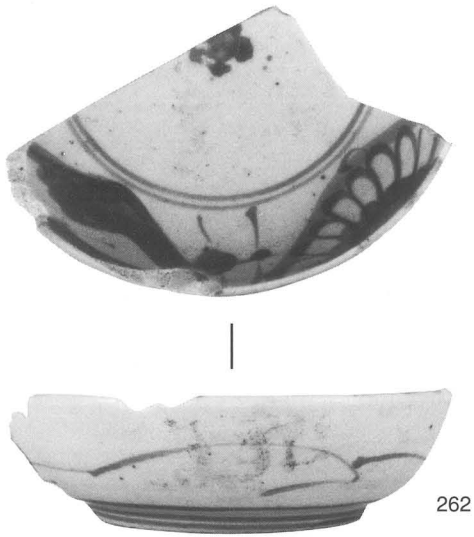


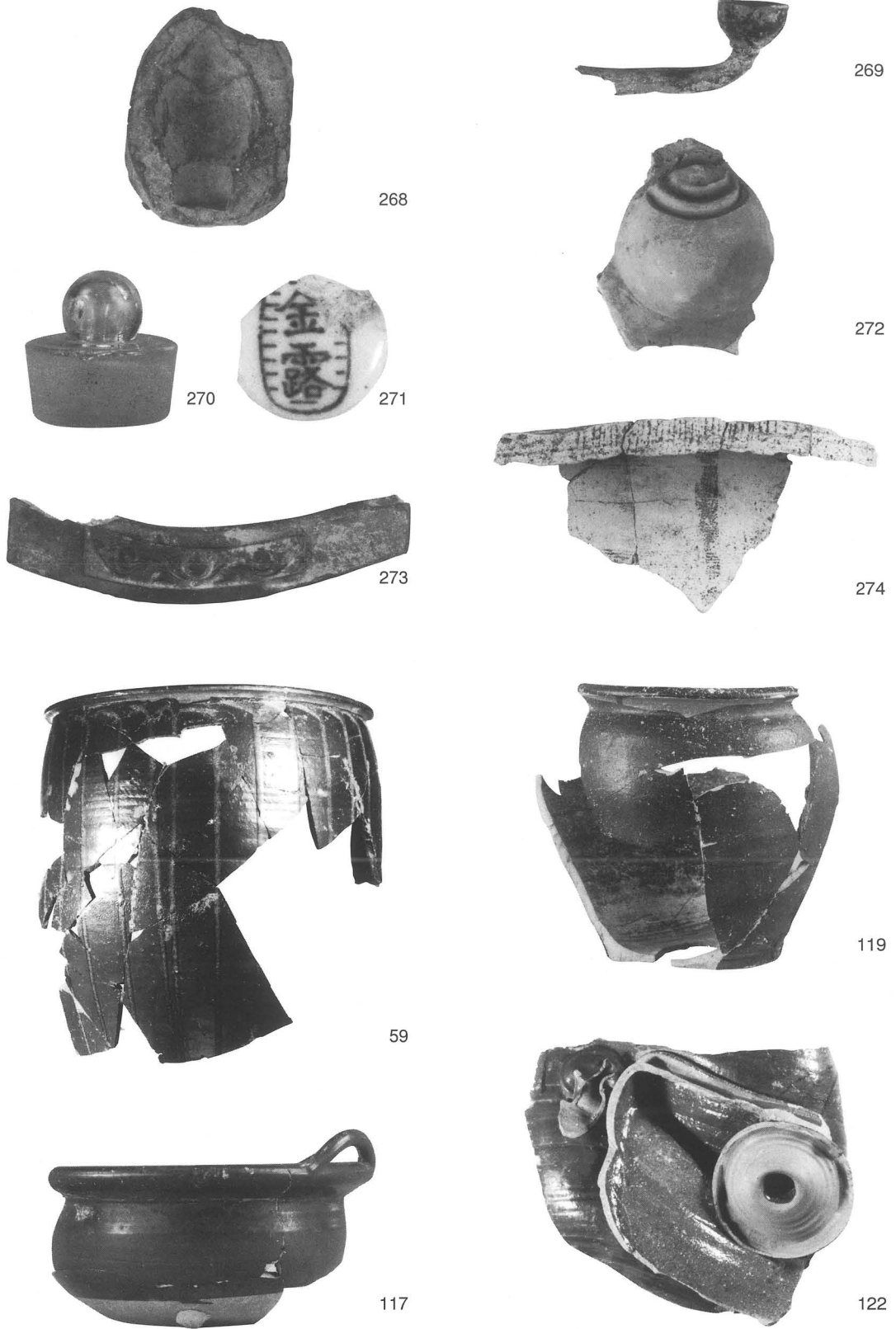
255



261

図版42





出土遺物 (24) 遺構外 (268~274) 土坑70 (59) 井戸 8 (117・119・122)

伊丹市埋蔵文化財調査報告書第27集
有岡城跡発掘調査報告書 XI

－第65次調査－

2003年3月

発 行 伊丹市教育委員会
兵庫県伊丹市千僧1丁目
TEL 072-783-1234

印 刷 関西成光株式会社

